



## 参照 Virtual Desktop Service

NetApp  
July 19, 2022

This PDF was generated from [https://docs.netapp.com/ja-jp/virtual-desktop-service/Reference.Release\\_Notes.vds\\_v6.0\\_release\\_notes.html](https://docs.netapp.com/ja-jp/virtual-desktop-service/Reference.Release_Notes.vds_v6.0_release_notes.html) on July 19, 2022. Always check docs.netapp.com for the latest.

# 目次

参照 .....	1
リリースノート .....	1
エンドユーザーの要件 .....	79
VDS 環境の変更 .....	85
スクリプトライブラリのドキュメント .....	86
詳細設定 .....	107

# 参照

## リリースノート

### Virtual Desktop Service – v6.0 リリースノート

#### VDS V6 リリース：Thurs、4月2022年2月28日

コンポーネント：\_仮想デスクトップサービス v6\_ 次の場合：\_木曜日 4月28日午後10時～午後11時に2022年に Eastern\_Impact：\_エンドユーザ向けのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

#### Virtual Desktop Service の略

- さまざまな予防的セキュリティ強化機能とバグ修正

#### VDS V6 リリース：Thurs、4月2022年14月

コンポーネント：\_仮想デスクトップサービス v6\_ 次の場合：\_次の場合：2022年4月14日（木）午後10時～午後11時にイースタン\_インパクト：\_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

#### Virtual Desktop Service の略

- さまざまな予防的セキュリティ強化機能とバグ修正

#### VDS V6 リリース：3月2022年3月31日

コンポーネント：\_仮想デスクトップサービス v6\_ 次の場合：\_木曜日の2022年3月31日午後10時～午後11時 East\_Impact：\_エンドユーザ向けのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

#### Virtual Desktop Service の略

- さまざまな予防的セキュリティ強化機能とバグ修正

#### VDS V6 リリース：3月2022年、17日

\_コンポーネント：\_仮想デスクトップサービス v6\_ 次の場合：\_次の場合：2022年3月17日（木）午後10時～午後11時にイースタン\_インパクト：\_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

#### Virtual Desktop Service の略

- さまざまな予防的セキュリティ強化機能とバグ修正

#### VDS V6 リリース：3月3、2022

\_コンポーネント：\_仮想デスクトップサービス v6\_ 次の場合：\_次の場合：\_2022年3月3日（木）午後10時～午後11時にイースタン\_インパクト：\_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサー

ビスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

#### Virtual Desktop Service の略

- ・ サーバーに接続機能を使用した後でサーバーから切断するときの操作性が向上しました
- ・ さまざまな予防的セキュリティ強化機能とバグ修正

#### VDS V6 リリース： 2022 年 2 月 17 日（木）

コンポーネント： 仮想デスクトップサービス v6 次の場合： 木曜日 2 月 17 日午後 10 時～午後 11 時に 2022 東部 影響： エンドユーザ向けのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

#### Virtual Desktop Service の略

- ・ アプリケーションインスタンスが導入され、同じソフトウェアの異なるバージョンやエディションの管理が改善されました
- ・ さまざまな予防的セキュリティ強化機能とバグ修正

#### VDS V6 リリース： 2022 年 2 月 3 日木曜日

コンポーネント： 仮想デスクトップサービス v6 次の場合： 木曜日 2 月 3 日午後 10 時～午後 11 時（Eastern Impact）： エンドユーザ向けのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

#### Virtual Desktop Service の略

- ・ VDM のプロファイルローミング検索機能の強化
- ・ さまざまな予防的セキュリティとパフォーマンスの強化

#### VDS V6 リリース： 2022 年 1 月 20 日木曜日

コンポーネント： 仮想デスクトップサービス v6 次の場合： 次の場合： 2022 年 1 月 20 日（木）午後 10 時～午後 11 時（東部標準時）： エンドユーザ向けのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

#### Virtual Desktop Service の略

- ・ Azure コスト試算ツール（ACE）を使用したリンクリダイレクト問題のバグ修正
- ・ さまざまな予防的セキュリティとパフォーマンスの強化

#### VDS V6 リリース： 2022 年 1 月 6 日木曜日

コンポーネント： 仮想デスクトップサービス v6 次の場合： 次の場合： 2022 年 1 月 6 日（木）午後 10 時～午後 11 時にイースタン インパクト： エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

#### Virtual Desktop Service の略

- ・ パートナーとサブパートナーの両方について、セルフサービスパスワードリセットレポートを紹介します

- ・ 導入プロセスの開始時に、一意な Azure 承認問題のバグ修正。

## **VDS V6 リリース： 2021 年 12 月 16 日木曜日**

\_コンポーネント：\_仮想デスクトップサービス v6\_ 実行時間： 2021 年 12 月 16 日（木）午後 10 時から午後 11 時まで：\_影響：\_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

### **Virtual Desktop Service の略**

- ・ プライマリ SMS プロバイダが利用できない場合の MFA に対するセカンダリ SMS メッセージ送信の改善
- ・ VDS Client for Windows で使用される証明書を更新します

## **VDS V6 リリース： 2021 年 12 月 2 日木曜日 - 変更予定なし**

コンポーネント：\_仮想デスクトップサービス v6\_ 実行時間： 2021 年 12 月 2 日（木）午後 10 時 ~ 午後 11 時の Eastern \_Impact：\_None

## **VDS V6 ホットフィックス： 2021 年 11 月 18 日木曜日**

\_コンポーネント：\_仮想デスクトップサービス v6\_ 実行時： 2021 年 11 月 18 日（木）午後 10 時から午後 11 時まで：\_影響：\_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

### **Virtual Desktop Service の略**

- ・ AAD が AADDS に基づいている PAM 問題のバグ修正

## **VDS V6 ホットフィックス： 2021 年 11 月 8 日月曜日**

\_コンポーネント：\_仮想デスクトップサービス v6\_ 実行時間： 2021 年 11 月 8 日（月）午後 10 時から午後 11 時までの東部影響：\_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

### **Virtual Desktop Service の略**

- ・ すべてのユーザーの VDS UI でチャットボックスを有効にします
- ・ バグ修正を使用して、展開の選択を一意に組み合わせます

## **VDS V6 リリース： 2021 年 11 月 7 日（日）**

\_コンポーネント：\_仮想デスクトップサービス v6\_ 実行時：\_2021 年 11 月 7 日（日曜日）午後 10 時 ~ 午後 11 時にイースタン \_インパクト：\_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

### **Virtual Desktop Service の略**

- ・ FSLogix プロファイルの自動縮小を無効にする Command Center オプションを導入します
- ・ 導入環境で Azure Active Directory Domain Services （AADDS）を利用している場合の PAM のバグ修正
- ・ さまざまな予防的セキュリティとパフォーマンスの強化

- 様々な地域で利用可能な最新のサービス

#### VDS V6 リリース：2021 年 10 月 21 日木曜日

\_コンポーネント：\_仮想デスクトップサービス v6\_ 実行時間：2021 年 10 月 21 日（木）午後 10 時～午後 11 時にイースタン\_インパクト：\_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

##### Virtual Desktop Service の略

- FSLogix プロファイルの自動縮小を無効にする Command Center オプションを導入します
- FSLogix プロファイルがマウントされている場所を示す夜間レポートの改善
- Azure US South Central リージョンの CWMGR1（プラットフォーム VM）に使用されているデフォルトの VM シリーズ / サイズを D2S v4 に更新します

#### VDS V6 リリース：2021 年 10 月 7 日木曜日

\_コンポーネント：\_仮想デスクトップサービス v6\_ 実行時：2021 年 10 月 7 日（木）午後 10 時～午後 11 時（Eastern\_Impact）：\_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

##### Virtual Desktop Service の略

- 特定のプロビジョニングコレクション構成が正しく保存されなかったシナリオのバグ修正

#### VDS V6 リリース：2021 年 9 月 23 日木曜日

\_コンポーネント：\_仮想デスクトップサービス v6\_ 実行時：2021 年 9 月 23 日（木）午後 10 時～午後 11 時にイースタン\_インパクト：\_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

##### Virtual Desktop Service の略

- PAM にアップデートして AADDS ベースの展開と統合します
- AVD 以外の展開では、Workspace モジュールに RemoteApp URL を表示します
- エンドユーザを特定のオンプレミス Active Directory 構成の管理者にするシナリオのバグ修正

#### VDS V6 リリース：2021 年 9 月 9 日木曜日

\_コンポーネント：\_仮想デスクトップサービス v6\_ 実行時：2021 年 9 月 9 日（木）午後 10 時～午後 11 時にイースタン\_インパクト：\_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

##### Virtual Desktop Service の略

- さまざまな予防的セキュリティとパフォーマンスの強化

## **VDS V6 リリース：2021 年 8 月 26 日木曜日**

\_コンポーネント：\_仮想デスクトップサービス v6\_ 実行時：2021 年 8 月 26 日（木）午後 10 時～午後 11 時にイースタン\_インパクト：\_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

### **Virtual Desktop Service の略**

- VDS 管理 UI へのアクセスが許可された場合は、ユーザのデスクトップに配置された URL に更新します

## **VDS V6 リリース：2021 年 8 月 12 日木曜日**

\_コンポーネント：\_仮想デスクトップサービス v6\_ 実行時：2021 年 8 月 12 日（木）午後 10 時～午後 11 時にイースタン\_インパクト：\_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

### **Virtual Desktop Service の略**

- Cloud Insights の機能とコンテキストの機能拡張
- バックアップスケジュールの頻度処理が改善されました
- バグ修正 - サービスの再起動時に CwVmAutomation サービスの設定を確認する問題を解決します
- バグ修正 - 特定のシナリオで設定を保存できなかった DCConifg の問題を解決します
- さまざまな予防的セキュリティとパフォーマンスの強化

## **VDS V6 ホットフィックス：2021 年 7 月 30 日火曜日**

\_コンポーネント：\_仮想デスクトップサービス v6\_ 実行時間：2021 年 7 月 30 日（金）午後 7 時～午後 8 時（東部標準時）：\_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

### **Virtual Desktop Service の略**

- 自動化を容易にするための導入テンプレートの更新

## **VDS V6 リリース：2021 年 7 月 29 日木曜日**

\_コンポーネント：\_仮想デスクトップサービス v6\_ 実行時間：2021 年 7 月 29 日（木）午後 10 時～午後 11 時（東部標準時）：\_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

### **Virtual Desktop Service の略**

- バグ修正 - CWAagent が意図したとおりにインストールされなかった場合に、問題 for VMware の展開を解決します
- バグ修正 - 問題 for VMware の導入で、データの役割を持つサーバを作成しても意図したとおりに機能しない場合は解決します

## **VDS V6 ホットフィックス：2021 年 7 月 20 日火曜日**

\_コンポーネント：\_仮想デスクトップサービス v6\_ 実行時：2021 年 7 月 20 日（火）午後 10 時～午後 11

時 East\_Impact : \_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

#### Virtual Desktop Service の略

- 問題を修正して、特定の構成において、異常に大量の API トラフィックを発生させます

#### VDS 6.0 リリース : 2021 年 7 月 15 日木曜日

\_Components : \_6.0 Virtual Desktop Service\_When : \_Thursday July 15, 2021 年 7 月 15 日午後 10 時 ~ 午後 11 時 East\_Impact : \_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

#### Virtual Desktop Service の略

- Cloud Insights 統合の機能強化 : ユーザごとのパフォーマンス指標をキャプチャし、ユーザコンテキストで表示します
- ANF プロビジョニング自動化の改善-お客様の Azure テナントにおけるプロバイダとしての NetApp の自動登録が改善されました
- 新しい AVD ワークスペースを作成する際のフレー징の調整
- さまざまな予防的セキュリティとパフォーマンスの強化

#### VDS 6.0 リリース : 2021 年 6 月 24 日木曜日

\_Components : \_6.0 Virtual Desktop Service\_When : \_Thursday June 4th、2021 年 6 月 4 日午後 10 時 ~ 午後 11 時 Eastern\_Impact : \_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。



7 月 4 日ごろに予定を立てていたため、次の VDS リリースは 7 月 7 日 (木曜日) に予定されています。

#### Virtual Desktop Service の略

- Windows Virtual Desktop (WVD) が Azure Virtual Desktop (AVD) になったことを反映した更新
- Excel エクスポートでのユーザー名の書式設定に関するバグ修正
- カスタムブランドの HTML5 ログインページの構成が改善されました
- さまざまな予防的セキュリティとパフォーマンスの強化

#### コスト見積もり担当者

- Windows Virtual Desktop (WVD) が Azure Virtual Desktop (AVD) になったことを反映した更新
- 新しいリージョンで利用できるサービス / GPU VM が増えると、の更新が反映されます

#### VDS 6.0 リリース : 2021 年 6 月 10 日木曜日

\_Components : \_6.0 Virtual Desktop Service\_When : \_Thursday June 10th、2021 年 6 月 10 日午後 10 時 ~ 23:00 Eastern\_Impact : \_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。



## Virtual Desktop Service の略

- VM 用の HTML5 ブラウザベースの追加ゲートウェイ / アクセスポイントが見積もり可能になりました
- ホストプールを削除したあとのユーザーティンギングが改善されました
- 管理対象外のホストプールをインポートするシナリオのバグ修正が想定どおりに機能していません
- さまざまな予防的セキュリティとパフォーマンスの強化

## VDS 6.0 リリース： 2021 年 6 月 10 日木曜日

\_Components : \_6.0 Virtual Desktop Service \_When : \_Thursday June 10、 2021 の午後 10 時の東部  
\_Impact : \_エンドユーザーのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。  
仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

### 技術的な拡張：

- 各 VM にインストールされている .NET Framework のバージョンを v4.7.1 から v4.8.0 に更新します
- ローカルコントロールプレーンチームと他のエンティティの間で https : // および TLS 1.2 以上を使用するバックエンドの追加的な適用
- Command Center の Delete Backup Operation のバグ修正-これで CWMGR1 のタイムゾーンが正しく参照されるようになりました
- Azure ファイル共有から Azure Files 共有に、Command Center アクションの名前を変更します
- Azure Shared Image Gallery の命名規則が更新されました
- 同時ユーザーログイン数の収集が改善されました
- CWMGR1 VM からの発信トラフィックを制限する場合は、CWMGR1 からの発信トラフィックを許可するように更新します
- CWMGR1 からの発信トラフィックを制限しない場合は、ここで更新を行う必要はありません
- CWMGR1 からの発信トラフィックを制限する場合は、vdctoolsapiprimary.azurewebsites.net へのアクセスを許可してください。注： vdctoolsapi.trafficmanager.net へのアクセスを許可する必要はなくなりました。

### 導入の機能拡張：

- サーバ名でカスタムプレフィックスを将来サポートするための基盤を構築します
- Azure 環境でのプロセスの自動化と冗長性の強化
- Google Cloud Platform の導入に関する多数の導入自動化機能の強化
- Google Cloud Platform 環境での Windows Server 2019 のサポート
- Windows 10 20H2 EVD イメージのシナリオのサブセットに対するバグ修正

### サービス提供の強化：

- Cloud Insights との統合により、ユーザーエクスペリエンス、VM、ストレージの各レイヤにストリーミングパフォーマンスデータを提供します
- 最近アクセスした VDS ページにすばやく移動できる機能が導入されました
- Azure 環境のリスト（ユーザ、グループ、サーバ、アプリケーションなど）のロード時間が大幅に短縮さ

れました

- ユーザー、グループ、サーバー、管理者、レポート、 など
- お客様が使用できる VDS MFA メソッドを制御できる機能を紹介します（お客様が希望しているのは E メールと SMS など）
- VDS セルフサービスパスワードリセット電子メール用のカスタマイズ可能な「差出人」フィールドを導入します
- VDS セルフサービスパスワードリセット電子メールのみを指定されたドメインに移動できるようにするオプションが導入されました（会社所有と個人用など）
- アカウントに E メールを追加して MFA またはセルフサービスのパスワードリセットを使用できるようにするためのプロンプトをユーザに表示する更新機能が導入されました
- 停止した導入を開始する場合は、導入環境内のすべての VM も開始します
- パフォーマンスの向上：新しく作成した Azure VM に割り当てる IP アドレスを決定します

## **VDS 6.0 リリース： 2021 年 5 月 27 日木曜日**

\_Components : \_6.0 Virtual Desktop Service\_when : \_Thursday May 27, 2021 の午後 10 時 ~ 午後 11 時  
East\_Impact : \_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

### **Virtual Desktop Service の略**

- AVD ホストプール内のプールされたセッションホストの Connect で開始を導入します
- Cloud Insights の統合により、ユーザのパフォーマンス指標を紹介します
- [サーバー] タブをワークスペースモジュールでより目立つように表示します
- VM が VDS から削除された場合は、Azure バックアップを使用して VM をリストアすることを許可します
- サーバへの接続機能の処理が改善されました
- 証明書を自動的に作成および更新するときの変数の処理が改善されました
- ドロップダウンメニューで X をクリックしても、選択内容が予想どおりにクリアされない問題のバグ修正
- SMS メッセージプロンプトの信頼性の向上と自動エラー処理
- User Support ロールの更新-ログインしているユーザのプロセスを終了できるようになりました
- さまざまな予防的セキュリティとパフォーマンスの強化

## **VDS 6.0 リリース： 2021 年 5 月 13 日木曜日**

\_Components : \_6.0 Virtual Desktop Service\_When : 2021 年 5 月 13 日（木）午後 10 時 ~ 午後 11 時（  
Eastern\_Impact : \_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

### **Virtual Desktop Service の略**

- 追加の AVD ホスト・プール・プロパティの導入
- バックエンドサービスの問題が発生した場合に、Azure 環境で自動化の耐障害性を強化できます

- サーバーに接続機能を使用する場合は、新しいブラウザタブにサーバー名を追加します
- 各グループのユーザ数を表示します
- すべての環境でサーバへの接続機能の耐障害性が向上しています
- 組織およびエンドユーザ向けに MFA オプションを設定するための機能拡張が追加されました
  - SMS が唯一の MFA オプションとして設定されている場合、は電話番号を要求しますが、メールアドレスは必要ありません
  - 使用可能な MFA オプションが E メールだけに設定されている場合は、E メールアドレスが必要ですが、電話番号は必要ありません
  - SMS と電子メールの両方が MFA のオプションとして設定されている場合は、電子メールアドレスと電話番号の両方が必要です
- 明確な改善 - Azure ではスナップショットのサイズが返されないため、Azure Backup スナップショットのサイズを削除します
- Azure 以外の環境でスナップショットを削除できるようになりました
- 特殊文字を使用する場合の AVD ホストプール作成のバグ修正
- リソースタブを使用したホストプールのワークロードのスケジューリングに関するバグ修正
- 一括ユーザーインポートをキャンセルしたときに表示されるエラーメッセージのバグ修正
- Provisioning Collection に追加されたアプリケーションの設定を使用したシナリオのバグ修正
- 通知 / メッセージを送信する E メールアドレスを更新します。 [noreply@vds.netapp.com](mailto:noreply@vds.netapp.com) からメッセージが送信されます
  - 受信メールアドレスを登録しているお客様は、このメールアドレスを追加する必要があります

## **VDS 6.0 リリース： 2021 年 4 月 29 日木曜日**

\_Components : \_6.0 Virtual Desktop Service \_When : \_ Thursday April 29,2021 の午後 10 時 ~ 午後 11 時  
East\_Impact : \_ エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

### **Virtual Desktop Service の略**

- パーソナル AVD ホストプールの Connect で開始機能を導入します
- ワークスペースモジュールでストレージコンテキストを紹介します
- Cloud Insights 統合によるストレージ（Azure NetApp Files）監視の導入
  - IOPS の監視
  - レイテンシの監視
  - 容量の監視
- VM クローニング処理のログが改善されました
- 特定のワークロードスケジューリングシナリオのバグ修正
- 特定のシナリオで VM のタイムゾーンが表示されないというバグ修正
- 特定のシナリオで AVD ユーザーをログアウトしないバグ修正
- ネットアップのブランドを反映するために自動生成される E メールが更新されます

## **VDS 6.0 ホットフィックス： 2021 年 4 月 16 日金曜日**

\_Components：\_6.0 Virtual Desktop Service\_When：2021 年 4 月 16 日（金）午後 10 時～午後 11 時（Eastern\_Impact：\_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

### **Virtual Desktop Service の略**

- 証明書の自動管理を改善するために、最終日の更新後に発生した証明書の自動作成を使用して問題を解決します

## **VDS 6.0 リリース： 2021 年 4 月 15 日木曜日**

\_Components：\_6.0 Virtual Desktop Service\_When：\_Thursday April 15,2021 の午後 10 時～午後 11 時 East\_Impact：\_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

### **Virtual Desktop Service の略**

- Cloud Insights 統合の強化：
  - スキップされたフレーム-ネットワークリソースが不十分です
  - スキップされたフレーム-クライアントリソースが不十分です
  - スキップされたフレーム-サーバリソースが不十分です
  - OS Disk -読み取りバイト数
  - OS Disk -書き込みバイト数
  - OS Disk - 1 秒あたりの読み取りバイト数
  - OS Disk - 1 秒あたりの書き込みバイト数
- 導入モジュールのタスク履歴の更新-タスク履歴の処理が改善されました
- シナリオのサブセット内のディスクから Azure バックアップを CWMGR1 に復元できなかった問題のバグ修正
- 証明書が自動的に更新および作成されなかった問題のバグ修正
- 停止した展開がすぐに開始されなかった問題のバグ修正
- ワークスペースを作成するときに [ 状態 ] ドロップダウンリストに更新する - リストから [ 国 ] 項目を削除します
- ネットアップのブランドを反映した追加の更新

## **VDS 6.0 ホットフィックス： 2021 年 4 月 7 日水曜日**

\_Components：\_6.0 Virtual Desktop Service\_When：2021 年 4 月 7 日水曜日の午後 10 時～午後 11 時にイースタン・インパクト：\_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーション・サービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

### **Virtual Desktop Service の略**

- Azure からの応答時間は徐々に変化するため、導入ウィザードで Azure クレデンシャルを入力する際に応答を待つ時間が増えています。

## **VDS 6.0 リリース：2021 年 4 月 1 日木曜日**

\_Components : \_6.0 Virtual Desktop Service\_When : \_ Thursday April 1st、2021 の午後 10 時 ~ 午後 11 時 East\_Impact : \_ エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

### **Virtual Desktop Service の略**

- NetApp Cloud Insights の統合が更新されました。新しいストリーミングデータポイント：
  - NVIDIA GPU のパフォーマンスデータ
  - ラウンドトリップ時間
  - ユーザー入力遅延
- エンドユーザからの接続を禁止するように VM が設定されている場合でも、サーバへの接続機能を更新して VM への管理接続を許可します
- 後続リリースでテーマとブランドを有効にするための API の機能強化
- HTML5 経由のサーバーまたは RDS ユーザーセッションへの HTML5 接続で使用可能なアクションメニューの可視性が向上しました
- アクティビティスクリプトイベントの名前でサポートされる文字数を増やします
- Provisioning Collections OS の選択肢をタイプ別に更新
  - AVD および Windows 10 の場合は、VDI 収集タイプを使用して、Windows 10 OS が存在することを確認します
  - Windows Server OS の場合は、Shared コレクションタイプを使用します
- さまざまな予防的セキュリティとパフォーマンスの強化

## **Virtual Desktop Service – v5.4 リリースノート**

### **VDS 5.4 リリース：2021 年 8 月 12 日木曜日**

\_Components : \_5.4 Virtual Desktop Service\_When : \_ Thursday August 12, 2021 の午後 10 時 ~ 午後 11 時 East\_Impact : \_ エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

### **Virtual Desktop Service の略**

- AVD ホストプールリンクを更新

### **VDS 5.4 リリース：2021 年 5 月 13 日木曜日**

\_Components : \_5.4 Virtual Desktop Service\_When : 2021 年 5 月 13 日（木）午後 10 時 ~ 午後 11 時（Eastern\_Impact）：エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

### **Virtual Desktop Service の略**

- 特殊文字を使用する場合の AVD ホストプール作成のバグ修正
- CWA セットアップ展開ウィザードでの長いドメイン名の自動拡張

- GCP 展開の一部のシナリオでサーバーをクローニングするためのバグ修正
- スナップショットの削除が意図したとおりに機能していなかったシナリオのバグ修正
- 通知 / メッセージを送信する E メールアドレスを更新します。 [noreply@vds.netapp.com](mailto:noreply@vds.netapp.com) からメッセージが送信されます
  - 受信メールアドレスを登録しているお客様は、このメールアドレスを追加する必要があります

#### **VDS 5.4 リリース： 2021 年 4 月 29 日木曜日**

\_Components : \_5.4 Virtual Desktop Service\_When : \_Thursday April 29,2021 の午後 10 時 ~ 午後 11 時 East\_Impact : \_ エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

(このリリースでは更新なし)

#### **VDS 5.4 ホットフィックス： 2021 年 4 月 16 日金曜日**

\_Components : \_5.4 Virtual Desktop Service\_When : 2021 年 4 月 16 日 (金) 午後 10 時 ~ 午後 11 時 (Eastern\_Impact) : エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

##### **Virtual Desktop Service の略**

- 証明書の自動管理を改善するために、最終日の更新後に発生した証明書の自動作成を使用して問題を解決します

#### **VDS 5.4 リリース： 2021 年 4 月 15 日木曜日**

\_Components : \_5.4 Virtual Desktop Service\_When : \_Thursday April 15,2021 の午後 10 時 ~ 午後 11 時 East\_Impact : \_ エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

##### **Virtual Desktop Service の略**

- 継続的な更新により、vSphere / vCloud ハイパーバイザーとの接続性と通信を強化します
- ユーザが AVD セッションホストをクローニングできなかった個々のシナリオのバグ修正

#### **VDS 5.4 ホットフィックス： 2021 年 3 月 23 日火曜日**

\_Components : \_5.4 Virtual Desktop Service\_When : 2021 年 3 月 23 日 (火) 午後 10 時 ~ 午後 11 時 (イースタン・インパクト : \_ エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

##### **Virtual Desktop Service の略**

- 表示されているホストプールへの更新-新たに作成したホストプールが正常に完了し、VDS UI にすぐには表示されないシナリオの一部で、問題を解決します

#### **VDS 5.4 リリース： 2021 年 3 月 18 日木曜日**

\_Components : \_5.4 Virtual Desktop Service\_When : 2021 年 3 月 18 日 (木) 午後 10 時 ~ 午後 11 時 (

Eastern\_Impact) : エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

- Virtual Desktop Service の略
- VM へのエンドユーザの接続が許可されていない場合は、サーバへの接続を許可します
- ユーザが SMS で受信する PAM メッセージの語句化
- さまざまな予防的セキュリティとパフォーマンスの強化

#### **VDS 5.4 ホットフィックス : 2021 年 3 月 9 日火曜日**

\_Components : \_5.4 Virtual Desktop Service\_When : 2021 年 3 月 9 日 (火) 午後 5 時 ~ 午後 5 時 15 分  
Eastern\_Impact : \_ エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

##### **Virtual Desktop Service の略**

- 一部のシナリオでサーバー問題への接続を解決するための更新プログラムを適用します

#### **VDS 5.4 リリース : Thurs, Mar4/2021**

\_Components : \_5.4 Virtual Desktop Service\_When : \_Thursday March 4th、2021 年 3 月 4 日午後 10 時 ~ 午後 11 時  
East\_Impact : \_ エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

##### **Virtual Desktop Service の略**

- Google Cloud Platform の導入に、DSC ベースの導入モデルが導入されました
- スクリプト化されたイベントの更新で、スクリプトがアクティブに実行されている間に削除されないようにします
- 導入ウィザードによる既存の Active Directory 環境の NetBIOS の処理の自動化
- 個々のプラットフォームサーバに異なるバックアップスケジュールを適用できるようになりました
- 同じコマンドで次回ログインしたときにパスワードのリセットを要求するように、ユーザのパスワードの変更をサポートします
- バグ修正-個々の VM を移行モードに設定して、導入環境全体の移行モード設定を上書きすることを許可します
- 一度に大量の API コマンドを送信すると VM の起動が遅延する vSphere シナリオのバグ修正
- .NET 4.8.0 をサポートするように新しい展開を更新します
- さまざまな予防的セキュリティとパフォーマンスの強化

#### **VDS 5.4 リリース : 2 月18,2021**

\_Components : \_5.4 Virtual Desktop Service\_When : 2021 年 2 月 18 日 (木) 午後 10 時 ~ 午後 11 時 (Eastern\_Impact) : エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

## Virtual Desktop Service の略

- FSLogix のデフォルトインストール方法を Microsoft のベストプラクティスに従って更新
- プラットフォームコンポーネントをプロアクティブにアップグレードして、ユーザアクティビティの増加をサポートします
- 証明書管理変数の処理の自動化が改善されました
- パスワードの変更時に次回ログイン時にユーザーの MFA 設定を強制的にリセットすることをサポートします
- AADDS 展開の Groups モジュール VDS 内で VDS 管理者グループが管理されないようにします

## コスト見積もり担当者

- 特定の VM のプロモーション価格が適用されなくなったことを反映して更新されました

## VDS 5.4 リリース： 2 月4/2021

\_Components : \_5.4 Virtual Desktop Service\_When : \_Thursday February 4th、 2021 年 2 月 4 日午後 10 時 ~ 午後 11 時 East\_Impact : \_ エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

## Virtual Desktop Service の略

- サーバーに接続機能を使用する際の変数処理が改善されました
- API 側の機能により、リポートと複数選択のリポートが可能です
- Google Cloud Platform の導入自動化機能の強化
- 電源オフ状態の Google Cloud Platform 展開の処理が改善されました

## VDS 5.4 リリース： Thurs.、 2021 年 1 月 21 日

\_Components : \_5.4 Virtual Desktop Service\_When : \_Thursday January 21, 2021 年 1 月 21 日午後 10 時 ~ 午後 11 時 East\_Impact : \_ エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

## Virtual Desktop Service の略

- 導入環境から TSD1 VM を削除し、データ管理のための PaaS サービスを選択
- さまざまな予防的セキュリティとパフォーマンスの強化
- マルチサーバ導入構成のプロセスを合理化
- GCP 内の導入に関する特定の構成のバグ修正
- コマンドセンターから Azure Files 共有を作成するためのバグ修正
- GCP の OS として Server 2019 を提供するためのアップデート

## コスト見積もり担当者

- さまざまな予防的セキュリティとパフォーマンスの強化



## VDS 5.4 ホットフィックス：月2021年1月

\_Components : \_5.4 Virtual Desktop Service \_When : 2021 年 1 月 18 日 (月) 午後 10 時 ~ 午後 11 時 (東部標準時) : \_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

### Virtual Desktop Service の略

- VDS では、SendGrid for SMTP リレーを使用して展開に更新が適用されます
- SendGrid は水曜日の 1/20 に新しい変化を導入している
- VDS チームはすでに SendGrid へのアップグレードを調査中でした
- このような変化を認識しており、代替案 (Postmark) をテストおよび検証しています。
- 変化を緩和するだけでなく 'VDS チームは SendGrid の代わりに Postmark を使用する展開において '信頼性とパフォーマンスの向上を確認しました

## VDS 5.4 ホットフィックス： Fri.2021年1月

\_Components : \_5.4 Virtual Desktop Service \_When : \_Wednesday January 8, 2021 年 1 月 8 日午後 12 : 05pm Eastern \_Impact : \_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

### Virtual Desktop Service の略

- すべての導入環境で VDCTools が最新であることを確認するための、次の簡単な更新
  - 設計上、VDCTools への更新はインテリジェントに適用されます。更新は、アクションが実行されないまで待機してから、短時間の更新期間中に行われたアクションを自動的に完了します

## VDS 5.4 リリース： Thurs.、 2021 年 1 月 7 日

\_Components : \_5.4 Virtual Desktop Service \_When : \_Thursday January 7th、 2021 年 1 月 22 : 00 - 23 : Eastern \_Impact : \_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

### Virtual Desktop Service の略

- さまざまな予防的セキュリティとパフォーマンスの強化
- テキストの更新- Command Center アクションを Create Azure File Share から Create Azure Files Share に変更します
- コマンドセンターを使用してデータ /Home/Pro フォルダを更新するためのプロセス拡張機能

### コスト見積もり担当者

- さまざまな予防的セキュリティとパフォーマンスの強化

## VDS 5.4 リリース： Thurs.、 2020 年 12 月 17 日

\_コンポーネント : \_5.4 仮想デスクトップサービス \_日付 : 2020 年 12 月 17 日 (木) 午後 10 時から午後 11 時 (東部標準時) : \_エンドユーザ向けのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。



次のリリースは、2021 年 1 月 7 日（木）に、2020 年大晦日の代わりに行われます。

#### Virtual Desktop Service の略

- Azure NetApp Files 使用時の導入の自動化を強化
- 更新された Windows 10 イメージを使用したコレクションのプロビジョニングの機能強化
- VCC を更新して、マルチサイト構成の変数をより適切にサポートします
- サイト機能に対する事前対応型のマイナーセキュリティ強化
- Live Scaling のピークライブスケール機能に対する API の機能強化
- DC 構成における全般的なユーザビリティとテキストの明確さの向上
- 背景には、バグ修正とセキュリティ強化の機能が多数あります

#### VDS 5.4 リリース：Thurs、2020 年 12 月 3 日

\_コンポーネント：\_5.4 仮想デスクトップサービス\_ 日付：2020 年 12 月 3 日（木）午後 10 時～午後 11 時（東部標準時）：\_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

#### Virtual Desktop Service の略

- FSLogix のインストール方法にアップデートします
- 継続的な予防的セキュリティ対策

#### VDS セットアップ

- Azure NetApp Files による導入の自動化に関する最新情報-サポート作成：
- 4TB 以上の容量プール / ボリューム
- 500TB 容量プール / 100TB のボリューム（最大
- 高度な導入オプションのための変数処理が改善されました

#### コスト見積もり担当者

- Google Cost Estimator からのディスク操作の削除
- Azure Cost Estimator で地域ごとに利用可能な新しいサービスを反映して更新されました

#### VDS 5.4 リリース：Thurs.、2020 年 11 月 19 日

\_コンポーネント：\_5.4 仮想デスクトップサービス\_ 日付：2020 年 11 月 19 日（木）午後 10 時から午後 11 時（東部標準時）：\_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

#### VDS

- Privileged Account Management（PAM）の E メールに、導入コードの詳細が記載されています
- Azure Active Directory ドメインサービス（AADDS）の導入に必要な権限が合理化されました

- 電源が完全にオフになっている環境で管理タスクの実行を検討している管理者の作業が明確になりました
- 電源がオフになっているホストプールの RemoteApp Group の詳細を表示している VDS 管理者が表示したときに表示されるエラープロンプトのバグ修正
- API ユーザを対象とした VDS API ユーザへの更新
- データセンターステータスレポートを返すための高速な結果
- VM に対する日々の操作（毎晩のリブートなど）の変数の処理が改善されました
- DC Config に入力された IP アドレスが正しく保存されないシナリオのバグ修正
- 管理者アカウントのロック解除が意図したとおりに機能しなかったシナリオのバグ修正

#### VDS セットアップ

- フォームファクタの更新- VDS セットアップウィザードのアクションボタンが省略されたシナリオを解決します

#### VDS 5.4 リリース： Thurs、2020 年 11 月 5 日

\_コンポーネント：\_ 5.4 仮想デスクトップサービス \_ 日付： 2020 年 11 月 5 日（木）午後 10 時 ~ 午後 11 時（東部標準時）：\_ エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

#### VDS

- コマンドセンターでサイトのスケールアウトメカニズムが導入されました。同じテナント ID とクライアント ID を持つ別の Azure サブスクリプションを使用してください
- データロールを持つ VM の作成は、VDS UI で選択した VM として導入されますが、選択した VM が使用できない場合は、導入用に指定されたデフォルトに戻ります
- ワークロードのスケジューリングとライブスケーリングの全般的な機能拡張
- 「Apply all」チェックボックスのバグ修正。管理者権限に適用されます
- RemoteApp グループで選択されたアプリケーションを表示するときの DISPLAY 問題のバグ修正
- バグ修正コマンドセンターへのアクセス時に一部のユーザに表示されるエラー・プロンプト
- HTML5 ゲートウェイ VM での手動証明書インストールプロセスが自動化されました
- 継続的な予防的セキュリティ対策

#### VDS セットアップ

- Azure NetApp Files オーケストレーションの向上
- Azure 導入変数を適切に処理するための継続的な機能強化
- 新しい Active Directory 展開では、Active Directory のごみ箱機能が自動的に有効になります
- Google Cloud Platform の導入オーケストレーションを改善

#### VDS 5.4 ホットフィックス： Wed.2020年10月

\_コンポーネント：\_ 5.4 仮想デスクトップサービス \_ 期限：\_ 2020 年 10 月 28 日（水）午後 10 時 ~ 午後 11 時（東部標準時）：\_ エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断

されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

#### VDS セットアップ

- ・ 導入ウィザードでネットワークの詳細を正しく入力できなかったシナリオのバグ修正

#### VDS 5.4 リリース： Thurs.、 2020 年 10 月 22 日

\_コンポーネント：\_5.4 仮想デスクトップサービス\_ 日付： 2020 年 10 月 22 日午後 10 時 ~ 午後 11 時（Eastern\_Impact）：\_エンドユーザー向けのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

#### VDS

- ・ VDS 管理者が AVD ホストプールを削除した場合は、そのホストプールからユーザーの割り当てを自動的に解除します
- ・ CWMGR1 で改良され、名前が変更されたオートメーションドライバ-コマンドセンター-を紹介します
- ・ AWS に存在するサイトの詳細を更新するバグ修正。ワークロードのスケジュール設定動作に関するバグ修正
- ・ 特定のライブスケーリング設定が適用された Wake on Demand アクティベーションのバグ修正
- ・ 元のサイトで誤った設定が行われたときに 2 番目のサイトを作成するバグ修正
- ・ DC 構成における静的 IP の詳細の使いやすさの向上
- ・ 命名規則を管理者権限に更新-データセンターの権限を展開権限に更新します
- ・ 単一のサーバ展開ビルドに必要なデータベースエントリ数が少なくなるように更新します
- ・ 権限を効率化するために、AADDs の手動展開プロセスの更新に更新します
- ・ レポートが返す日付を変更する際の VDS でのレポートのバグ修正
- ・ Provisioning Collections 経由で Windows Server 2012 R2 テンプレートを作成するためのバグ修正
- ・ 多彩なパフォーマンス向上

#### VDS セットアップ

- ・ 導入の自動化の機能強化。プライマリドメインコントローラと導入の DNS コンポーネントに対応します
- ・ 将来のリリースで使用可能なネットワークのリストから選択できるように、さまざまなアップデートをサポートします

#### コスト見積もり担当者

- ・ VM への SQL の追加処理が改善されました

#### REST API

- ・ サブスクリプションに対して有効かつ使用可能な Azure リージョンを特定するための新しい API 呼び出し
- ・ お客様が Cloud Insights にアクセスできるかどうかを確認するための新しい API 呼び出し
- ・ お客様がクラウドワークスペース環境に対して Cloud Insights をアクティブ化しているかどうかを確認するための新しい API 呼び出し

## VDS 5.4 ホットフィックス： 2020 年 10 月 13 日 Wed

\_コンポーネント：\_5.4 仮想デスクトップサービス\_ 日付： 2020 年 10 月 13 日（水）午後 10 時～午後 11 時（東部標準時）：\_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

コスト見積もり担当者

- 問題のバグ修正。RDS VM が OS の価格設定を適切に適用していない Azure コスト試算ツールのシナリオ
- Azure Cost Estimator と Google Cost Estimator でストレージ PaaS サービスを選択した結果、VDI ユーザーあたりの価格が膨れだとされるシナリオのバグ修正

## VDS 5.4 リリース： Thurs.、 2020 年 10 月 8 日

\_コンポーネント：\_5.4 仮想デスクトップサービス\_ 日付： 2020 年 10 月 8 日午後 10 時～午後 11 時（Eastern Impact）：\_エンドユーザ向けのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

### VDS

- ワークロードスケジューリングが適用される時間帯に VM を作成する際の安定性の強化
- 新しいアプリケーションサービスの作成時にディスプレイ問題のバグ修正
- Azure 以外の環境での .NET と ThinPrint のプレゼンスを動的に確認します
- ワークスペースのプロビジョニングステータスを確認する際のディスプレイ問題のバグ修正
- vSphere で特定の設定の組み合わせを使用して VM を作成するためのバグ修正
- 一連の権限の下にある CheckBox エラーのバグ修正
- 重複したゲートウェイが DCCConfig に表示されていたディスプレイ問題のバグ修正
- ブランディングの更新

コスト見積もり担当者

- を更新し、ワークロードタイプごとの CPU スケーリングの詳細を表示します

## VDS 5.4 ホットフィックス： 2020 年 9 月 30 日（水）

\_コンポーネント：\_5.4 仮想デスクトップサービス\_ 条件： 2020 年 9 月 30 日（水）午後 9 時～午後 10 時（東部標準時）：\_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

### VDS

- 問題の一部のアプリケーションサービス VM がキャッシュ VM として適切にタグ付けされていない場合のバグ修正
- メールリレーアカウントの設定に関する問題を軽減するために、基盤となる SMTP 設定にアップグレードしてください
  - 注：これはコントロールプレーンサービスであるため、導入時の設置面積が縮小され、お客様のテナント内の権限やコンポーネントが減少します

- DCCConfig を使用して管理者がサービスアカウントのパスワードをリセットできないようにするバグ修正

#### VDS セットアップ

- Azure NetApp Files 環境の環境変数の処理が改善されました
- 導入の自動化を強化 - 環境変数の処理を改善し、必要な PowerShell コンポーネントが揃っていることを確認

#### REST API

- 既存のリソースグループを活用するための Azure 導入用 API のサポートが導入されました
- ドメイン / NetBIOS 名が異なる既存の AD 環境に対する API サポートが導入されました

#### VDS 5.4 リリース：Thurs、2020 年 9 月 24 日

\_Components : \_5.4 Virtual Desktop Service\_When : \_Thursday September 24,2020 の午後 10 時 ~ 午後 11 時 East\_Impact : \_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

#### VDS

- パフォーマンスの向上-クラウドワークスペースを有効にできるユーザーのリストが、より高速に表示されるようになりました
- サイト固有の AVD セッションホストサーバーインポートを処理するためのバグ修正
- Deployment Automation の拡張機能：AD 要求を CWMGR1 に転送するためのオプション設定を導入します
- CWAgent が正しくインストールされるように、サーバをインポートする際の変数の処理が改善されました
- TestVDCTools 上で追加の RBAC コントロールを導入します。アクセスするには、CW Infrastructure グループのメンバシップが必要です
- 権限の微調整- CW-MGRAccess グループの管理者に VDS 設定のレジストリエントリへのアクセスを許可します
- 個人用 AVD ホストプールの Wake on Demand を更新して、Spring Release の更新を反映します。ユーザーに割り当てられた VM の電源のみをオンにします
- Azure 環境で会社コードの命名規則を更新-これにより、番号で始まる VM から Azure バックアップをリストアできない問題が防止されます
- 導入の自動化による SMTP 送信用の SendGrid の使用をグローバルコントロールプレーンと置き換え、SendGrid のバックエンドで問題を解決します。これにより、導入時の占有量が少なくなり、権限 / コンポーネントも少なくなります

#### VDS セットアップ

- マルチサーバ環境で使用可能な VM 数の選択を更新します

#### REST API

- /DataCenterProvisioning/operatingsystems メソッドを取得するために Windows 2019 を追加します

- API メソッドを使用して管理者を作成するときに 'VDS 管理者の名前と姓を自動入力します

#### コスト試算ツール

- Google Cost Estimator の概要と、Azure または GCP の見積もりに使用するハイパースケーラについてのプロンプト
- Azure Cost Estimator で予約済みインスタンスが導入されました
- 地域ごとに提供されている最新の Azure 製品ごとのサービスリストが更新されました

#### VDS 5.4 リリース： Thurs、2020 年 9 月 10 日

\_コンポーネント：\_5.4 仮想デスクトップサービス\_ 日付：2020 年 9 月 10 日（木）午後 10 時～午後 11 時（東部標準時）：\_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

#### Virtual Desktop Service の略

- FSLogix がインストールされていることを確認するための強化された適用メカニズム
- 既存の AD 展開に対するマルチサーバ構成をサポートします
- Azure テンプレートのリストを返すために使用する API 呼び出しの数を減らしてください
- AVD Spring Release/v2 ホストプールでのユーザ管理の改善
- サーバリソースの参照リンクの更新（夜間レポート）
- AD で強化されたスリムな権限セットをサポートするように管理パスワードを変更する修正
- CWMGR1 上のツールを使用してテンプレートから VM を作成するバグ修正
- VDS での検索では、docs.netapp.com のコンテンツが参照されるようになりました
- MFA が有効な VDS 管理インターフェイスにアクセスするエンドユーザの応答時間が短縮されました

#### VDS セットアップ

- プロビジョニング後のリンクで手順を参照できるようになりました
- 既存の AD 導入環境のプラットフォーム設定の選択肢を更新
- Google Cloud Platform の導入プロセスの自動化が改善されました

#### VDS 5.4 ホットフィックス： Tues.、2020 年 9 月 1 日

\_コンポーネント：\_5.4 仮想デスクトップサービス\_ 日付：2020 年 9 月 1 日（火）午後 10 時 - 午後 10 時 15 分 Eastern \_ Impact：\_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

#### VDS セットアップ

- AVD タブの参照リンクのバグ修正

#### VDS 5.4 リリース： Thurs、2020 年 8 月 27 日

\_コンポーネント：\_5.4 仮想デスクトップサービス\_ 日付：2020 年 8 月 27 日（木）午後 10 時～午後 11

時（東部標準時）：\_ エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

#### Virtual Desktop Service の略

- VDS インタフェースを使用して 'AVD ホストプールを Fall Release から Spring リリースに自動的に更新する機能の導入
- 最新の更新を反映した効率的な自動化により、アクセス許可をよりスリムに設定する必要があります
- GCP、AWS、vSphere 環境の導入自動化機能が強化されました
- 日付と時刻の情報が現在の日付と時刻として表示されていたスクリプトイベントシナリオのバグ修正
- 大量の AVD セッションで VM を同時に展開するためのバグ修正
- より多くの種類の Azure VM をサポート
- サポートされる GCP VM タイプの数が増えます
- 導入時の変数の処理が改善されました
- vSphere Deployment Automation のバグ修正
- ユーザの Cloud Workspace を無効にしたときに予期しない結果が返されたシナリオのバグ修正
- サードパーティ製アプリケーションのバグ修正と RemoteApp アプリケーションで MFA が有効な状態で使用されるようになりました
- 導入がオフラインの場合のサービスボードのパフォーマンスが向上しました
- ネットアップのロゴ / フレージングを反映するように更新されました

#### VDS セットアップ

- ネイティブ / グリーンフィールドの Active Directory 展開のためのマルチサーバ展開オプションの導入
- 導入自動化のさらなる強化

#### Azure コスト試算ツール

- Azure Hybrid の機能のリリース
- VM の詳細にカスタム名情報を入力する際の DISPLAY 問題のバグ修正
- 特定のシーケンスでストレージの詳細を調整するためのバグ修正

#### VDS 5.4 ホットフィックス：2020 年 8 月 19 日 Wed

\_ コンポーネント：\_ 5.4 仮想デスクトップサービス \_ 条件：\_ 2020 年 8 月 19 日水曜日午後 5 時 20 分 ~ 午後 5 時 25 分 East \_ Impact：\_ エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

#### VDS セットアップ

- 柔軟な自動化を促進する可変処理のバグ修正
- 単一の導入シナリオでの DNS 処理のバグ修正
- CW インフラストラクチャグループのメンバーシップ要件の削減



## VDS 5.4 ホットフィックス： Tues.、 2020 年 8 月 18 日

\_コンポーネント：\_5.4 仮想デスクトップサービス\_ 実行時間：\_2020 年 8 月 18 日（火）午後 10 時～午後 10 時 15 分 East\_Impact：\_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

### Azure コスト試算ツール

- ・特定のタイプの VM にドライブを追加する処理に関するバグ修正

## VDS 5.4 リリース： Thurs、 2020 年 8 月 13 日

\_コンポーネント：\_5.4 仮想デスクトップサービス\_ 日付：2020 年 8 月 13 日（木）午後 10 時～午後 11 時（東部標準時）：\_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

### Virtual Desktop Service の略

- ・AVD モジュールから AVD セッションホストの [サーバへの接続] オプションを追加します
- ・追加の管理者アカウントを作成できないシナリオのサブセットに対するバグ修正
- ・リソースのデフォルトの命名規則を更新する– Power User を VDI User に変更します

### VDS セットアップ

- ・事前承認済みのネットワーク設定を自動的に検証し、導入ワークフローをさらに合理化
- ・既存の AD 導入に必要な権限セットを削減
- ・15 文字を超えるドメイン名を許可します
- ・選択項目の一意の組み合わせのテキストレイアウト修正
- ・SendGrid コンポーネントに一時的なエラーが発生した場合は、Azure 導入を続行します

### VDS ツールとサービス

- ・プロアクティブなセキュリティ強化
- ・追加のライブスケーリングパフォーマンスの強化
- ・数百のサイトを使用するハイパースケーラ環境のサポートを強化
- ・1 つのコマンドで複数の VM を導入するシナリオのバグ修正は部分的に成功しました
- ・データ、ホーム、プロファイルの各データの場所のターゲットとして無効なパスを割り当てる際のメッセージプロンプトが改善されました
- ・Azure Backup を使用して VM を作成しても意図したとおりに機能しないシナリオのバグ修正
- ・GCP と AWS の導入プロセスに追加の導入検証手順が追加されました
- ・外部 DNS エントリを管理するための追加オプション
- ・VM、VNET、Azure NetApp Files などのサービス、ログ分析ワークスペース用の個別リソースグループのサポート
- ・プロビジョニングの収集 / イメージ作成プロセスに対する小規模なバックエンドの機能強化

## Azure コスト試算ツール

- エフェメラル OS ディスクのサポートを追加します
- ストレージ選択に関するツールヒントが改善されました
- ユーザが負のユーザ数を入力できるようになったシナリオを禁止します
- AVD とファイルサーバーの両方の選択を使用する場合は、ファイルサーバーを表示します

## VDS 5.4 ホットフィックス： Mon.、 2020 年 8 月 3 日

\_コンポーネント：\_5.4 仮想デスクトップサービス\_ 次の場合：\_ 2020 年 8 月 3 日（月）午後 11 時～午後 11 時（東部標準時）：\_ エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

## VDS ツールとサービス

- 導入の自動化時の変数処理の改善

## VDS 5.4 リリース： Thurs、 2020 年 7 月 30 日

\_コンポーネント：\_5.4 仮想デスクトップサービス\_ 日付： 2020 年 7 月 30 日（木）午後 10 時～午後 11 時（東部標準時）：\_ エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

## Virtual Desktop Service の略

- プロアクティブなセキュリティ強化
- バックグラウンドでのパフォーマンス監視機能が向上しました
- 新しい VDS 管理者を作成するシナリオのバグ修正で誤った正のアラートが生成される

## VDS セットアップ

- Azure の導入プロセスで管理アカウントに適用される権限セットが削減されました
- トライアルアカウントサインアップのサブセットに関するバグ修正

## VDS ツールとサービス

- FSLogix のインストール・プロセスの処理が向上しました
- プロアクティブなセキュリティ強化
- データポイント収集の改善により、同時使用が可能になりました
- HTML5 接続での証明書の処理が改善されました
- DNS セクションレイアウトの調整による明確な説明
- Solarwinds モニタリングワークフローの調整
- 静的 IP アドレスの処理が更新されました

## Azure コスト試算ツール

- お客様のデータが高可用性である必要があるかどうかを確認し、必要に応じて、Azure NetApp Files のような PaaS サービスを活用してコストと人件費の節約を利用できるかどうかを定義します
- AVD と RDS の両方のワークロードに対するデフォルトのストレージタイプを Premium SSD にアップデートし、標準化する
- 舞台裏でのパフォーマンス強化 \* = VDS 5.4 ホットフィックス：Thurs、2020 年 7 月 23 日

\_Components : \_5.4 Virtual Desktop Service\_When : \_Thursday July 23, 2020 午後 10 時 ~ 午後 11 時 Eastern\_Impact : \_エンドユーザ向けのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

## VDS セットアップ

- Azure 環境での DNS 設定の自動化の機能拡張
- 導入の自動化に関する一般的なチェックと改善点

## VDS 5.4 リリース：Thurs、2020 年 7 月 16 日

\_コンポーネント : \_5.4 仮想デスクトップサービス\_日付 : 2020 年 7 月 16 日 (木) 午後 10 時 ~ 午後 11 時 (東部標準時) : \_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

## Virtual Desktop Service の略

- プロアクティブなセキュリティ強化
- AVD ワークスペースが 1 つしかない場合は、AVD ワークスペースを自動選択することで、AVD アプリケーショングループのプロビジョニングプロセスを合理化します
- ワークスペースモジュールのパフォーマンスが改善されました。これは、[ユーザーとグループ] タブの下にあるページグループを作成することによって実現します
- VDS 管理者が Deployments タブで Azure を選択した場合は、代わりに VDS Setup にログインするようユーザーに指示します

## VDS セットアップ

- プロアクティブなセキュリティ強化
- レイアウトが改善され、導入ワークフローが合理化されました
- 既存の Active Directory 構造を使用する展開の説明が拡張されました
- 導入の自動化に関する一般的な機能強化とバグ修正

## VDS ツールとサービス

- 単一サーバ展開での TestVDCTools のパフォーマンスに関するバグ修正

## REST API

- Azure 展開の API 消費の操作性の向上—最初の名前が Azure AD でユーザに定義されていない場合でも収集されたユーザ名を返します

## HTML5 ログインエクスペリエンス

- AVD Spring Release (AVD v2) を利用するセッションホストの Wake on Demand のバグ修正
- ネットアップのブランド力やフレージングを反映するように更新されました

## Azure コスト試算ツール

- 地域ごとに価格を動的に表示します
- リージョン内で関連サービスが利用可能かどうかを表示し、必要な機能がそのリージョンで利用可能になるかどうかをユーザが理解できるようにします。これらのサービスは次のとおりです。
  - Azure NetApp Files の特長
  - Azure Active Directory ドメインサービス
  - NV および NV v4 （ GPU 対応）仮想マシン

## VDS 5.4 リリース： Fri.、2020 年 6 月 26 日

\_コンポーネント：\_ 5.4 仮想デスクトップサービス \_ 日付： 2020 年 6 月 26 日（木）午後 10 時～午後 11 時（東部標準時）：\_ エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

## Virtual Desktop Service の略

2020 年 7 月 17 日金曜日以降、v5.4 のリリースは本番リリースとしてサポートされます。

## VDS Client for Windows リリースノート

日時：2020 年 7 月 29 日（木）午後 11 時（東部標準時）

影響：\_ ユーザーは、次回起動時に VDS Client for Windows を更新します

### 改善

- インストールプロセスが合理化されます。新しいエンドユーザーは、VDS Client for Windows をインストールする際に、契約条件に同意する必要がなくなります
- インストールプロセス中に確認を追加して、エンドユーザーのデバイスが自動更新の発信元の場所にアクセスできることを確認します

日付：2020 年 5 月 27 日（木）午後 11 時（東部標準時）

影響：ユーザーは、次回 RDP クライアントを起動するときに RDP クライアントの更新を確認できます

### バグ修正

- 指定されたパスワードが長すぎる場合に表示されるエラーメッセージの明確さが向上しました

日付：2020 年 5 月 13 日（木）午後 11 時（東部標準時）

影響：ユーザーは、次回 RDP クライアントを起動するときに RDP クライアントの更新を確認できます

## 改善

- 自動化機能を追加して、エンドユーザのリソースの可用性を確保します

## 更新

- 自動更新にアクセスするために必要な URL が変更されています。インバウンドトラフィックをアクティブに保護していない場合は、変更を行う必要はありません。
  - エンドユーザは、変更がなくてもデスクトップに引き続きアクセスできます
  - 組織は、着信トラフィックを積極的に保護するために、エンドユーザデバイスが上記の新しい URL にアクセスできるようにして、自動更新に確実にアクセスできるようにする必要があります
  - 更新の現在のソースは次のとおりです。
    - プライマリ： cwc.cloudworkspace.com
    - セカンダリ： cloudjumper.com
  - 更新の新しいソースは次のとおりです。
    - プライマリ： bin.vdsclient.app
    - セカンダリ： cwc.cloudworkspace.com
  - Cloud Workspace Client for Windows を新規ユーザーがインストールした場合も、リストされている URL にアクセスする必要があります ["こちらをご覧ください"](#)

日時： **2020 年 4 月 29 日（木）午後 11 時（東部標準時**

影響：次回 RDP クライアントを起動すると、RDP クライアントの更新が表示されます

（このリリースでは更新なし）

日付： **2020 年 4 月 15 日（木）午後 11 時（東部標準時**

影響：ユーザーは、次回 RDP クライアントを起動するときに RDP クライアントの更新を確認できます

## バグ修正

- ネットワークテストの結果が意図したとおりに送信されない問題を解決します

日付： **2020 年 4 月 1 日（木）午後 11 時（東部標準時**

影響：ユーザーは、次回 RDP クライアントを起動するときに RDP クライアントの更新を確認できます

## 改善

- RemoteApp アプリケーションへの更新 - ユーザーが個々のアプリケーションを起動するときに資格情報の入力を求めなくなりました
- エンドユーザーが、ThinPrint と Windows プリンタのリダイレクトを使用して印刷を切り替えることができるようにするためのアップデート
- Windows Designer ユーザ用の VDS クライアントが印刷リダイレクトサービスを除外できるようにするための更新

## VDS 5.4 リリース：Thurs.、2021 年 1 月 21 日

\_Components : \_5.4 Virtual Desktop Service\_When : \_Thursday January 21, 2021 の午後 10 時 ~ 午後 11 時 East\_Impact : \_Users は、次回起動時に RDP クライアントの更新を確認します

### 改善

- エンドユーザーの操作性が向上し、外部ドメインからインポートされたユーザーの処理が向上しました

日付：2020 年 6 月 11 日（木）午後 11 時（東部標準時）

影響：ユーザーは、次回 RDP クライアントを起動するときに RDP クライアントの更新を確認できます

### 改善

- インストール可能な最新の AVD RDP クライアントを更新します

日付：2020 年 5 月 28 日（木）午後 11 時（東部標準時）

影響：ユーザーは、次回 RDP クライアントを起動するときに RDP クライアントの更新を確認できます

### 改善

- ネットアップのブランドカやフレージングを反映するように更新されました。注：この新しいブランディングは、次のものに適用されます。
  - 新しい VDS クライアントのダウンロード
  - Windows インストール用の既存の未編集 VDS クライアント
  - 既存のカスタム編集 / ブランドのクライアントは、カスタマイズされていない場合にのみ新しいバナーイメージを受け取ります。バナーイメージがカスタマイズされている場合は、そのまま残ります。その他の色およびフレージングはすべて同じままです。

日付：2020 年 5 月 14 日（木）午後 11 時（東部標準時）

影響：ユーザーは、次回 RDP クライアントを起動するときに RDP クライアントの更新を確認できます

- このリリースサイクルの更新はありません。

日付：2020 年 4 月 30 日（木）午後 11 時（東部標準時）

影響：ユーザーは、次回 RDP クライアントを起動するときに RDP クライアントの更新を確認できます

### バグ修正

- セルフサービスパスワードリセットが表示されなかったシナリオの一部に対するバグ修正

日付：2020 年 4 月 16 日（木）午後 11 時（東部標準時）

影響：ユーザーは、次回 RDP クライアントを起動するときに RDP クライアントの更新を確認できます

- このリリースサイクルの更新はありません。

日付： **2020 年 4 月 2 日**（木）午後 **11 時**（東部標準時

影響：ユーザーは、次回 RDP クライアントを起動するときに RDP クライアントの更新を確認できます

- このリリースサイクルの更新はありません。

日時： **2020 年 3 月 19 日**（木）午後 **11 時**（東部標準時

影響：ユーザーは、次回 RDP クライアントを起動するときに RDP クライアントの更新を確認できます

- このリリースサイクルの更新はありません。

日時： **2020 年 3 月 5 日**（木）午後 **10 時**（東部標準時

影響：ユーザーは、次回 RDP クライアントを起動するときに RDP クライアントの更新を確認できます

#### 改善

- RDP プロトコルを使用したフリンジバグの正常な処理。RDS ゲートウェイ上でレガシー資格情報タイプと最新のパッチが混在していると、セッションホストに接続できなくなります
  - エンドユーザーのワークステーションが（外部管理者、社内顧客管理者、またはワークステーションのデフォルト設定を使用して）レガシークレデンシャルタイプを使用するように設定されている場合、このリリースより前にユーザーに影響を与える可能性はほとんどありません
- クラウドワークスペースクライアントデザイナの [ 情報 ] ボタンを更新されたドキュメントソースにポイントします
- クラウドワークスペースクライアントデザイナの自動更新プロセスが改善されました

日時： **2020 年 2 月 20 日**（木）午後 **10 時**（東部標準時

影響：ユーザーは、次回 RDP クライアントを起動するときに RDP クライアントの更新を確認できます

#### 改善

- セキュリティ、安定性、拡張性をプロアクティブに強化

#### 考慮事項

- ユーザーが 4/2 より前に起動している限り、Cloud Workspace Client for Windows は引き続き自動更新を実行します。4/2 より前のバージョンの Windows 用 Cloud Workspace クライアントを起動しなかった場合、デスクトップへの接続は機能しますが、自動更新機能を再開するには、Cloud Workspace クライアント for Windows をアンインストールして再インストールする必要があります。
- 組織で Web フィルタリングを使用している場合は、自動更新機能が維持されるように、[cwc.cloudworkspace.com](https://cwc.cloudworkspace.com) および [cwc-cloud.cloudworkspace.com](https://cwc-cloud.cloudworkspace.com) へのセーフリストアクセスを行ってください

日付： **2020 年 1 月 9 日**（木）午後 **11 時**（東部標準時

影響：ユーザーは、次回 RDP クライアントを起動するときに RDP クライアントの更新を確認できます

- このリリースサイクルの更新はありません。

日付： **2019 年 12 月 19 日（木）午後 11 時（東部標準時**

影響：ユーザーは、次回 RDP クライアントを起動するときに RDP クライアントの更新を確認できます

- このリリースサイクルの更新はありません。

日付： **2019 年 12 月 2 日月曜日の東部標準時**

影響：ユーザーは、次回 RDP クライアントを起動するときに RDP クライアントの更新を確認できます

- このリリースサイクルの更新はありません。

日付： **2019 年 11 月 14 日（木）午後 11 時（東部標準時**

影響：ユーザーは、次回 RDP クライアントを起動するときに RDP クライアントの更新を確認できます

改善

- ユーザーが「サービスは現在オフラインです」というメッセージを表示する理由の明確さが向上しました。メッセージが表示される可能性のある原因は次のとおりです。
  - セッションホストサーバはオフラインになるようにスケジュールされており、ユーザに Wake On Demand 権限がありません。
    - ユーザーが Cloud Workspace クライアントを使用していた場合は、次のように表示されます。「現在、サービスはオフラインになるようにスケジュールされています。アクセスが必要な場合は、管理者にお問い合わせください。」
    - ユーザーが HTML5 ログインポータルを使用していた場合、「サービスは現在オフラインになるようにスケジュールされています。アクセスが必要な場合は、管理者にお問い合わせください。」
  - セッションホストサーバはオンラインになるようにスケジュールされており、ユーザーに Wake On Demand 権限がありません。
    - ユーザーが Cloud Workspace クライアントを使用していた場合は、「サービスは現在オフラインです。アクセスが必要な場合は、管理者に問い合わせてください。」というメッセージが表示されます。
    - ユーザーが HTML5 ログインポータルを使用していた場合は、「サービスは現在オフラインです。アクセスが必要な場合は、管理者にお問い合わせください。」
  - セッションホストサーバはオフラインになるようにスケジュールされており、ユーザに Wake on Demand 権限があります。
    - ユーザーが Cloud Workspace クライアントを使用していた場合は、「サービスは現在オフラインです。アクセスが必要な場合は、管理者に問い合わせてください。」というメッセージが表示されます。
    - ユーザーが HTML5 ログインポータルを使用していた場合、「サービスは現在オフラインになるようにスケジュールされています。[ スタート ] ボタンをクリックしてオンラインにし、接続します。」
  - セッションホストサーバはオンラインになるようにスケジュールされており、ユーザに Wake on Demand 権限があります。
    - ユーザーが Cloud Workspace クライアントを使用していた場合は、「ワークスペースが起動するまでに 2 ～ 5 分かかります。」というメッセージが表示されます。
    - ユーザーが HTML5 ログインポータルを使用していた場合は、「サービスは現在オフラインで



す。[ スタート ] ボタンをクリックしてオンラインにし、接続します。」

日付： **2019 年 10 月 31 日**（木）午後 **11 時**（東部標準時

影響：ユーザーは、次回 RDP クライアントを起動するときに RDP クライアントの更新を確認できます

- このリリースサイクルの更新はありません。

日付： **2019 年 11 月 17 日**（木）午後 **11 時**（東部標準時

影響：ユーザーは、次回 RDP クライアントを起動するときに RDP クライアントの更新を確認できます

改善

- AVD 要素の追加：

日付： **2019 年 10 月 3 日**（木）午後 **11 時**（東部標準時

影響：ユーザーは、次回 RDP クライアントを起動するときに RDP クライアントの更新を確認できます

改善

- コード署名証明書の処理が改善されました

バグ修正

- RemoteApp にアクセスしているユーザーにアプリケーションが割り当てられていない問題を修正します。エラーが発生しました
- 仮想デスクトップへのログイン中にユーザーがインターネット接続を失った問題を解決します

開催日： **2019 年 9 月 19 日**（木）午後 **11 時**（東部標準時

影響：ユーザーは、次回 RDP クライアントを起動するときに RDP クライアントの更新を確認できます

改善

- AVD 要素の追加：
  - エンドユーザーが AVD リソースにアクセスできる場合は、AVD タブを表示します
  - AVD タブには、次のオプションがあります。
    - AVD RD クライアントがまだインストールされていない場合は、インストールします
    - AVD RD クライアントがインストールされている場合は、RD クライアントを起動します
    - Web Client を起動して、AVD HTML5 ログインページに移動します
    - [ 完了 ] をクリックして前のページに戻ります

日付： **2019 年 9 月 5 日**（木）午後 **11 時**（東部標準時

影響：ユーザーは、次回 RDP クライアントを起動するときに RDP クライアントの更新を確認できます

- このリリースサイクルの更新はありません。

日付： **2019 年 8 月 22 日**（木）午後 **11 時**（東部標準時

影響：ユーザーは、次回 RDP クライアントを起動するときに RDP クライアントの更新を確認できます

- このリリースサイクルの更新はありません。

日付： **2019 年 8 月 8 日**（木）午後 **11 時**（東部標準時

影響：ユーザーは、次回 RDP クライアントを起動するときに RDP クライアントの更新を確認できます

- このリリースサイクルの更新はありません。

日付： **2019 年 7 月 25 日**（木）午後 **11 時**（東部標準時

影響：ユーザーは、次回 RDP クライアントを起動するときに RDP クライアントの更新を確認できます

- このリリースサイクルの更新はありません。

日付： **2019 年 7 月 11 日**（木）午後 **11 時**（東部標準時

影響：ユーザーは、次回 RDP クライアントを起動するときに RDP クライアントの更新を確認できます

- このリリースサイクルの更新はありません。

開催日： **2019 年 6 月 21 日**（金）午前 **4 時**（東部標準時

影響：ユーザーは、次回 RDP クライアントを起動するときに RDP クライアントの更新を確認できます

- このリリースサイクルの更新はありません。

開催日： **2019 年 6 月 7 日**（金）午前 **4 時**（東部標準時

影響：ユーザーは、次回 RDP クライアントを起動するときに RDP クライアントの更新を確認できます

改善

- .RDP ファイルのファイルタイプの関連付けがに設定されているかどうかに関係なく、Cloud Workspace クライアントが RDP 接続を自動的に起動できるようにします

開催日： **2019 年 5 月 24 日**（金）午前 **4 時**（東部標準時

影響：ユーザーは、次回 RDP クライアントを起動するときに RDP クライアントの更新を確認できます

改善

- サインイン処理のパフォーマンスが向上しました
- 起動時の負荷時間を短縮

開催日： **2019 年 5 月 10 日（金）** 午前 **4 時**（東部標準時

影響：ユーザーは、次回 RDP クライアントを起動するときに RDP クライアントの更新を確認できます

改善

- サインイン処理のパフォーマンスが向上しました
- 起動時の負荷時間を短縮

開催日： **2019 年 4 月 12 日（金）** 午前 **4 時**（東部標準時

影響：ユーザーは、次回 RDP クライアントを起動するときに RDP クライアントの更新を確認できます

改善

- Wake on Demand のログイン速度が向上しました
- Cloud Workspace Client for Windows が正常に起動された後、フィードバックボタンを削除してユーザーインターフェイスの領域を解放します

バグ修正

- Wake on Demand アクションが失敗した後、サインインボタンが応答しなかった問題を解決します

開催日： **2019 年 3 月 15 日（金）** 午前 **4 時**（東部標準時

影響：ユーザーは、次回 RDP クライアントを起動するときに RDP クライアントの更新を確認できます

改善

- Cloud Workspace Client for Windows を使用している管理者が、サポート用の E メールアドレスまたは電話番号のいずれかを指定できます。両方は必要ありません
- Cloud Workspace Client で提供される HTML5 URL が有効な URL であることを確認します。有効でない場合、デフォルトで `https://login.cloudjumper.com` に設定されます
- エンドユーザにアップデートを適用するプロセスを合理化します

開催日： **2019 年 2 月 29 日（金）** 午前 **4 時**（東部標準時

影響：ユーザーは、次回 RDP クライアントを起動するときに RDP クライアントの更新を確認できます

改善

- AppData フォルダは、`c:\users\<username>\appdata\local\RDPClient` から `c:\users\appdata\local\Cloud Workspace` に移動されました
- ユーザーが複数のリリースでクライアントを更新していない場合に、アップグレードパスを合理化するメカニズムを実装しました
- ベータ版のクライアントで作業しているユーザーに対して、拡張ログの詳細が有効になっています

バグ修正

- 更新処理中に複数の行が表示されなくなります

開催日： **2019 年 2 月 15 日（金）午前 4 時（東部標準時**

影響： \_ユーザーは、RDP クライアントを起動すると、RDP クライアントの更新を表示します

#### 改善

- リモートインストールのサイレント / サイレントインストールオプションを有効にします
  - インストールフラグは次のとおりです。
    - /s または /silent または /q または /quiet
      - これらのフラグは、クライアントをサイレントにインストールし、バックグラウンドでインストールします。インストールの完了後、クライアントは起動しません
    - /p または /パッシブ
      - これらのいずれかはインストールプロセスを示しますが、入力はい必要なく、インストールの完了後にクライアントが起動します
    - /nthinprint
      - インストールプロセスから ThinPrint を除外します
- レジストリエントリが HKLM\Software\CloudJumper\Cloud Workspace Client\Branding に追加されました。
  - ClipboardSharingEnabled : True/False –クリップボードのリダイレクトを許可または禁止します
  - RemoteAppEnabled : True/False – RemoteApp 機能へのアクセスを許可または禁止します
  - ShowCompanyNameInTitle: 正誤–会社名を表示するかどうかを示します
- c : \Program Files (x86) \Cloud Workspace に次のファイルを追加できます。
  - banner.jp g、 banner.png、 banner.gif または banner.bmp。これがクライアントウィンドウに表示されます。
  - これらの画像の比率は 21 : 9 にする必要があります

#### バグ修正

- 登録されているシンボルが調整されました
- ヘルプページの空白の電話と電子メールのエントリが修正されました

## 以前のバージョン

### Virtual Desktop Service –バージョン 5.3



v5.3 of VDS については、今後のリリースで繰り返し発生することはありません。すべてのリリースがホットフィックスとみなされます。

**VDS 5.3 リリース： Thurs.、 2020 年 12 月 17 日**

\_Components : \_5.3 Virtual Desktop Service\_When : \_Thursday December 17,2022:00 ~ 23:00 Eastern \_  
Impact : \_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。

仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。



次のリリースサイクルは、2021 年 1 月 7 日（木）に、2020 年大晦日の代わりに開始されます。

### Virtual Desktop Service の略

- Postmark を利用するように SMTP サービスを更新します

#### VDS 5.3 リリース：Thurs.、2020 年 10 月 22 日

\_コンポーネント：\_5.3 仮想デスクトップサービス\_ 日付：2020 年 10 月 22 日午後 10 時～午後 11 時（Eastern\_Impact）：\_エンドユーザ向けのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

### VDS

- MFA エージェントが従来の IIT 命名規則を使用するフォルダに存在するシナリオに対するバグ修正

#### VDS 5.3 リリース：Thurs.、2020 年 10 月 8 日

\_コンポーネント：\_5.4 仮想デスクトップサービス\_ 日付：2020 年 10 月 8 日午後 10 時～午後 11 時（Eastern\_Impact）：\_エンドユーザ向けのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

### VDS

- Provisioning Collections のバグ修正-ハイパーバイザーテンプレートが自動選択されていません

#### VDS 5.3 リリース：Thurs.、2020 年 9 月 10 日

\_コンポーネント：\_5.3 仮想デスクトップサービス\_ 日付：2020 年 9 月 10 日午後 10 時から午後 11 時に終了：\_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

### Virtual Desktop Service の略

- Azure テンプレートのリストを返すために使用する API 呼び出しの数を減らしてください
- サーバリソースの参照リンクの更新（夜間レポート）
- AD で強化されたスリムな権限セットをサポートするように管理パスワードを変更する修正

#### VDS 5.3 リリース：Thurs.、2020 年 8 月 27 日

\_コンポーネント：\_5.3 仮想デスクトップサービス\_ 日付：2020 年 8 月 13 日（木）午後 10 時～午後 11 時（東部標準時）：\_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

### Virtual Desktop Service の略

- 日付と時刻の情報が現在の日付と時刻として表示されていたスクリプトイベントシナリオのバグ修正

## Azure コスト試算ツール

- Azure Hybrid の機能のリリース
- VM の詳細にカスタム名情報を入力する際の DISPLAY 問題のバグ修正

**VDS 5.3 リリース：Thurs.、2020 年 8 月 13 日**

\_コンポーネント：\_5.3 仮想デスクトップサービス\_ 日付：2020 年 8 月 13 日（木）午後 10 時～午後 11 時（東部標準時）：\_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

## Azure コスト試算ツール

- エフェメラル OS ディスクのサポートを追加します
- ストレージ選択に関するツールヒントが改善されました
- ユーザが負のユーザ数を入力できるようになったシナリオを禁止します
- AVD とファイルサーバーの両方の選択を使用する場合は、ファイルサーバーを表示します

**VDS 5.3 リリース：Thurs.、2020 年 7 月 30 日**

\_コンポーネント：\_5.3 仮想デスクトップサービス\_ 日付：2020 年 7 月 30 日（木）午後 10 時～午後 11 時（東部標準時）：\_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

## Virtual Desktop Service の略

- AVD Diagnostics が正しく表示されなかったシナリオのサブセットのバグ修正

## Azure コスト試算ツール

- お客様のデータが高可用性である必要があるかどうかを確認し、必要に応じて、Azure NetApp Files のような PaaS サービスを活用してコストと人件費の節約を利用できるかどうかを定義します
- AVD と RDS の両方のワークロードに対するデフォルトのストレージタイプを Premium SSD にアップデートし、標準化する
- バックグラウンドでパフォーマンスが強化されました

**VDS 5.3 リリース：Thurs、2020 年 7 月 16 日**

\_コンポーネント：\_5.3 仮想デスクトップサービス\_ 日付：2020 年 7 月 16 日（木）午後 10 時～午後 11 時（東部標準時）：\_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

## Virtual Desktop Service の略

- プロアクティブなセキュリティ強化
- ワークスペースモジュールのパフォーマンスが改善されました。これは、[ユーザーとグループ] タブの下にあるページグループを作成することによって実現します

## VDS セットアップ

- 新しい自動化オプションが利用可能になったときに、Azure Active Directory ドメインサービス（AADDS）を選択して Standard サービス階層を確実に使用できるようにするための更新が行われました
- Microsoft ARM API 呼び出しへの変更を反映するための更新

## HTML5 ログインエクスペリエンス

- ネットアップのブランド力やフレージングを反映するように更新されました

## Azure コスト試算ツール

- 地域ごとに価格を動的に表示します
- リージョン内で関連サービスが利用可能かどうかを表示し、必要な機能がそのリージョンで利用可能になるかどうかをユーザが理解できるようにします。これらのサービスは次のとおりです。
- Azure NetApp Files の特長
- Azure Active Directory ドメインサービス
- NV および NV v4（GPU 対応）仮想マシン

## VDS 5.3 リリース：Thurs.、2020 年 6 月 25 日

\_コンポーネント：\_5.3 仮想デスクトップサービス\_ 日付：2020 年 6 月 25 日（木）午後 10 時～午後 11 時（東部標準時）：\_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

## Virtual Desktop Service の略

- ネットアップのブランド力やフレージングを反映するように更新されました
- ユーザのリストが想定どおりに読み込まれなかった独立したシナリオのバグ修正
- 手動での導入が部分的にしか修正されていない GPO 構成を受け取ったシナリオのバグ修正

## VDS セットアップウィザード

- American Express のサポート
- ネットアップのブランド力やフレージングを反映するように更新されました

## REST API

- リストデータの収集と表示を高速化する継続的な機能強化

## VDS 5.3 リリース：Thurs.、2020 年 6 月 11 日

\_コンポーネント：\_5.3 仮想デスクトップサービス\_ 日付：2020 年 6 月 11 日（木）午後 10 時～午後 11 時（東部標準時）：\_エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

## Virtual Desktop Service の略

- プロアクティブな API 処理の強化
- プラットフォーム要素の予防的な強化

## クラウドワークスペースツールとサービス

- ライブスケーリングのトリガーに対する継続的な改善
- vCloud から vSphere への導入時に特定された問題の自動修正機能が強化されました

## VDS 5.3 ホットフィックス : Thurs.2020年5月

\_Components : \_5.3 Virtual Desktop Service \_When : \_ 水曜日 6 月 3 日午前 10 時 ~ 10 時 30 分 Eastern  
\_Impact : \_ エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。  
仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

## クラウドワークスペースツールとサービス

- プラットフォーム導入の自動化された要素のバグ修正。これは新規の導入にのみ適用され、既存の導入環境には影響しません。
- 既存の Active Directory 構造への展開に関するバグ修正

## VDS 5.3 リリース : Thurs.、2020 年 5 月 28 日

\_コンポーネント : \_5.3 仮想デスクトップサービス \_日付 : 2020 年 5 月 28 日 (木) 午後 10 時 ~ 午後 11 時 (東部標準時) : \_ エンドユーザのデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。仮想デスクトップサービスへのアクセスは引き続き可能です。

## Virtual Desktop Service の略

- ネットアップのブランド力やフレージングを反映するように更新されました
- Workspace モジュールのパフォーマンスの向上
- プロアクティブな安定性の強化 : よく使用される API 呼び出しを基盤とする VDS 機能

## 仮想デスクトップサービスの導入

- VDS プラットフォームの設置面積を Azure 環境でさらに合理化
- 既存の Active Directory 構造に展開する際のオプションシナリオのバグ修正

## Virtual Desktop Service のツールとサービス

- サーバーにログインしているユーザー数をライブスケーリングで識別する方法に対する継続的な改善

## Virtual Desktop Service Web Client の略

- ネットアップのブランド力やフレージングを反映するようにブランディングを更新しました
- デフォルトの Web Client リンクよりも長いお気に入りとして保存された URL の短縮のサポート ( cloudworkspace.com/login/ から cloudworkspace.com など)



## Azure コスト試算ツール

- SQL Server のオプションを追加して、VM のシリーズやサイズを増やします
- IP アドレスの価格設定の表示方法を更新します。IP アドレスを追加しない限り、IP アドレスのコストを表示しないでください

**CWMS 5.3 リリース：Thurs、2020 年 5 月 14 日**

\_コンポーネント：\_5.3 Cloud Workspace Management Suite\_When：\_木曜日は 2020 年 5 月 14 日午後 10 時～午後 11 時に、Eastern \_Impact：\_エンドユーザー向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

## Azure コスト試算ツール

- ネットアップのブランド / フレージングを反映してメッセージを更新
- プラットフォームサーバーを更新して、D2S v3 の使用を反映させました
- Windows 10 Enterprise E3 ライセンスの詳細と価格を更新
- デフォルトのストレージ選択を Azure NetApp Files に変更します

**CWMS 5.3 Hotfix：Thurs.2020年5月**

\_コンポーネント：\_5.3 Cloud Workspace Management Suite\_When：\_金曜日 2020 年 5 月 8 日午前 10 時 15 分～午前 10 時 30 分 Eastern \_Impact：\_エンドユーザー向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

## クラウドワークスペースツールとサービス

- 導入プロセス中に特定の組み合わせの設定に対して DNS レコードが設定されるメソッドのバグ修正

**CWMS 5.3 リリース：Thurs、2020 年 4 月 30 日**

\_コンポーネント：\_5.3 Cloud Workspace Management Suite 日付：2020 年 4 月 30 日（木）午後 10 時～午後 11 時（東部標準時）：\_エンドユーザー向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

## Cloud Workspace Management Suite の略

- セッショントラッキングを改善して、将来の更新を可能にする–将来の機能をプレビューするオプション
- スクリプト化されたイベントを更新して 'アプリケーションとアクティビティの柔軟性を向上させます
- Provisioning Collections 設定の特定の組み合わせに対するバグ修正

## クラウドワークスペースツールとサービス

- AVD ホストプールごとにワークロードスケジューリングを設定できるようにします
- 既存の AD 構造への新規導入の作成プロセスが改善されました

- Azure Files を使用している組織にデータパス、ホームパス、プロファイルデータパスを割り当てる機能を有効にします
- リソースプールを管理する機能を有効にします
- 導入ウィザードでの特殊文字の処理が改善されました
- RDS（AVD ではない）ワークロードの導入の一環として、自動化された HTML5 コンポーネントに対する調整

## REST API

- 導入可能な Azure リージョンのリストが更新されました
- TSData の役割を持つサーバの Azure Backup 統合の処理が改善されました
- ログインに失敗した場合にログイン試行が 2 回失敗するシナリオの一部で、問題を解決します

## CWA 設定

- Azure のベストプラクティスに従って、サブネット IP の詳細がプライベート IP アドレス範囲内にあるようにします。受け入れられるプライベート IP 範囲は次のとおりです。
  - 192.168.0.0 ～ 192.168.255.255
  - 172.16.0.0 ～ 172.31.255.255
  - 10.0.0.0 ～ 10.255.255.255

## HTML5 ログインエクスペリエンス

- の機能強化をホストするバックグラウンド処理 <https://login.cloudworkspace.com> および <https://login.cloudjumper.com>。注：カスタムブランドの HTML5 ログインポータルには影響はありません。
- セルフサービスパスワードリセットが表示されなかったシナリオの一部に対するバグ修正

## CWMS 5.3 Hotfix : Wedn 。 2020年4月

\_コンポーネント：\_5.3 Cloud Workspace Management Suite\_When：\_水曜日 2020 年 4 月 22 日午後 10 時～午後 11 時にイースタン\_インパクト：\_エンドユーザー向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

## Cloud Workspace Management Suite の略

- パフォーマンスアップグレードにより、お客様の使用量の増加に対応

## CWMS 5.3 リリース：Thurs、2020 年 4 月 16 日

\_コンポーネント：\_5.3 Cloud Workspace Management Suite\_When：\_木曜日 2020 年 4 月 16 日午後 10 時～午後 11 時にイースタン\_インパクト：\_エンドユーザー向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

## Cloud Workspace Management Suite の略

- AVD ホストプール VM の作成検証が継続的に強化されている（COVID-19 による Azure アクティビティの急増が原因で Azure のプロセス時間が考慮される）
- AVD 初期化時の AVD の安定性の向上-AVD テナント名が AVD にグローバルに固有でない場合、CloudJumper は、展開 / テナントに固有の更新された文字列に置き換えられます。
- CWMS パスワードリセット機能では、電子メールアドレスに特殊文字のサポートを含めることができます
- AVD RemoteApp グループにアプリケーションを追加するときに、一部のシナリオのバグ修正が [スタート] メニューからアプリケーションをプルしませんでした
- ユーザアクティビティレポートのサブセットに対するバグ修正
- AVD ホストプールの概要の要件を削除します（オプションフィールドおよびそのまま）。
- 共有ホストプール内の VM が VDI VM としてタグ付けされた単一フリンジのシナリオに対するバグ修正

## CWA 設定

- Distributor ワークフローのオーダーコードの追加サポート

## クラウドワークスペースツールとサービス

- Solarwinds Orion RMM ツールで管理される VM の管理を停止する機能が強化され、ワークロードスケジューリングに対応しました

## CWMS 5.3 リリース：Thurs、2020 年 4 月 2 日

\_コンポーネント：\_5.3 Cloud Workspace Management Suite\_When：\_木曜日 2020 年 4 月 2 日午後 10 時 ~ 午後 11 時にイースタン\_インパクト：\_エンドユーザー向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

## Cloud Workspace Management Suite の略

- アクティビティ履歴：日付のローカライズによって一部のアクティビティ履歴が CWMS に表示されない地域展開のディスプレイ問題を解決します
- 画像のサイズを問わないコレクション拡張をプロビジョニングします
- Azure テナント内の AADDS の複数のドメインに対するバグ修正-新しく作成されたユーザーは、Workspace のログイン ID を照合するのではなく、以前にプライマリ Azure ドメインを使用していました
- ユーザ名の更新時のアクティビティ履歴のバグ修正-機能は正常に動作していますが、以前のユーザ名は正しく表示されませんでした

## CWA 設定

- 登録時に使用される CWMS アカウントでの MFA の処理が改善されました
- 導入時に適用される権限が少なくなりました

## クラウドワークスペースツールとサービス

- 継続的なサービス / 自動化に必要な権限の削減
- CWMGR1 でのリソース消費を削減するためのプロセス強化

## REST API

- ユーザ名の更新時のアクティビティ履歴のバグ修正

### CWMS 5.3 Hotfix : Tues.2020年3月

\_コンポーネント: \_5.3 Cloud Workspace Management Suite\_When : \_ 2020 年 3 月 24 日 (火) 午後 10 時 ~ 午後 11 時にイースタン \_インパクト: \_ エンドユーザー向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

### Azure コスト試算ツール

- AVD ユーザータイプの概要と、Microsoft のドキュメントに従って実行されるプログラムを更新
- CWMS ライセンスの明確性が向上しました

### CWMS 5.3 リリース: Thurs、2020 年 3 月 19 日

\_コンポーネント: \_5.3 Cloud Workspace Management Suite\_When : \_ 木曜日 2020 年 3 月 19 日午後 10 時 ~ 午後 11 時 Eastern \_Impact : \_ エンドユーザー向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

### Cloud Workspace Management Suite の略

- 複数サイトへの展開のためのサーバ拡張機能への接続 - CWMS 管理者が接続しているサイトを自動的に検出し、接続を処理します
- 移行モードを有効にすると、ライブスケーリングが無効になります
- 既存のクライアントで新しい Cloud Workspace Services を有効にするためのバグ修正

### CWA 設定

- 導入ウィザードの機能強化が裏で行われました

### CWMS 5.3 リリース: Thurs、2020 年 3 月 5 日

\_コンポーネント: \_5.3 Cloud Workspace Management Suite\_When : \_ 木曜日 2020 年 3 月 5 日午後 10 時 ~ 午後 11 時 Eastern \_Impact : \_ エンドユーザー向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

### Cloud Workspace Management Suite の略

- Master Client レポートのパフォーマンス向上
- 正しく作成されなかった VM から削除機能を削除します。これは、作成されていない VM は削除できない

ためです

#### クラウドワークスペースツールとサービス

- DC Config 設定が適切に構成されていないマルチサイト環境を正常に処理するためのバグ修正
- vSphere サイトのリソース割り当てタイプが Fixed に設定されているマルチサイト環境のバグ修正

#### HTML 5 ポータル

- AVD 資格情報を使用してログインするユーザーのプロセス拡張機能

#### Azure コスト試算ツール

- ライブスケーリングのための明確な改善
- Microsoft AVD メッセージングに合わせた調整
- ワークロードのスケジューリングおよびライブスケーリングの削減の詳細に関するバグ修正。大幅にカスタマイズされた見積もりに含まれます

#### CWMS 5.3 リリース：Thurs.、2020 年 2 月 20 日

\_コンポーネント：\_5.3 Cloud Workspace Management Suite \_When：\_ 木曜日 2020 年 2 月 20 日午後 10 時～午後 11 時 Eastern \_Impact：\_ エンドユーザー向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

#### Cloud Workspace Management Suite の略

- ワークスペースモジュールの VM リソースタブで SDDC を配置に切り替えます

#### CWA 設定

- 導入中にポリシーを適用するプロセスを合理化
- Azure Active Directory ドメインサービスを使用した新規導入に対するセキュリティの強化
- 新しい導入のセキュリティを強化–導入時に（フラットサブネットではなく）サブネットの分離を定義する必要があります
- ThinPrint ライセンスを適用する際の RDS（非 AVD）展開のバグ修正
- ThinPrint が DC Config にインストールされているかどうかを適切に処理するためのバグ修正
- FTP 機能の利用を選択する組織の追加のチェックと検証

#### クラウドワークスペースツールとサービス

- 複数のサイトを含む導入環境に誤って設定されたサイトがある場合の自動化されたアクションのバグ修正
- VM を削除してもバックグラウンドで VM が正しく消去されないインスタンスのバグ修正
- DC Config でハイパーバイザー接続をテストする際の機能の改善とバグ修正

## REST API

- ・組織のユーザーのリストを表示する際のパフォーマンスの向上
- ・組織のアプリケーションのリストを表示する際のパフォーマンスの向上
- ・AVD アプリケーショングループにユーザーを追加する際の機能強化：
- ・425 にインポートするユーザーの数を制限します
- ・425 ユーザを超えるユーザをインポートしようとする場合は、最初の 425 ユーザのインポートに進み、ユーザインポートに対する AVD の制限が 425 であることを表示し、5 分以内に追加のインポートを続行できることを確認します
- ・グループ内のユーザーの数が、グループ内のユーザーの総数とは対照的に、グループ内のクラウドワークスペースユーザーの数であることを反映するために更新します（既存の Active Directory 構造に展開する場合は少なくなることがあります）。
- ・グループのメンバーである名前付きユーザーのセキュリティグループを使用して、アプリケーションの割り当てを有効にします（ネストされたグループは、アプリケーションの割り当てを受け取りません）。

## Azure コスト試算ツール

- ・ユーザーが支援を依頼できるように、ページの下部にリンクを追加します
- ・Premium レベルのデフォルトの Azure NetApp Files
- ・プレミアム SSD をファイルサーバストレージタイプの選択肢に追加します
- ・Azure Active Directory ドメインサービスのテキストを更新– AADDS から Azure AD ドメインサービスに変更
- ・Active Directory のテキストの更新– Windows Active Directory VM から Windows Server Active Directory に変更します

## CWMS 5.3 Hotfix : Thurs、2020 年 2 月 13 日

\_Components : \_5.3 Cloud Workspace Management Suite\_When : \_Thursday February 13、2020 年 2 月 13 日午後 10 時～午後 11 時 Eastern\_Impact : \_エンドユーザー向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

## Azure コスト試算ツール

- ・一部のシナリオで E シリーズ VM を使用する際の価格設定エラーに対するバグ修正

## CWMS 5.3 リリース : Thurs.、2020 年 2 月 6 日

\_コンポーネント : \_5.3 Cloud Workspace Management Suite\_When : \_Thursday February 6、2020 年 2 月 6 日午後 10 時～午後 11 時 Eastern\_Impact : \_エンドユーザー向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

## Cloud Workspace Management Suite の略

- ・VM 作成プロセスのプロビジョニングステータスの詳細が改善されました
- ・AVD ホストプールの一部である、新しく作成されたセッションホスト VM の自動化処理の改善

- ・「サーバアクセスユーザのみ」を含む場合のユーザアクティビティレポートのパフォーマンスの向上

## クラウドワークスペースツールとサービス

- ・管理者が従来の（Azure 以外の）Active Directory のユーザアカウントを手動で編集する際のデータパス管理のバグ修正
- ・微妙なシナリオにおけるワークロードスケジューリングの安定性が向上しました

## Azure コスト試算ツール

- ・ワークロードスケジューリングとライブスケーリングによって達成された具体的な削減について、別々に説明します組み合わせ（Combined）
- ・Premium（SSD）ストレージをサポートするために、サーバの「S」バージョンを表示します
- ・印刷された概算見積書のレイアウトを改善
- ・SQL Server の価格が正しく計算されなかった問題のバグ修正

## CWMS 5.3 リリース：Thurs、2020 年 1 月 23 日

\_コンポーネント：\_5.3 Cloud Workspace Management Suite\_When：\_Thursday January 23、2020 年 1 月 23 日午後 10 時～午後 11 時 Eastern\_Impact：\_エンドユーザー向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

## Cloud Workspace Management Suite の略

- ・古いをリダイレクトします <https://iit.hostwindow.net> 近代的なホテル <https://manage.cloudworkspace.com>
- ・IE 11 経由でログインしている CWMS 管理者のサブセットに関するバグ修正
- ・API ユーザを削除すると、そのユーザはバックグラウンドで正しく削除されますが、CWMS では削除済みと表示されていなかったビジュアル問題を修正します
- ・サブスクリプションをクリアするプロセスを合理化して '新しい / テスト環境を再プロビジョニングできます
- ・サービスボードの機能強化-アプリケーションのショートカットに使用するアイコンがオンラインになっているセッションホストサーバーのみを確認します

## クラウドリソースアプリケーション

- ・コマンドラインを使用した OU または Active Directory セキュリティグループからのユーザのインポートをサポートします

## クラウドワークスペースツールとサービス

- ・ライブスケーリングの拡張機能がバックグラウンドで強化されました

## CWA 設定

- ・CWA セットアッププロセスで使用するアカウントに MFA が適用されている場合のシナリオの処理が改善されました

## Azure コスト試算ツール

- VM のサイズ設定をデフォルトで更新して、Microsoft の推奨事項を反映させます

**CWMS 5.3 リリース：Thurs、2020 年 1 月 9 日**

コンポーネント：5.3 Cloud Workspace Management Suite  
When：Thursday January 9、2020 年 1 月 9 日午後 10 時～午後 11 時 Eastern Impact：エンドユーザー向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

## Cloud Workspace Management Suite の略

- 電子メール管理者のフレー징の更新は、更新されたリンクを反映するために新しいワークスペースを作成した後に受信されます
- 一連のフォルダ権限エラーが存在する場合、サーバーがサーバーリストに表示されていなかった問題のバグ修正
- CWMGR1 の Resource Pools テーブルにリソースプールが存在しない場合、サーバーのバグ修正は Servers リストに表示されませんでした

## クラウドリソースアプリケーション

- Active Directory セキュリティグループからのユーザのインポートをサポートします。
- 検証機能の強化：コマンドラインの引数 / サーバに適切なコマンドラインパラメータを使用していることを確認します
- 検証機能の強化：コマンドラインからインポートする際に、重複するユーザーをチェックします
- 検証機能の強化：コマンドラインからインポートするときに指定したサイトにインポートするサーバが属していることを確認します

## REST API

- セキュリティ機能の強化が舞台裏で追加されています

## クラウドワークスペースツールとサービス

- コマンド処理の安定性が向上しました
- ワークロードのスケジューリングとライブスケーリングの強化
- ワークロードのスケジュール設定と、バックグラウンドでのライブスケーリングの安定性が向上します
- 新しい展開における FSLogix の更新と機能強化：ダウンロードとお気に入りをプロファイルコンテナにリダイレクトして、ベストプラクティスに一致させます
- ホストプール VM の作成の安定性がさらに強化されています
- 新しいサイトのゲートウェイを指定できるようになります
- VM の自動検証機能が向上
- 自動化されたデータベース管理の向上
- VM の電源がオフになったときに同じ操作が実行されるようになったため、ユーザ作成処理の効率が向上しました



- Microsoft Azure 環境での一時ディスクの処理が合理化されました
- GCP 展開のリソース割り当てタイプの処理が改善されました
- ProfitBricks データセンターのドライブ拡張に関するバグ修正
- App Services ベースのクライアント作成の安定性が向上しました
- サーバをあるロールから別のロールに変換した後のバグ修正と安定性の向上

#### **CWMS 5.3 リリース：2019 年 12 月 20 日（金）**

\_コンポーネント： 5.3 Cloud Workspace Management Suite 日付： \_金曜日 2019 年 12 月 20 日午後 10 時 ~ 午後 11 時（ Eastern \_Impact ）： \_エンドユーザー向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

#### クラウドワークスペースツールとサービス

- ユーザアクティビティのロギングでデータが正常に記録されないシナリオを修正しました

#### **CWMS 5.3 リリース： Thurs. 、 2019 年 12 月 19 日**

\_コンポーネント： \_5.3 Cloud Workspace Management Suite \_When： \_Thursday December 19 （ 2019 年 12 月 19 日午後 10 時 ~ 午後 11 時）： \_エンドユーザー向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

#### **Cloud Workspace Management Suite の略**

- CWMS 可用性モニタリングの改善
- AVD アプリケーショングループのユーザーモダルを使用した問題の場合、大文字が含まれていると、ユーザー名が正しく選択されないことがあります
- 「 User Support Only 」 管理者ロールメンバーのユーザリストのページ付けを修正しました
- MFA セットアップダイアログでラジオボタンの配置を修正
- サービスボードの依存関係を削除することで、ダッシュボード / 概要ページのロードが改善されました
- 管理者ユーザーが管理者権限を持っていない場合、自分のパスワードをリセットできない問題の修正
- 将来のトラブルシューティングのためにデバッグログを収集する機能が改善され

#### クラウドリソースアプリケーション

- 機能拡張： AD グループメンバーシップに基づいてユーザのインポートを許可します。
- 機能拡張： インポート時にデフォルトのログオン識別子を指定できるようにします

#### **Azure コスト試算ツール**

- VM 下のストレージに関するテキストとツールチップを改善する

## CWA 設定

- ・ 導入ワークフローが改善されました

## クラウドワークスペースツールとサービス

- ・ 新しいユーザ作成時のデータサーバのロック処理の改善
- ・ ワークロードのスケジュール設定中に、クライアントにキャッシュ会社として誤ったフラグが設定される状況を修正しました
- ・ ワークスペースなしで組織が作成されたときに会社テーブルを正しく更新する修正
- ・ ローカルコントロールプレーンデータベース内の AVD ホストプール名に付加された無効な文字の修正
- ・ ワークロードのスケジュール設定を使用した問題に対して、VM がローカルのコントロールプレーンデータベースに表示され、ハイパーバイザーに表示されないように修正しました
- ・ 一部の VM のドライブが Azure ハイパーバイザーで自動的に拡張されないように、問題を修正しました
- ・ クライアントプロビジョニングエラー「applied data drive not valid」の修正
- ・ 特定のシナリオで CWAagent のインストールに失敗した場合の修正
- ・ TestVDCTools の改善により、新しいサイトの作成時に RDS ゲートウェイ URL を割り当てることが可能になりました
- ・ 「disabled」に設定されている一部のシナリオで、ワークロードのスケジューリングエラーが修正されました
- ・ キャッシュ内にサーバーがまだ存在する場合の問題を修正しました
- ・ ドライブの自動拡張後に一部の VM の電源投入に失敗した場合の修正
- ・ Azure NetApp Files で Azure ファイルまたは問題を使用する際のフォルダ / 権限の管理に関する問題が修正されました

## CWMS 5.3 リリース : Mon.2019年12月

\_コンポーネント : \_5.3 Cloud Workspace Management Suite\_When : \_月曜、2019 年 12 月 2 日午後 10 時 ~ 午後 11 時、Eastern \_Impact : \_エンドユーザー向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

## Cloud Workspace Management Suite の略

- ・ FSLogix の自動インストールに対する機能強化
- ・ ライブスケーリングの更新と修正
- ・ CWMS のドロップダウンリストに AMD (GPU 以外の) VM を追加します
- ・ 同じ AVD 環境で複数のテナントをサポート

## CWA 設定

- ・ CWA 設定のヘルプ / サポートセクションでの明確な改善

## Azure コスト試算ツール

- ・見積もりに Microsoft ライセンスを含まないことを選択したシナリオのバグ修正が引き続き含まれます

## クラウドリソースアプリケーション

- ・データセンターサイトのコマンドライン機能を使用する際の追加の検証
- ・新しいコマンドライン引数 - /listserversinsite
- ・設定の拡張-会社をインポートするときに、サイトに設定されている RDSH ゲートウェイを使用するように RDSH 展開を設定します

## クラウドワークスペースツールとサービス

- ・ DC 構成の vCloud サポート要素を更新しました
- ・ より具体的なシナリオでサーバタイプを正しく検出するための TestVDCTools の機能強化

## CWMS 5.3 リリース： Thurs.、2019 年 11 月 14 日

\_ コンポーネント： \_ 5.3 Cloud Workspace Management Suite \_ When： \_ Thursday November 14、2019 年 11 月 14 日午後 10 時 ~ 午後 11 時 Eastern \_ Impact： \_ エンドユーザ向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

## Cloud Workspace Management Suite の略

- ・ 冗長性と高可用性がバックグラウンドで追加されています
- ・ CWMS のドロップダウンメニューが検索可能になります
- ・ ワークスペースモジュール使用時のパフォーマンスの向上
- ・ ワークスペースモジュールのサーバーセクションを使用した場合のパフォーマンスの向上
- ・ ワークスペースモジュールのサーバーセクションにホストプール名を表示します
- ・ ワークスペースモジュールのサーバーセクションがページ設定され、一度に 15 台のサーバーが表示されます
- ・ バグ修正：一部の管理者が新しいホストプールを作成しても VM テンプレートが表示されないシナリオ
- ・ ホストプールに移動するシナリオのバグ修正では、2 番目のホストプールに最初のホストプールからの情報が表示される場合があります
- ・ 管理者のサブセットが旧バージョンの CWMS にログインできなかったバグ修正
- ・ AVD Diagnostics に移動し、ワークスペースに戻り、「ページが見つかりません」というバグ修正が表示されました
- ・ ホストプールの名前と一致するように、ユーザのデスクトップのフレンドリ名（AVD RDP クライアントに表示される名前と、ユーザセッションの上部にある青いバーに表示される名前）を変更します
- ・ サーバは、デフォルトではオフになっている [新しいセッションを許可する] チェックボックスを使用して、手動でプールに追加する必要があります。チェックボックスはデフォルトでオンになっています。

## CWA 設定

- 導入環境では FSLogix が自動的に使用されるようになりました
- Azure Active Directory ドメインサービスを使用する場合は、Data、Home、Profile ストレージのオプションのストレージターゲットとして Azure ファイルを追加します
- Azure テナントで RBAC が有効になっている場合に導入の自動化をサポートするパッケージを導入する
- 各導入環境に最新バージョンの Java および HTML5 ライセンスをインストールします
- サブネット範囲が正しく計算されなかった場合のバグ修正。導入前に検証エラーが発生しました

## HTML5 ログインエクスペリエンス

- デフォルトのブランディングを更新して、Cloud Workspace Client for Windows のブランディングを反映させてください。プレビューはこちらからご覧いただけます。
- 追加ブランドの HTML5 ログインページにインプレースブランディングの更新を適用します

## Azure コスト試算ツール

- D4s v3 VM（AVD のデフォルトの VM タイプ）のデフォルトストレージ階層を Premium SSD に更新して、Microsoft のデフォルト設定に合わせます

## クラウドリソースアプリケーション

- インポート時に使用する会社コードを事前に割り当てる機能を追加します

## CWMS 5.3 リリース：Thurs.、2019 年 10 月 31 日

コンポーネント：5.3 *Cloud Workspace Management Suite* 日付：\_ 木曜日 2019 年 10 月 31 日午後 10 時 ~ 午後 11 時（東部標準時）：\_ エンドユーザー向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

## Cloud Workspace Management Suite の略

- iit.hostwindow.net にログインしているユーザのための更新（古いバージョンの v5.2 展開の URL は非常に少ない）は、manage.cloudworkspace.com（v5.3 および今後の展開の URL）に移動するように指示するプロンプトを表示します。
- ユーザが CWMS を使用して AVD ホストプールを削除できるようにします
- 今後の CWMS でのブランディングの強化を可能にする機能強化
- VDI Provisioning Collection を検証する際の問題のバグ修正

## Deployment Automation

- 自動化された問題解像度と、プロセスの合理化による舞台裏での改善

## HTML5 ログインエクスペリエンス

- login.cloudjumper.com または login.cloudworkspace.com から仮想デスクトップにログインするエンドユーザに対して、一連のユーザエクスペリエンスの向上を行います。

- ユーザーがアクセスできる AVD ホストプールを表示できるようにします
- 適切な権限を持つユーザーに対して Wake On Demand 機能を有効にし、AVD セッションのホスト VM がオフラインになるようにスケジュールされているときにログインして作業できるようにします
- CWMS のユーザーアカウントに電子メールまたは電話番号が設定されているユーザーに対して、セルフサービスパスワードリセットを有効にします

## Azure コスト試算ツール

- AD Connect のユースケースに対して AVD を選択した後、ユーザーが Windows Active Directory VM を選択できるようにします
- Microsoft のデフォルト値に合わせて、すべての VM のデフォルトのストレージ容量を 128 GB に更新します
- Microsoft のデフォルト値に合わせて、アップタイム時間のデフォルト設定を 220 に更新します
- Microsoft が変更した名前に一致するようにワークロードタイプの名前を更新します

## CWMS 5.3 リリース：Thurs.、2019 年 10 月 17 日

\_コンポーネント：\_5.3 Cloud Workspace Management Suite\_When：\_Thursday October 17、2019 年 10 月 17 日午後 10 時～午後 11 時 Eastern\_Impact：\_エンドユーザー向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

## Cloud Workspace Management Suite の略

- 組織のワークスペースの OS として Server 2019 をサポートします
- AVD ホストプール内のアクティブユーザーの表示を改善するために更新します
- AVD 展開で複数の組織 / ワークスペースを許可します
- 管理者に関連付けられた複数のフィールドを編集するには、[更新] ボタンを追加します
- 会社の詳細と連絡先情報を編集するには、[更新] ボタンを追加します
- Flight School を使用するための検索機能が更新されました
- CWMS の下部にあるリンクを更新
- AVD 展開で検証ホストプールを使用できるようにします。これにより、AVD 機能が GA（本番リリース）になる前に、AVD 機能に以前からアクセスできるようになります。
- AADDs 展開で管理者が行ったアクションに応答するプロンプトで、タイプミスを修正します
- App Services の権限がない管理者への確認を求めるバグ修正

## REST API

- 組織のワークスペースの OS として Server 2019 をサポートします
- 呼び出しがクライアントのサービスをオフラインとして返すシナリオのバグ修正

## Deployment Automation

- データセンターサイト名の自動生成に関するバグ修正

- 要約されたログファイルと c : \Program Files to c : \ProgramData に移動されたログファイル

## クラウドワークスペースツールとサービス

- Azure Shared Image Gallery からのテンプレートへのアクセスのサポート
- セキュリティの向上–ログファイルの場所を c : \Program Files から c : \ProgramData （また、Microsoft の更新されたベストプラクティス）に変更することにより、管理アカウントの使用を削減する
- VDCTools でのデータセンターサイト作成の機能強化–サイトは名前にスペースを使用して作成できます
- データセンターサイトの自動作成機能の追加–アドレス範囲を自動的に選択できるようになりました
- 機能の追加–管理対象外の VHD ファイルをテンプレートとして使用するための構成オプションを追加します
- プロビジョニングコレクションでの VM シリーズ / サイズの割り当てのサポート
- ライセンスサーバー設定が不適切に適用されたシナリオのサブセットのバグ修正
- バグ修正–展開後に意図したとおりに一時フォルダを削除します
- Azure ですでに使用されている VM と同じ IP アドレスを持つサーバを作成する場合のバグ修正

## Azure コスト試算ツール

- AVD のお客様が Windows OS VM ではなく Linux OS VM を購入したことを反映して価格を更新します
- 関連する Microsoft ライセンスを含めるオプションを追加しました
- Microsoft の更新された計算機に従って使用されるストレージのデフォルトに更新します（フラットまたはユーザ数）
- SQL に関して D4s v3 VM の料金を追加
- VM の編集時に表示問題のバグ修正

## CWMS 5.3 リリース：Thurs.、2019 年 10 月 3 日

\_コンポーネント：\_5.3 Cloud Workspace Management Suite\_When：\_Thursday October 3、2019 年 10 月 3 日午後 10 時～午後 11 時 Eastern\_Impact：\_エンドユーザ向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

## Cloud Workspace Management Suite の略

- [戻る] をクリックすると、[組織] タブではなく [ワークスペース] タブに戻ります
- CWMS を使用して Azure でクラウドワークスペースをプロビジョニングする場合は、検証ステップで AADDs が正常に検証されていることを確認します
- 最大 256 文字のユーザ名をサポートします

## CWA 設定

- ユーザが自分のアカウントを CWMS にリンクしていても、初めて導入のプロビジョニングを完了していない場合に、リンクされたパートナーアカウントを覚えておくためのシステムの改善点
- CSP ワークフロー中にクラウドワークスペース展開をプロビジョニングするテナントを選択したときに表

## 示される javascript エラーのバグ修正

### Azure コスト試算ツール

- Azure Cost Estimator で Microsoft のライセンスを表示するかどうかを選択するオプションを追加します
- この機能を有効にしないと ( デフォルトの動作 )、組織が EA または既存の Microsoft Office 365 ライセンスを介してすでに Microsoft ライセンスを所有していることを前提としています
- これを有効にすると、解決策をより包括的に TCO レベルで理解できます
- ユーザが 15 分単位でアップタイムを切り替えていたときに、アップタイムがわずかにオフになったバグ修正
- ユーザが午後 / 夕方 ( PM 設定 ) に開始するように設定し、朝 ( AM 設定 ) に終了するシナリオのバグ修正

### CWMS 5.3 リリース : Thurs.、2019 年 9 月 19 日

\_コンポーネント : \_5.3 Cloud Workspace Management Suite\_ When : \_ Thursday September 19 ( 2019 年 9 月 19 日午後 10 時 ~ 午後 11 時 ) : \_ エンドユーザー向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

### Cloud Workspace Management Suite の略

- デフォルトでは、Azure 導入のリソース割り当てタイプは [Fixed] に設定されています。選択されている VM シリーズ / サイズは、CWMS の管理者によって定義された VM です
- ユーザアクティビティ 監査機能の検索機能を追加します
- ユーザーの一括作成プロセスの改善-ユーザーをインポートするときに、 [ 次回ログオン時にパスワード変更を強制する ] 機能を有効にします
- バグ修正により、55 分ではなく 5 分後にセッションの非アクティブ時のタイムアウトに関する警告が誤って表示される
- ユーザーサポートロールの修正-このロールを持つ管理者のサブセットが、組織のユーザーのリストを表示できませんでした
- ユーザによるソート修正-ユーザ名でソートすると、ステータスでソートするのではなく、目的の操作を行うことができます
- [Deployments] タブの [Overview] セクションに、ハートビート機能が追加されました。これは、展開が最後にポーリングされてオンラインかどうかを確認するときに表示されます
- ワークフローの改善 -AVD モジュールで [ 戻る ] をクリックすると、組織モジュールではなくワークスペースモジュールが使用されます
- マスタークライアントレポートが存在することを確認します。非マスターソフトウェアパートナーの該当しない SPLA レポートは非表示にしてください

### クラウドワークスペースツールとサービス

- AVD でサポートされている ThinPrint エージェントではないため、ホストプール内の Azure Virtual Desktop ( AVD ) サーバから標準の ThinPrint エージェントを削除します。その代わり、企業は「リストアに関する解決策」について ThinPrint に問い合わせる必要があります。
- 強化されたパスワード暗号化機能

- CWMGR1 の管理者がパスワードの有効期限を Null に設定した場合、パスワード強制通知（PEN）のバグ修正。「次回ログイン時にパスワードを変更」機能を使用しても、意図したとおりに動作しませんでした

## Cloud Workspace for Azure セットアップアプリ

- 国際的な管理者向けの修正–国が米国でない場合は、これを長くすると州が必要になります。
- Partner Admin Link（PAL）経由で CloudJumper を適用すると、Azure のサブスクリプションレベルでの提供と今後の導入が可能になります

**CWMS 5.3 リリース：Thurs.、2019 年 9 月 5 日**

\_コンポーネント：5.3 Cloud Workspace Management Suite 日付：\_木曜日 2019 年 9 月 5 日午後 10 時～午後 11 時（Eastern \_Impact）：\_エンドユーザー向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

## Cloud Workspace Management Suite の略

- User Support Only ロールの更新：
- 検索 / フィルタリングユーザー機能を追加します
- ユーザーとその接続に接続ステータス列を含める
- 次回ログイン時にパスワード変更を強制する機能へのアクセスを提供します
- クライアント削除機能の表示を削除します
- 1 時間非アクティブの後に CWMS のログアウトを強制します
- リソース割り当てタイプが固定に設定されている VM ロールを表示するときに、VM シリーズ / サイズが正しく表示されないという表示問題の修正
- Display 問題では、ワークロードのスケジューリングが [常にオフ] に設定されている環境では、CWMS で不適切な設定が表示されていましたが、正しくは [常にオフ] に設定されています
- アクセス権の更新–CWMS 管理者が CWMS の Resources 関数にアクセスできない場合は、[リソーススケジュール] タブを削除します
- VDI ユーザホストプールに複数の VM インスタンスを追加できないようにします
- AVD ホストプール内のセッションホストあたりの最大ユーザー数の修正を表示–これらの値は、[ワークロードのスケジュール] タブの [ライブスケール] セクションで設定された値と一致します

## クラウドリソースアプリケーション

- 機能の更新–コマンドラインの使用方法のサポート

## クラウドワークスペースツールとサービス

- vCloud REST インターフェイスのサポート

**CWMS 5.3 リリース：2019 年 8 月 22 日**

\_コンポーネント：\_5.3 Cloud Workspace Management Suite\_When：\_Thursday August 22、2019 年 10 時～23 時 Eastern \_Impact：\_エンドユーザー向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケー



ションサービスへのアクセスは中断されません。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

### 5.3 Cloud Workspace Management Suite の略

- AVD がサポートされる状況を定義する [AVD] タブにメッセージを追加します
- AVD タブからワークスペースに戻るときのワークフローが改善されました
- AVD モジュールの説明のテキスト編集

### 5.3 Cloud Workspace for Azure のセットアップ

- お客様の登録が米国外の場合は、州への入国要件を削除します
- 現在、CWMGR1 を D シリーズ VM として展開し、初期展開後のコスト目的で B2ms にサイズ変更します

### クラウドワークスペースツールとサービス

- レガシー（2008 R2）環境での SSL 証明書管理に関するバグ修正
- 証明書の適用とライフサイクル管理に関するその他の健全性チェック

**CWMS 5.3 リリース：2019 年 8 月 8 日**

\_ コンポーネント：\_ 5.3 Cloud Workspace Management Suite\_ When：\_ Thursday August 8、2019 年 10 時 ~ 23 時 Eastern \_Impact：\_ エンドユーザ向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

### 5.3 Cloud Workspace Management Suite の略

- CWMS から CWMGR1 に接続するシナリオのサブセットに関するバグ修正が期待どおりに機能していません

### Cloud Workspace Management Suite –バージョン 5.2



今後の CWMS v5.2 については、リリースはすべて修正プログラムと見なされます。

**CWMS 5.2 リリース：2019 年 12 月 2 日、月**

コンポーネント：5.2 Cloud Workspace Management Suite、2019 年 12 月 2 日（月）午後 10 時 ~ 午後 11 時（東部標準時）：エンドユーザ向けの Cloud Workspace デスクトップとアプリケーションサービスへのアクセスが中断されないままになります。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

このリリースサイクルの更新はありません。

**CWMS 5.2 リリース：Thurs.、2019 年 11 月 14 日**

コンポーネント：5.2 Cloud Workspace Management Suite、2019 年 11 月 14 日（木）午後 10 時 ~ 午後 11 時の東部への影響：エンドユーザ向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスが中断されないままとなります。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き

き可能です。

このリリースサイクルの更新はありません。

#### **CWMS 5.2 リリース：Thurs.、2019 年 10 月 31 日**

コンポーネント： 5.2 Cloud Workspace Management Suite、2019 年 10 月 31 日（木）午後 10 時～午後 11 時の東部への影響：エンドユーザ向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスが中断されないままになります。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

このリリースサイクルの更新はありません。

#### **CWMS 5.2 リリース：Thurs.、2019 年 10 月 17 日**

コンポーネント： 5.2 Cloud Workspace Management Suite、2019 年 10 月 17 日（木）午後 10 時～午後 11 時の東部への影響：エンドユーザ向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスが中断されないままとなります。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

このリリースサイクルの更新はありません。

#### **CWMS 5.2 リリース：Thurs.、2019 年 10 月 3 日**

コンポーネント： 5.2 Cloud Workspace Management Suite、2019 年 10 月 3 日（木）午後 10 時～午後 11 時の東部への影響：エンドユーザ向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスが中断されないままとなります。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

このリリースサイクルの更新はありません。

#### **CWMS 5.2 リリース：Thurs.、2019 年 9 月 19 日**

コンポーネント： 5.2 Cloud Workspace Management Suite、2019 年 9 月 19 日（木）午後 10 時～午後 11 時の東部への影響：エンドユーザ向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスが中断されないままとなります。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

### **Cloud Workspace Management Suite の略**

Azure 展開のリソース割り当てタイプを既定値として [ 固定 ] に設定します。選択された VM シリーズ / サイズが、CWMS の管理者によって定義された VM であるユーザアクティビティ監査機能のバグ修正セッション非アクティブタイムアウト警告を誤って表示する問題 5 分後にユーザサポートロール修正-このロールを持つ管理者のサブセット 組織のユーザーのリストを表示できませんでしたユーザーのソート修正-ユーザー名でソートすると、ステータスでソートする代わりに意図したとおりに機能します。マスタークライアントレポートが存在することを確認します。非マスターソフトウェアパートナーの該当する SPLA レポートを非表示にします

### **Cloud Workspace のツールとサービス**

パスワード失効日が CWMGR1 の管理者によって null に設定されている場合、パスワード強制通知（PEN）のための強化されたパスワード暗号化機能を使用すると、意図したとおりに「次回ログオン時のパスワード変更」機能を使用できませんでした

## Cloud Workspace for Azure セットアップアプリケーション

国際的な管理者向けの修正-国が米国でない場合は、これを長くすると州が必要になります。Partner Admin Link (PAL) 経由で CloudJumper を適用すると、Azure のサブスクリプションレベルでの提供と今後の導入が可能になります

**CWMS 5.2 リリース：Thurs.、2019 年 9 月 5 日**

コンポーネント：5.2 Cloud Workspace Management Suite、2019 年 9 月 5 日 (木) 午後 10 時～午後 11 時の東部への影響：エンドユーザ向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスが中断されないままとなります。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

### Cloud Workspace Management Suite の略

User Support Only ロールの更新：\* 検索の追加 / ユーザーのフィルタリング機能 \* ユーザーとその接続の [ 接続ステータス ] 列を含む \* 次のログイン時にパスワードを強制変更する機能へのアクセスを提供 \* [ クライアントの削除 ] 機能の表示を削除 1 時間非アクティブの後に CWMS のログアウトを強制するディスプレイ問題の修正 リソース割り当てタイプが固定に設定されている VM ロールを表示するときに、VM シリーズ / サイズが正しく表示されないという問題が表示される問題では、ワークロードのスケジュールが常にオフに設定されている環境の CWMS で不適切な設定が表示されていました。[ 権限の更新 ] のシーンの背後で [ 常にオフ ] に正しく設定されているにもかかわらず、CWMS 管理者が CWMS の [ リソース ] 機能にアクセスできない場合は、[ リソースのスケジュール ] タブを削除します

クラウドリソースアプリケーション

機能の更新-コマンドラインの使用方法的サポート

### Cloud Workspace のツールとサービス

vCloud REST インターフェイスのサポート

**CWMS 5.2 リリース：Thurs.、2019 年 8 月 22 日**

コンポーネント：5.2 Cloud Workspace Management Suite、2019 年 8 月 22 日 (木) 午後 10 時～午後 11 時の東部への影響：エンドユーザ向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスが中断されないままとなります。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

### Cloud Workspace Management Suite の略

一部のモニターサイズのユーザープロファイルでディスプレイ問題を修正する動的でないアプリケーションサービスについて明確にするメッセージを追加します。変更が有効になるまでに数分かかる場合があることを管理者に通知します。動的でないアプリケーションサービスの場合は、[ 再更新 ] ボタンを追加して、新しいクライアント / ユーザーが持っているかどうかを簡単に確認します が追加されました

### Cloud Workspace for Azure のセットアップ

既存の CWMS アカウントへのリンクを確立する際の登録プロセスの MFA のサポートを追加プロビジョニング後の手順へのリンク-新しい公開 KB の改善へのリンクとプロビジョニング後の手順へのリンク-リンクが新しいタブに表示されます

## Cloud Workspace のツールとサービス

レガシー（2008 R2）環境での SSL 証明書管理に関するバグ修正証明書の適用とライフサイクル管理に関する追加の健全性チェック

**CWMS 5.2 リリース：Thurs.、2019 年 8 月 8 日**

コンポーネント：5.2 Cloud Workspace Management Suite、2019 年 8 月 8 日（木）午後 10 時～午後 11 時の東部への影響：エンドユーザ向けの Cloud Workspace デスクトップとアプリケーションサービスへのアクセスが中断されないままになります。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

このリリースの更新はありません。

**CWMS 5.2 リリース：Thurs.、2019 年 7 月 25 日**

コンポーネント：5.2 Cloud Workspace Management Suite、2019 年 7 月 25 日（木）午後 10 時から 23 時（東部標準時）：エンドユーザ向けの Cloud Workspace デスクトップとアプリケーションサービスへのアクセスが中断されないままになります。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

### 5.2 CWA のセットアップ

CWA セットアップユーザーを CloudJumper Public KB に誘導するメッセージをプロビジョニング後に表示します。ここでは次の手順を確認し、登録プロセス時に米国外の国の処理を改善する方法を確認できます。また、新しく作成した CWMS のパスワードを確認するフィールドを追加しました RDS ライセンスが不要な場合は、CWA 設定プロセス中にログインして SPLA ライセンスを削除します

### 5.2 Cloud Workspace Management Suite の略

単一サーバー展開での CWMS 管理者に対する HTML5 接続処理の改善ユーザーの処理を再開するシナリオのバグ修正（以前に失敗した場合）RDS ライセンスが不要な状況では、「Internal Server Error」というメッセージが表示され、CWMS 内の自動 SSL 証明書処理や自動 SMTP などの SPLA ライセンスの削除セクションが表示されました

### 5.2 Cloud Workspace のツールとサービス

VDI ユーザが電源オフに設定されているときに VM からログアウトすると、その VM の Azure Backup 拡張機能の電源がオフになります。TSD1 サーバを VM としてリストアする場合は、TS VM としてリストアする。追加の TSD VM を用意する代わりに、バックエンド処理速度とセキュリティを向上させる Azure バックアップ用の Azure VM を用意する

### 5.2 REST API

サーバ情報の処理が改善され、Wake-on-Demand サーバのロード時間が短縮されました

**CWMS 5.2 リリース：Thurs.、2019 年 7 月 11 日**

コンポーネント：5.2 Cloud Workspace Management Suite、2019 年 7 月 11 日（木）午後 10 時～午後 11 時の東部への影響：エンドユーザ向けの Cloud Workspace デスクトップとアプリケーションサービスへのアクセスが中断されないままになります。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

## 5.2 Cloud Workspace のツールとサービス

バックグラウンドで継続的にセキュリティを強化自動生成証明書の継続的な安定性の強化最小特権方法論の改善権限の少ないアカウントを使用するように調整し、一般的なロックダウンの影響を受けないように調整して、Azure 展開用の統合バックアップのための夜間リブートの改善 GCP 展開バグ修正のための統合バックアップの改善を実行します 必要に応じて、手動で証明書を管理できるようにするために、すでにプロセス強化が修正されている場合に、リソース調整を適用するためにサーバを再起動する必要はなくなりました

**CWMS 5.2 リリース：Thurs.、2019 年 6 月 20 日**

コンポーネント：5.2 Cloud Workspace Management Suite、2019 年 6 月 20 日（木）午後 10 時～午後 11 時の東部への影響：エンドユーザ向けの Cloud Workspace デスクトップとアプリケーションサービスへのアクセスが中断されないままになります。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

## 5.2 Cloud Workspace Management Suite の略

CRA プロセス経由で CWMS にインポートされたユーザの処理が改善されました。CWMS Web インターフェイスの下部で年更新されたシナリオのサブセットについては、ワークスペースモジュールの「サーバ」セクションに正しいストレージが表示されます

## 5.2 Cloud Workspace のツールとサービス

証明書の自動化機能の強化

## 5.2 REST API

表示の修正-ライブスケールリング機能を再度開いたときに、ライブスケールリング機能で以前に入力した正しい値を表示します。これにより、パワーユーザーの役割（VDI ユーザー）のデフォルトのバックアップスケジュールを作成できます。

**CWMS 5.2 リリース：Thurs.、2019 年 6 月 6 日**

コンポーネント：5.2 Cloud Workspace Management Suite、2019 年 6 月 6 日（木）午後 10 時～午後 11 時の東部への影響：エンドユーザ向けの Cloud Workspace デスクトップとアプリケーションサービスへのアクセスが中断されないままになります。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

## 5.2 Cloud Workspace のツールとサービス

プラットフォーム通知用の複数の E メール処理の改善ワークロードのスケジューリングがサーバをオフにしないシナリオのサブセットのバグ修正 Azure Backup からサーバをリストアしないシナリオのサブセットのためのバグ修正適切なストレージタイプとをリストアしませんでしたデフォルトのストレージタイプ

## 5.2 CWA のセットアップ

CWA セットアッププロセス中のセキュリティ強化の継続サブネットとゲートウェイ設定の自動処理の改善登録プロセス中のユーザアカウント処理の舞台裏プロセスの改善には、ユーザが CWA セットアッププロセスに 1 時間以上残っている場合にトークンを更新するプロセスが含まれています

**CWMS 5.2 リリース：Thurs.、2019 年 5 月 23 日**

コンポーネント：5.2 Cloud Workspace Management Suite、2019 年 5 月 23 日（木）午後 10 時から 23 時

(東部標準時)：エンドユーザ向けの Cloud Workspace デスクトップとアプリケーションサービスへのアクセスが中断されないままになります。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

## 5.2 Cloud Workspace Management Suite の略

ワークスペースモジュールの [AVD] タブの改善されたリンク Data Center モジュールからワークスペースへのリンクをクリックしても、プライマリ管理者の連絡先情報を更新するとそのワークスペースバグ修正が削除されるシナリオのワークスペースバグ修正に移動しない場合 プライマリ管理者として指定します

**CWMS 5.2 リリース：Thurs.、2019 年 5 月 9 日**

コンポーネント：5.2 Cloud Workspace Management Suite、2019 年 5 月 9 日 (木) 午後 10 時～午後 11 時の東部への影響：エンドユーザ向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスが中断されないままとなります。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

## 5.2 Cloud Workspace のツールとサービス

数百～数千台の VM を含む環境での拡張性の向上

**CWMS 5.2 リリース：Thurs.、2019 年 4 月 25 日**

コンポーネント：5.2 Cloud Workspace Management Suite、2019 年 4 月 25 日 (木) 午後 10 時～午後 11 時 (東部標準時)：エンドユーザ向けの Cloud Workspace デスクトップとアプリケーションサービスへのアクセスが中断されないままになります。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

## 5.2 Cloud Workspace Management Suite の略

インターフェイスの改善– Azure または GCP のサーバでバックアップが有効になっていない場合は、サーバの [バックアップ] セクションからサイズ列を削除します

## 5.2 Cloud Workspace のツールとサービス

リソースの変更後に RDP サーバや HTML5 ゲートウェイサーバのリソースを変更してもオンラインに戻らないシナリオに対するバグ修正

## 5.2 REST API

シナリオに関係なく、最初の MFA 設定の処理が改善されました

## 5.2 CWA のセットアップ

既存の CWMS アカウントのサポート。間接 CSP が正しくプロビジョニングし、既存パートナーのプロセスを簡素化 Azure Active Directory ドメインサービスの追加検証を行います。Azure Active Directory ドメインサービスが選択されていても、すでに使用されている場合は、エラーが表示されます

**CWMS 5.2 リリース：Thurs.、2019 年 4 月 11 日**

コンポーネント：5.2 Cloud Workspace Management Suite、2019 年 4 月 11 日 (木) 午後 10 時～午後 11 時の東部への影響：エンドユーザ向けの Cloud Workspace デスクトップとアプリケーションサービスへのアクセスが中断されないままになります。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です

す。

## 5.2 Cloud Workspace Management Suite の略

Provisioning Collections のバグ修正–デスクトップアイコンが表示されないアプリケーションで Provisioning Collection を保存すると、CWMS のバグ修正でエラーが表示されなくなります。CWMS から停止したプラットフォームサーバを起動する問題を解決すると、パートナーが存在しないためエラーが表示されました コードが添付されました

## 5.2 Cloud Workspace のツールとサービス

vCloud 環境でのサーバの削除に関する安定性の強化– 1 つの vApp で複数の FMS が検出された場合、vApp を削除する代わりに VM を削除する方法ワイルドカード証明書をインストールしないオプションを追加する AzureAD のサーバリソースレポートでの TSD サーバのクローニングの改善–複数の IP アドレスを持つサーバの処理複数の IP アドレスを持つサーバのバグ修正のシナリオのリストの場合 Azure Classic のプレフィックスを使用して VM をクローニングしようとしたときに、AzureRM でのサーバのバックアップがレビュー用にロードされなかった（すべての新規および最近の導入で AzureRM を使用） Server 2008 R2 の Server Resource Report で DNS エラーのバグ修正が正しく報告されない原因 Server Resource Report for not sending the Company Resource report in the event that a VM deleted from the hypervisor （ but not from AD ） および CWMS がハイパーバイザー自体で Azure バックアップを検出できない（ AzureRM 環境でのみ）

## 5.2 CWA のセットアップ

プロビジョニング対象として選択したリージョンで Azure Active Directory ドメインサービスが使用可能であることを検証する方法の追加一部のシナリオで DNS タイムアウトの問題を解決するための追加チェックを追加 CMGR1 導入のターゲットとして 2 秒を削除します。これは、導入プロセスの速度が低下しているためです

**CWMS 5.2 リリース： Thurs. 、 2019 年 3 月 28 日**

コンポーネント： 5.2 Cloud Workspace Management Suite 、 2019 年 3 月 28 日（木）午後 10 時から 23 時（東部標準時）：エンドユーザ向けの Cloud Workspace デスクトップとアプリケーションサービスへのアクセスが中断されないままになります。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

## 5.2 Cloud Workspace Management Suite の略

CWMS インターフェイスに Azure Virtual Desktop セクションを追加すると、CWMS 管理者は、カスタム App Catalog でアプリケーションを更新するときに、[ 設定 ] → [ ログ ] [ 外部 ID の追加要件 ] の下に会社のロゴを設定できなくなります

## 5.2 Cloud Workspace のツールとサービス

Azure 向けクラウドワークスペース（CWA）の導入プロセスのさらなる合理化と改善 Azure RM 環境でプレミアムストレージを使用して VM を作成する必要がなくなり、アプリケーション使用状況追跡レポートで使用情况データが収集されないシナリオのサブセットで問題が解決されます HTML5 ポータルサーバで証明書を更新するとエラーが発生する問題は、HTML5 ポータルサーバライセンスのバグ修正でパスワード有効期限通知が更新され、Azure Active Directory ドメインサービスの使用時にパスワードが更新されませんパスワード有効期限通知がログファイルを書き込む場所を調整しました

## 5.2 REST API

データセンターモジュールでプラットフォームサーバ（顧客サーバではない）を起動 / 停止するためのバグ修

## 5.2 CWA のセットアップ

導入時の FTP ロール設定の改善メカニズムが改善され、管理者が CWA セットアッププロセスにアクセスするたびに最新リリースを確認できるようになりました。導入時のバグ修正時に、導入時にタイムアウトになる要素の処理が改善されました。これは、導入時に誤って Azure AD を使用するようタグ付けられたシナリオ

**CWMS 5.2 マイナーリリース：Thurs、2019 年 3 月 14 日**

コンポーネント：5.2 Cloud Workspace Management Suite、2019 年 3 月 14 日（木）午後 10 時から 23 時（東部標準時）：エンドユーザ向けの Cloud Workspace デスクトップとアプリケーションサービスへのアクセスが中断されないままになります。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

### 5.2 Cloud Workspace Management Suite の略

「アプリケーション監視」機能の名前を「アプリケーション使用状況追跡」に変更スクリプト化イベントの検索を更新しても、選択した開始日または終了日を再使用しない修正を適用デフォルトファイル監査を現在の日付の 1 日前に設定した日付フィルタで開始します。バックアップをサーバにリストアするときに意図したとおりに機能していなかった場合に、Azure の Integrated Backups にバグ修正を返したデータ量を合理化することで、アプリケーションサービスに属するクライアントを更新するときに、アプリケーションエラープロンプトが解決します

### 5.2 REST API

Azure Safeguard – Azure AD ユーザーを追加する際に、アカウントにメールアドレスがまだ追加されていないことを確認します。バグ修正–クライアントのアプリケーションを追加し、同時にグループを作成する場合、サーバーが再起動された後も確実に適用されることを保証する RDSH サーバーへのアクセスを無効にするときに、グループにアプリケーションを追加するときのシナリオのサブセットに対する一般的な改善 CWA ワークフロー自動化バグ修正の一般的な改善 そのグループの他のユーザー

## 5.2 CWA のセットアップ

デグレードされたレガシー MobileDrive サービスの導入プロセス中にサブスクリプションのリストの更新オプションを追加します。このリストには、Azure の自動保護機能とチェック機能が追加されています

**CWMS 5.2 マイナーリリース：Thurs.、2019 年 2 月 28 日**

コンポーネント：5.2 Cloud Workspace Management Suite、2019 年 2 月 28 日（木）午後 10 時～午後 11 時の東部への影響：エンドユーザ向けの Cloud Workspace デスクトップとアプリケーションサービスへのアクセスが中断されないままになります。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

### 5.2 Cloud Workspace Management Suite の略

CWMS インターフェイスでユーザの [VDI ユーザ] チェックボックスをオフにしたときの分かりやすさと確認メッセージ（VDI ユーザのサーバを削除）、およびタイムスタンプ処理に対するサーババックエンドの改善を削除しない場合の処理方法を改善しました

### 5.2 Cloud Workspace のツールとサービス

Azure Domain Services のライセンスサーバ名の設定を更新しました。プロセスの改善により、Cloud



Workspace にログインした後でユーザが自分のパスワードを変更できるようになりました。まれな設定が有効になっている場合は、ネイティブの 2FA の CloudJumper イメージバグ修正を反映するように、ネイティブの 2FA が更新されました

## 5.2 CWA のセットアップ

CWA セットアップウィザードのその他のヘルプ / サポートコンテンツ CWA セットアップウィザードに契約条件と価格を追加 CWA セットアップウィザードの機能強化により、サブスクリプションのクォータおよび権限を検出するメカニズムが改善されました。 Azure Active Directory ドメインサービスベースの展開の展開を、ストレージアカウント名形式のバグフィックスを FTP サーバ用に舞台裏で改善しました シナリオのサブセット内の設定

**CWMS 5.2 マイナーリリース： Thurs.、 2019 年 2 月 14 日**

コンポーネント： 5.2 Cloud Workspace Management Suite、 2019 年 2 月 14 日（木）午後 10 時～午後 11 時の東部への影響：エンドユーザ向けの Cloud Workspace デスクトップとアプリケーションサービスへのアクセスが中断されないままになります。 Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

## 5.2 Cloud Workspace Management Suite の略

ユーザー管理アクションのパフォーマンスの向上データセンタータスク履歴のグループに変更を要求したユーザーを表示するための追加ログ機能が有効になっているアプリケーションが一部のシナリオで表示されていなかった場合は、標準 App Catalog の問題が解決動的で問題が解決されます 同じ名前の 2 つのアプリケーションが CWMS 5.1 インターフェイスから SDDC 作成ウィザードを削除する \* 5.1 にある SDDC を実行していて、新しい SDDC をプロビジョニングする場合、エラーが表示されるプロビジョニング CWMS 5.2 へのアップグレードをスケジュールするには、[support@cloudjumper.com](mailto:support@cloudjumper.com) に連絡してください。 CWMS の API ユーザ作成画面でスペルエラーを修正してください

## 5.2 Cloud Workspace のツールとサービス

vCloud ベースの SDDC では、vCloud ベースの SDDC で接続が期限切れになった場合にハイパーバイザーに再ログインします。 CloudJumper の管理アクセスの制限が改善され、サーバのブートを待機するときにデフォルトのタイムアウトが長くなります

## 5.2 REST API

CWMS の 5.1 インターフェイスを使用して新しい SDDC をプロビジョニングすると、「CWMS の v5.2 を使用している場合にのみ、新しいデータセンターの作成がサポートされます」というメッセージが表示されます。

## 5.2 CWA のセットアップ

自動エラー処理が改善されました

**CWMS 5.2 マイナーリリース： Thurs.、 2019 年 1 月 31 日**

コンポーネント： 5.2 Cloud Workspace Management Suite、 2019 年 1 月 31 日（木）午後 10 時～午後 11 時の東部への影響：エンドユーザ向けの Cloud Workspace デスクトップとアプリケーションサービスへのアクセスが中断されないままになります。 Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

## 5.2 Cloud Workspace Management Suite の略

Cloud Workspace クライアントの接続情報を Cloud Workspace クライアントの概要セクションに追加 Azure AD テナント ID を入力できる CWMS アカウント設定に編集可能フィールドを追加 Azure AD テナント ID を入力できる最新バージョンの Microsoft Standard Storage を新しい Azure 環境で使用 Azure 統合の向上、Azure 環境で統合バックアップを保持する必要があるアプリケーションサービスの動的プロビジョニングの処理を 1 日以上向上アプリケーションサービスの展開の動的プロビジョニングでは、アプリケーションがユーザーにプロビジョニングされていることを示すサーバーモジュールのセクションに、サーバーストレージがインベントリされる日付を追加します ユーザーが VDI ユーザーの場合、ユーザーのステータスはまだ保留中のクラウドワークスペースです。サーバーが VDI ユーザーの場合は、ユーザーページに VDI サーバーを表示します。 ユーザ名に関連付けられた未完了のサービスボードタスクがある場合に、サーバーページにユーザを表示すると、その VM へのリモートアクセスが CWMS から失敗する特定のシナリオで、問題を解決します

## 5.2 Cloud Workspace のツールとサービス

ユーザーが 1 日中ログインするときのライブスケーリングの処理が改善されました今後の Wake on Demand の機能強化のための自動化の前提条件追加今後のワークロードスケジュールの改善のための自動化の前提条件問題は、VDI サーバー用の Windows 10 を使用して Azure Active のリモートレジストリサービスを適切に有効にできなかった場合に解決 ディレクトリドメインサービスの展開では、問題サーバで Windows 10 を使用するが、Azure Active Directory ドメインサービスの展開でローカルリモートデスクトップユーザグループのセキュリティグループを適切に設定していなかった場合、強制ではなく有効にしても動作が実行されないように PCI 準拠設定を変更します 既定の構成設定では、ワークロードのスケジューリングで問題が解決されるため、ユーザーが Wake on Demand を有効にしてログアウトすると、サーバーの電源がオフになるようにスケジュールされている場合にサーバーの電源を切ることができます。 ProfitBricks パブリッククラウドでサーバーをクローニングするときにバグを修正するクローニングサーバーをチェックするバグ VDI ユーザシナリオでサーバ名へのサーバプレフィックスが重複しない有効なプロビジョニングコレクションを使用していないキャッシュされた顧客コードに対するチェックインレポートを夜間に追加する VM がハイパーバイザーにない場合、および CWAagent に更新解決問題が必要な場合の例外処理の改善 パスワード失効通知を使用してパスワードをリセットし、パスワード履歴を正しく適用する

## CWA 設定

SMTP 設定を自動的に構成するオプションを実装する場所リストの検証オプションを追加して、サブスクリプションに十分なクォータがあるかどうか、および選択した Azure リージョンに追加された機能で VM を作成するための十分な権限があるかどうかをチェックし、の最後に管理者権限を持つ不要な CloudWorkspace や他のサービスアカウントを削除 Azure のプロビジョニングプロセスは、手動での DNS 証明書のアップロードが検証されたことをユーザーに通知します。 特定のシナリオでは、ThinPrint のインストールが意図したとおりにインストールされない問題が解決されました

## CWMS 5.2 マイナーリリース： Thurs.、 2019 年 1 月 17 日

コンポーネント： 5.2 Cloud Workspace Management Suite、 2019 年 1 月 17 日 (木) 午後 10 時 ~ 午後 11 時の東部への影響： エンドユーザ向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスが中断されないままとなります。 Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

## 5.2 Cloud Workspace Management Suite の略

ワークロードスケジューリングインターフェイスでは、最初の列に概要が表示され、「Scheduling」の名前を「Custom Scheduling」バグフィックスに変更して、Azure 展開のプラットフォームサーバのバックアップを表示します。バグフィックスは、組織がそうでないアプリケーションサービスのエンドユーザの自己管理のシナリオに適用されます クラウドワークスペースサービスを設定します

## 5.2 Cloud Workspace のツールとサービス

PCI v3 準拠のセキュリティ強化のサポートを追加：新しい CWMS の導入では、ローカル管理者とCWAgent プロセスを実行するドメイン管理者。AzureRM 環境での Windows Server 2019 のサポート \* 注： Microsoft は、このバージョンでは Microsoft Office をサポートしていませんが、Wake on Demand ユーザーの処理は改善されています。組織が VM の電源をオフにする予定で、Wake on Demand を使用しているユーザーは、VM のクローン作成時に組織の仮想マシンの安定性向上を停止しないでください。クローン VM から作成された新しく作成された仮想マシンから、コネクションブローカーなどの役割を削除します。ThinPrint ライセンスサーバの役割をインストールするためのプロセスの改善 AzureRM テンプレートの処理を改善-実行されているハードウェアに基づいて、Azure で VM に使用可能なすべてのテンプレートを返却します。テナントの Azure リージョンで使用可能なテンプレートだけでなく、vSphere 展開の自動テストを改善したには、の特定のシナリオでのクローンサーバのバグ修正のシナリオの限定されたサブセットにある「ThinPrint ライセンスサーバが Live Scaling のバグ修正」がインストールされているかどうかを確認するための夜間電子メールレポートが含まれます vCloud の導入事例 AzureRM の導入における VM 名プレフィックスのバグ修正 Google Cloud Platform でカスタムマシンサイズを使用する際のレポートエラー修正バグ ThinPrint 機能が有効なレポートユーザのバグ修正 AzureRM で使用可能なテンプレートのリストから Windows の中国語版を除外

### CWA 設定

最低限必要な文字数を満たすパスワードが受け入れられないシナリオを修正する CSP アップデートのテナント選択プロセス中に、ID 列をカスタマードメインに変更し、クレジットカードの入力を合理化するサインアッププロセスに進みます

**CWMS 5.2 マイナーリリース：Thurs、2018 年 12 月 20 日**

コンポーネント： 5.2 Cloud Workspace Management Suite、2018 年 12 月 20 日（木）午後 10 時～午後 11 時の東部への影響：エンドユーザ向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

### 5.2 Cloud Workspace のセットアップ

単一サーバの導入時に FTP DNS 登録の機能を追加し、自動 SSL を選択した場合に Azure AD 情報を入力するプロセスを自動化しました。（TenantID、ClientID、Key）をバックエンドテーブルにインポート自動インストールプロセスでは、10 ではなく ThinPrint License Server 11 がインストールされるようになりました

### 5.2 CWA のセットアップ

登録プロセスが完了したら、管理者をサインインページにリダイレクトした問題を修正します

**CWMS 5.2 マイナーリリース：Thurs、2018 年 12 月 6 日**

コンポーネント： 5.2 Cloud Workspace Management Suite、2018 年 12 月 6 日（木）午後 10 時～午後 11 時の東部への影響：エンドユーザ向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

### 5.2 Cloud Workspace ツールとサービス

Win10 OS を使用したサーバの作成のサポートが向上ハイパーバイザーから VM をロードする際の速度が向上 Azure でのサーバの作成時に使用できる正しいストレージタイプを返す日常レポートのログをコントロールプレーンのバックエンドに追加する一時ドライブが Azure で自動的に拡張されるシナリオを回避します Azure Active Directory ドメインサービスを使用している場合、複数の MGR サーバが設定されている場合、GCP Bug fix for not automatically expanding a drive in GCP Bug fix for deployment automation when using Azure Active Directory Domain Services if multiple MGR servers are configured、メモパブリッククラウド（Azure

、 GCP ) の自動テスト用のナイトリーレポートバグ修正 VMware 環境でのバックアップバグ修正 HyperV 導入を介して作成された新しい VM のディスクスペースを特定するための修正 AD ルート OU が設定されていないハイパーバイザーをベースにしてサーバーをクローニングする際のサーバーデータ収集用のバグ修正

## 5.2 REST API

パブリッククラウド配置でマシンシリーズのサポートを有効にすると、 SDDC で追加された DataCollectedDateUTC のデフォルトのリソース割り当てを無効にして、サーバーのストレージの詳細を表示リソースの値を計算する機能を追加する詳細なユーザ接続ステータスを取得するための新しいメソッドを追加 CWMS でエラーを表示します 管理者権限を持つユーザを削除すると、データを有効にしたアプリケーションサービスのドライブマッピングを使用した固定問題が表示されない問題 CWA 経由でインポートされたクライアントまたはユーザを更新する固定問題新しいユーザが作成され、アプリケーションが割り当てられたときに CWMS 経由でクライアントまたはユーザを更新する [すべてのユーザー] グループでは、新しいユーザーはアプリケーションショートカットを受け取りません。

**CWMS 5.2 マイナーリリース： Thurs 、 2018 年 11 月 1 日**

コンポーネント： 5.2 Cloud Workspace Management Suite 、 2018 年 11 月 1 日 (木) 午後 10 時 ~ 午後 11 時の東部への影響：エンドユーザ向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。 Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

## 5.2 Cloud Workspace Management Suite の略

CRA 展開での特定の使用例に対する統合バックアップバグ修正バグ修正

## 5.2 Cloud Workspace のツールとサービス

複数サイトの Active Directory トポロジのサーバーの作成時に Azure ARM 環境で使用可能なストレージタイプを返す機能を有効にするマルチサイトの Active Directory トポロジのサポート問題 with TestVDCTools when using Azure Active Directory Domain Service Bug fix for nightly email reports when AD root OU is blank

## 5.2 REST API

Azure Active Directory ドメインサービスのロック解除をサポートします。注：レプリケーションにより、最大 20 分程度の遅延が生じる場合があります。

**CWMS 5.2 マイナーリリース： Thurs 、 2018 年 10 月 18 日**

コンポーネント： 5.2 Cloud Workspace Management Suite 、 2018 年 10 月 18 日 (木) 午後 10 時 ~ 午後 11 時の東部への影響：エンドユーザ向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。 Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

## 5.2 Cloud Workspace Management Suite の略

データセンターウィザードで、 ワイルドカード証明書の検証の有効化バックグラウンド改善とバグ修正アプリケーションテーブルでの検索機能の追加アプリケーションテーブルでのソートの向上データセンタープロビジョニングプロセスでの DNS 登録の完了の詳細データの追加動的 API コール応答にすべてのサブパートナーユーザとグループが含まれます アプリサービス特定のインスタンスでテナントの移行モードが維持されないというバグを修正する追加電源オンサーバーを追加 サーバあたりの共有ユーザ数とサーバあたりの最大共有ユーザ数のライブスケーリングの詳細新しいデータセンターウィザードを使用したプロビジョニング時に、ワイルドカード証明書テストに DNS 検証を追加します

## 5.2 Cloud Workspace ツールとサービス

オプションを有効にして、VM シリーズごとにグループ化されたすべての VM サイズを返すアプリケーションサービスユーザの計算時にハイパーバイザーで使用可能なすべての VM サイズを返す CWMGR1 の自動リソース更新の Enable オプションにワイルドカード証明書ステータス DataCenterResources Report 将来の DNS 拡張バグ修正を有効にする - GCP 展開での自動ドライブ拡張の修正

## 5.2 REST API

クライアント / ユーザーをリストする際のパフォーマンスの向上新しいライブスケーリング機能のサポート - ExtraPoweredOnServers、SharedUsersPerServer、MaxSharedUsersPerServer API の構成では、すべてのパートナークライアントのユーザーアクティビティデータを取得するための新しいプラットフォーム展開の作成時にワイルドカード証明書ドメインを検証する機能がサポートされるようになりました

Known 問題： Azure ARM 展開内のリソースプールのサイジングに「Active Users」または「User Count」の動的割り当て方法を使用すると、「Computed Resource per Server」の概要で、正しい標準 D シリーズタイプではなく、シリーズタイプとして「Machine Size」が誤って表示されます。

**CWMS 5.2 マイナーリリース： Thurs、2018 年 9 月 27 日**

コンポーネント： 5.2 Cloud Workspace Management Suite、対象期間： 2018 年 9 月 27 日（木）午後 10 時 ~ 午後 11 時（東部標準時）：エンドユーザ向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

## 5.2 Cloud Workspace Management Suite の略

コレクション VM をキャッシュにプロビジョニングする際の表示を簡素化 App Services を管理するときに、表示ひれを修正します

## 5.2 Cloud Workspace のツールとサービス

エンドユーザ MFA 更新 API が最新の Azure RM 更新テストと連携して、最新の API を使用するためのあいまいなユースケースのバグ修正パワーユーザ用語を VDI ユーザ更新電子メールレポートに置き換えることで、サーバの CPU と RAM を追加することができます アドレスレポートを更新します。  
[dcnotifications@independenceit.com](mailto:dcnotifications@independenceit.com) メッセージではなく、[dcnotifications@cloudjumper.com](mailto:dcnotifications@cloudjumper.com) から送信されるメッセージでは、サーバごとのユーザー定義と追加の VM をライブスケーリングによるパフォーマンスの向上により維持できます。停止された SDDC/ 展開セキュリティの強化を開始するときに、追加の VM を有効にします。複数の SDDC/ 展開を持つパートナーが 1 つから接続することを また、安定性の向上 - 自動化によってユーザ数を返すことができない場合は、リソースカウントのマイナーな外観の強化を変更しないでください

**CWMS 5.2 マイナーリリース： Thurs、2018 年 9 月 6 日**

コンポーネント： 5.2 Cloud Workspace Management Suite、2018 年 9 月 6 日（木）午後 10 時 ~ 午後 11 時の東部への影響：エンドユーザ向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

## 5.2 Cloud Workspace Management Suite の略

カスタムアプリカタログでサブパートナーを検索できるようになりましたデータセンターモジュールの画面を更新するとエラープロンプトが表示されるため、最大フォルダー名のサイズ制限が除去され、フォルダーを参照しやすくなり、VM のリソースカウントが確実になるというバグが修正されました は、指定された最小 CPU 値および RAM 値の再フレーズ Power User Terminology to VDI User Data Center Creation ウィザードで

のサーバー名表示の改善に成功したにもかかわらず、一般的なエラーが表示されるというエラーを修正しました。アカウントの有効期限が保存された有効期限を表示しません を選択します

## 5.2 Cloud Workspace のツールとサービス

電子メールを選択したユーザーがコードを受信できない場合がある問題のバグを修正ユーザー数リソース割り当てタイプに CPU と RAM を追加入力できるようにするオートメーションエンジンがすべての種類のマシンに電力を供給しなかったというバグを修正しました自動化エンジンが、時々原因を実行するタイミングを修正しました エラーアウトするためのサーバのクローニング FTP サーバでワイルドカード証明書を手動でインストールしたときに、ワイルドカード証明書の更新後に古い証明書をパージするプロセスが追加されました。問題は、Data Enabled Application Services を使用している場合、X: ドライブがエンドユーザに常にマッピングされるとは限りません。

**CWMS 5.2 General Availability Release : Thurs 、 2018 年 8 月 10 日**

コンポーネント： 5.2 Cloud Workspace Management Suite 、 2018 年 8 月 10 日（木）午後 10 時（東部標準時）：エンドユーザ向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

## 5.2 Cloud Workspace Management Suite の略

Web インターフェイスコンポーネントをリリースして、上記の概要で説明した機能を有効にします

## 5.2 Cloud Workspace のツールとサービス

バックエンドツールをリリースして、上記の概要にある機能を有効にします

## 5.2 REST API

Release API to production to enable the features found in the overview above

## Cloud Workspace Suite –バージョン 5.1



今後、CWMS の v5.1 には繰り返しリリースはありません。すべてのリリースはホットフィックスと見なされます。

**CWMS 5.1 マイナーリリース： 2018 年 10 月 18 日（木）**

コンポーネント： 5.1 Cloud Workspace Management Suite 、 2018 年 10 月 18 日（木）午後 10 時～午後 11 時の東部への影響：エンドユーザ向けの Cloud Workspace デスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

## Workspace Management Suite の略

- アプリケーションテーブルに検索機能を追加します
- アプリケーションテーブルでの並べ替えが向上しました

コンポーネント：5.1 Cloud Workspace Management Suite、2018 年 9 月 6 日（木）午後 10 時から午後 11 時（東部標準時）：エンドユーザ向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。Cloud Workspace Management Suite へのアクセスは引き続き可能です。

## 5.1 Cloud Workspace Management Suite の略

- ・カスタムアプリケーションカタログでサブパートナーを検索する機能が追加されました
- ・Data Center モジュールの画面を更新するとエラープロンプトが表示されるというバグが修正されました
- ・最大フォルダ名サイズの制限を解除し、フォルダを簡単に参照できるようにします
- ・VM のリソース数が、指定された最小 CPU 値および RAM 値を下回ることがないようにします

## 5.1 Cloud Workspace のツールとサービス

- ・電子メールを選択したユーザーがコードを受信できないことがある MFA のバグを修正しました
- ・User Count リソース割り当てタイプに追加の CPU および RAM を入力できるようにします
- ・Server Load Allocation for Server のバグを修正しました。必要なサーバ数がオフになっている場合があります
- ・サーバの自動リブート時にセーフガードを追加- CwVmAutomationService がビジー状態の場合は、20 分後に再試行します
- ・CWMGR1 でのワイルドカード証明書インストールの処理が改善されました
- ・データセンターリソースレポート内の固定データ
- ・RAM リソースの更新の処理が改善されました
- ・使用可能なハードドライブリソースの計算が改善されました
- ・ProfitBricks の API v4 をサポートし、CPU ファミリの設定を可能にします
- ・プロビジョニングコレクションの作成時に使用される ProfitBricks で古い一時テンプレートの削除を修正
- ・ProfitBricks のハイパーバイザーが VM を作成するのを待機するときのタイムアウトが長くなりました
- ・VdcTools の新しいバージョンをインストールする場合、自動化をより早く実行できるように、処理中にすぐに VdcToolsVersionRunningAtVdc を更新します
- ・RDP ゲートウェイサーバにワイルドカード証明書をインストールするときに表面化するバグを修正しました
- ・FTP サーバに以前手動でワイルドカード証明書をインストールすることを自動化します
- ・パスワードの有効期限が通知されず、ユーザにパスワードの更新を強制していないというバグが修正されました
- ・ファイル監査プロセスが改善され、不明なユーザーエラーが表示される頻度が減少しました
- ・File Audit Report でフォルダが正しく除外されないというバグが修正されました
- ・コネクションブローカーの証明書の期限が切れている場合に、ワイルドカード証明書をインストールする機能が追加されました
- ・パスワード有効期限通知のショートカットがスタートアップフォルダから削除された場合に、パスワードの有効期限通知が表示されないというバグが修正されました (再インストールされます)。

- ユーザーがログインした場合に、ワイルドカード証明書により HTML5 ポータルサーバーの更新が遅延しないというバグが修正されました
- ワイルドカード証明書で、HTML5 ポータルサーバを最新の状態に更新する必要があるというバグが修正されました
- コネクションブローカーサーバにワイルドカード証明書をインストールすると、バグが修正されました
- ローカル VM アカウントが削除されているクローニング問題を修正しました
- クローニングサーバでテナントが移行モードになっている問題を修正
- vCloud での VM のクローニング中に、ハイパーバイザーが VM の作成に予想より長い時間を要したエラーを修正しました
- AzureRM で VM を削除すると、関連する管理対象ディスクも常に削除されるというバグを修正しました
- 2 つのビルド操作が重複しないように、問題が AzureRM で VM を作成するまれなタイミングを修正しました
- AzureRM のマシンサイズとタイプのリストを更新
- 導入時にハイパーバイザーで GCP のサブネットを設定する際にエラーが修正されました
- サーバがビジー状態のときにデータが書き込まれないようにするタイムアウトを削除することにより、監視データの保存エラーが修正されました
- 各サーバに個別にタイムゾーンを設定できるようにする機能、またはプラットフォームの自動化によって制御されない機能を追加しました
- セカンダリサイトで VM を作成するとプライマリサイトから静的 IP アドレスが返されるというバグが修正されました
- ユーザログインレポートのユーザ名のキャプチャでエラーが修正されました
- 古い監視データを削除できなかったバグを修正し、呼び出しを非同期にしてタイムアウトしないようにしました
- ワイルドカード証明書をすべてのインフラサーバに自動的にインストールします

#### **CWMS 5.1 マイナーリリース：Thurs、2018 年 7 月 12 日**

コンポーネント：5.1 CWMS ツールおよびサービス：2018 年 7 月 12 日（木）午後 10 時 30 分東部への影響：エンドユーザ向けの Cloud Workspace デスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。

#### **5.1 CWMS Web アプリケーション**

- グローバルアプリケーションカタログ設定の永続性に関する問題を修正します

#### **CWMS 5.1 マイナーリリース：Thurs、2018 年 5 月 17 日**

コンポーネント：5.1 CWMS ツールおよびサービス 2018 年 5 月 17 日（木）午後 10 時 11 分（EST Impact）：エンドユーザ向けのクラウドワークスペースデスクトップおよびアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。

#### **5.1 CWMS Web アプリケーション**

- アプリケーションサービスグループのユーザの概要に関する問題を修正します



- データセンターウィザードで、ユーザ名とパスワードが事前に入力された状態で問題を修正します
- データセンターウィザードで、ローカルの VM 管理者およびレベル 3 の技術者のユーザ名の検証を追加します
- セッション処理が改善され、セッションタイムアウト後のユーザの自動ログアウトも可能になりました
- プライマリ管理者が検出できなかった場合は、管理者を削除するときに問題を修正します
- [データセンター] → [プロファイルサーバー] のプレースホルダーを [プロファイル名の入力] から [プロファイル名の入力] に変更し、[ラベル] を [プロファイル名] から [サーバー名] に変更します
- AD 管理者がクラウドワークスペース以外のユーザーに対して機能しないように修正しました
- 非クラウドワークスペースの顧客に新しいユーザー / グループを追加できないようにする JavaScript エラーを修正しました
- マスターパートナーがサブパートナーの Active Directory ユーザー管理者を作成できるようにします
- サブパートナーのプライマリ管理者のパスワードリセットを引き起こすバグを修正し、エラーアウトします

**CWS 5.1 マイナーリリース：2 月、水2018 年 2 月 21 日**

コンポーネント：5.1 CW ツールおよびサービス (水曜日、2 月2018 年 12 月 21 日午後 10 時から 11 時 (EST) の影響：エンドユーザ向けのクラウドワークスペースデスクトップとアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。

## **5.1 CW Web アプリケーション**

- 問題の管理を管理者アクセスロールで修正しました

## **5.1 CW ツールおよびサービス**

- Workspace で「サービスなし」クライアントをアップグレードするときに、障害が発生したサーバーが自動的に削除されないようにする
- W2016 GPO の更新を処理し、W2016 VM の RDS セッションにログインしているユーザに通知のポップアップが表示されないようにします

## **5.1 REST API**

- 新しい属性を追加し (新しい属性を使用するように CWS の SPLA レポートを変更)、コアライセンスベースのアプリケーション (特に SQL) をより適切に処理できるようにする

**CWS 5.1 マイナーリリース：2 月、水7、2018**

コンポーネント：5.1 CW ツールおよびサービス (水曜日、2 月2018 年 10 月 11 日午後 EST の影響：エンドユーザ向けのクラウドワークスペースデスクトップとアプリケーションサービスへのアクセスが中断されることはありません。

## **5.1 CW Web アプリケーション**

- なし

## 5.1 CW ツールおよびサービス

- 修正 Windows \* 2016 での問題アプリロッカーの無効化（Windows \* 2016 問題 \* が新たに検出されたため）
- IP がクローン障害イベントに基づいて再割り当てされていない場合に、バグを修正します

## 5.1 REST API

- Provisioning Collection でサーバを変更するときにストレージタイプを保存する問題を修正しました
- 2 台のターミナルサーバ（TS）を使用して Provisioning Collection を作成する場合、収集を検証するために TS サーバを 1 台だけ構築する必要があります

**CWS 5.1 マイナーリリース：1 月、水曜日 2018 年 3 月 31 日**

コンポーネント：5.1 CW ツールおよびサービス（次の場合）：Wed.、Jan2018 年 12 月 31 日午後 10 時から 11 時（EST）の影響：エンドユーザ向けのクラウドワークスペースデスクトップとアプリケーションサービスへのアクセスが中断されることはありません。

## 5.1 CW Web アプリケーション

- トップレベル CWS モジュールのテーブルごとの行数を 10 から 20 に増やします
- ユーザーサポートのみの管理者がクライアントにアクセスできないように修正します

## 5.1 CW ツールおよびサービス

- テンプレートに .Net Framework v4.5.2 がインストールされていない場合に、サーバーの作成に失敗するというバグを修正しました
- Hyper-V で VM をクローニングするときに問題を修正

**CWS 5.1 マイナーリリース：1 月、水曜日 10、2018**

コンポーネント：5.1 CW ツールおよびサービス（次の場合）：Wed.、Jan2018 年 10 月 10 日午後 10 時から 11 時（EST）の影響：エンドユーザ向けのクラウドワークスペースデスクトップとアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。

## 5.1 CW ツールおよびサービス

CWS バージョン 5.1 の Tools and Services（CW Automation Service、VM Automation Service、CWAgent サービスを含む）が更新され、特定の RemoteApp アプリケーション配信シナリオで発生する許可エラーがなくなります。具体的には、サービスは次のように変更されます。

- セッションサーバの SSL ワイルドカード証明書の自動展開を、Remote Desktop（RD）Connection Broker サーバおよび Power User サーバにのみ展開するように変更します。ブローカー以外のセッションサーバでは、リモートデスクトップサービス（RDS）によって生成されたデフォルトの証明書が使用されます。
- SDDC で Active Directory の外部 DNS 前方参照ゾーンを変更して、クライアント共有セッションサーバの DNS レコードを 1 つだけ作成します。このレコードはクライアントの RDS ブローカーサーバ（VM）を指し、共有セッションサーバ間のロードバランシングを処理します。パワーユーザサーバには、引き続き別の DNS エントリがあります。

注：この問題は、複数の共有セッションサーバを使用するエンドクライアント設定のみに影響しましたが、この設定を使用して新しいクライアント設定および変更されたクライアント設定を展開します。

#### **CWS 5.1 マイナーリリース：1月、水曜日2018年3月**

コンポーネント：5.1 CW Web App When：Wed.、Jan2018年3月3日午後10時30分（EST Impact）  
：エンドユーザ向けのクラウドワークスペースデスクトップとアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。

#### **5.1 CW Web アプリケーション**

- CWS のワークスペースモジュールで、会社コードによるソートを修正します
- 修正 Cloud Workspace ユーザー → パスワードの強制リセットに変更が反映されない（別のモジュールに移動してからユーザーに戻る場合）
- SDDC 自己展開ウィザード：ThinPrint のインストールを解除すると確認アラートモーダルを追加（ライセンスセクション）

#### **CWS 5.1 マイナーリリース：Tues.、12月2017年5月**

コンポーネント：5.1 CW Web App When：Tues.、12/2017年5月10日から10時30分（EST Impact）  
：エンドユーザ向けのクラウドワークスペースデスクトップとアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません。

#### **5.1 CW Web アプリケーション**

- Internet Explorer（IE）11でCWS Admin MFAエラーを修正
- CWS グループを修正 → ローカルドライブアクセスが「見つかりません」を返します
- Data Center Self Deploy ウィザード：AzureRM（ARM）Azure Active Directory のサポートを追加します
- アプリケーションカタログ：サブスクリプションオプションが常に使用可能であることを確認し、伝播します
- CWS スクリプトイベントモジュール > スクリプトアクティビティ → アプリケーションの追加：間違ったアプリケーションアイコンパスを修正
- CWS v5.0 にリダイレクトする際にエラーを防止するために、管理アクセス要求の効率を向上します
- AppService の詳細を更新するときや AppService のアプリケーションライセンスを管理するときに発生するさまざまなエラーを修正します
- CWS ワークスペースモジュール > ワークスペースの追加ウィザード → appservices の修正グローバルコントロールプレーンに誤ったフォーマットが送信されています
- CWS ワークスペースモジュール > ワークスペースの追加ウィザード → 新規クライアント → 手順3、JavaScript エラーに対処するために更新グループを修正して更新が処理されていることを確認します

#### **CWS 5.1 マイナーリリース：Sat.、11月2017年11月**

コンポーネント：5.1 CW Web App When：Sat.、Nov2017年11月11日（午後10時）午後11時（EST）の影響：エンドユーザ向けのクラウドワークスペースデスクトップとアプリケーションサービスへのアクセスが中断されることはありません。

## 5.1 CW Web アプリケーション

- 11月の午後10時（東部標準時）11、すべての CWS 5.1 パートナーは、を使用する必要があります <https://it.hostwindow.net>。この URL は CWS 5.1（および CWS 5.0）をサポートするために改良されています。パートナーは、CWS 管理者および CWS 管理者アクセスを持つエンドユーザがこの変更を認識していることを確認する責任があります。

**CWS 5.1 マイナーリリース：10月2017年3月30日**

コンポーネント：5.1 CW Web App および 5.1 CW ツールとサービス（次の場合）：2017年10月30日から23日のESTへの影響：エンドユーザ向けのクラウドワークスペースデスクトップとアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません

## 5.1 CW Web アプリケーション

- CWS Admin MFA：MFAの送信コードを入力してバグを修正するとMFAコードの再送信が防止される
- SDDC セルフデプロイウィザード：GCPの場合、ディセーブルにするのではなく、ローカルVM名の管理者を持ってください
- SDDC 自己展開ウィザード：タイムゾーンのドロップダウン幅を拡大します
- スクリプトイベント：スクリプトアクティビティに引数フィールドを追加します
- スクリプトイベント：スクリプト化されたイベントスクリプトの実行時変数として %applicationname% を追加します

## 5.1 CW ツールおよびサービス

- エンドユーザのEメールアドレス：既存問題のエンドユーザのEメールアドレスがDBに保存されていないことを修正しました
- エンドユーザーのログオンステータス：エンドユーザーのログインUPNを取得する問題を修正します
- AzureRMのエンドユーザーログオンステータス：Azure Managed Disksをサポートしています
- テンプレート：テンプレートが正しく削除されない場合にワークフローを修正します
- リソース：問題を修正し、古いリソースプールを新しい割り当てタイプに変換
- File Audit Report：ユーザが不明となる原因となるバグを修正します
- Windows 2016：エンドユーザーワークスペースからPowerShellアイコンを削除するGPOが適切に適用されるように修正
- Change Resources/Resource Allocation Report：修正エラーが正しく表示されない
- Data Center Resources レポート：使用可能なハードドライブ容量またはVMの見積もりを返すようにハイパーバイザーが設定されていない場合、レポートにエラーが表示されないようにします
- Infrastructure Server Monthly reboots：このサーバのリブートがビジー状態であるため、インフラサーバがCWMGR1サーバと通信できなかったために、スケジュールどおりに毎月リブートできない場合のシナリオに対処してください

**5.1 マイナーリリース：Tues.、10月2017年3月**

コンポーネント：5.1 CW Web App および 5.1 CW ツールとサービス（次の場合）：Tues...,Oct2017年3月23日（東部標準時）午後10時から午後11時（米国東部標準時）：エンドユーザ向けのクラウドワークスペースデスクトップとアプリケーションサービスへのアクセスは中断されません

## 5.1 CW Web アプリケーション

- appservices : 問題ブロックの修正 AppService アプリケーションの追加ライセンス機能
- Appservices : AppService アプリケーションで常に「新しいインスタンスを追加」機能を使用できるようにします
- リソースプールの用語: 用語を更新しながら、変更がなくても常にリソースプール構成をサーバに適用可能-「アップデート」を「サーバに適用」に変更し、「編集」を「管理」に変更
- ワークロードのスケジュール: Edit モーダルが常に開いていることを確認します
- ワークロードスケジュール: 選択する時間を矢印で常に表示します
- スクリプトイベント: より詳細な時間選択を可能にします
- CWS レポート「管理者アクセス」: 問題を修正することで、IP カラムにクライアント IP だけでなく複数の IP アドレスが表示されるようにしました

## 5.1 CW ツールおよびサービス

- File Audit Service : 常に無効になりました
- 自動化サービスと新しい SSL ワイルドカード証明書 (RDP 接続) : RDS ゲートウェイ上の更新された RDP 証明書を常にリフレッシュするためのコマンドの更新順序 (つまり、キャッシュされない)

### CWS® 5.1 の初期リリースの概要

Cloud Workspace Suite 5.1 は、2017 年第 3 四半期からパブリックベータ版に移行しています。このリリースでは、CWS API と Admin Control インターフェイスの両方が更新されています。このリリースは、CWS 5.0 (2016 年第 4 四半期リリース) のアップデートであり、バージョン 4.x エンティティとの「下位互換性」はありません。

2017 年第 4 四半期に正式にリリースされた後は、CWS 5.1 への移行に伴うアップグレード料金や導入コストは発生しません。アップグレードは、各パートナーと連携して CloudJumper によって完了し、既存のサービスは中断されません。CWS 5.1 は、以前のバージョンのすべての機能を引き続きサポートし、管理者とエンドユーザの両方のエクスペリエンスを向上させる新機能を拡張し、以前のリリースの Cloud Workspace Suite で導入された受賞歴のある自動化とオーケストレーションをさらに向上させます。

CWS 5.1 のアップグレードは、CWS 5.0 で導入された最新のアーキテクチャと REST API プラットフォームを拡張して活用することにより、最も高速で簡単なアップグレードです。CWS 5.1 は、CloudJumper のフレンドリーな環境への取り組みを継続し、外部の開発者が Cloud Workspace に基づいてサービスや製品を拡張できるようにしています。



CWS 4.x は 2017 年 12 月 31 日に正式にサポート終了となります。CWS 4.x プラットフォームに参加しているパートナーは、4.x 導入に関する直接サポートを受けなくなり、4.x の更新やバグ修正は提供されなくなります。

### 5.1 主な特長:

- Windows 2016 Server のサポート
- Microsoft Azure Resource Manager のフルスタックサポート
- Office 365 Single Authentication のサポート
- CWS ポータル管理者向けの MFA

- Provisioning Collection Management の改善
- 管理者が自動化とスクリプトを定義しました
- リソース・サイジング管理スキーム

## Windows 2016 Server のサポート

- サポートされているすべてのプラットフォームで Windows Server 2016 サーババージョンをサポートします。
- Windows 2016 Server は、共有 RDS セッションユーザーに「Windows 10」デスクトップエクスペリエンスを提供し、グラフィック集約型アプリケーションの GPU 割り当てなどの構成オプションを可能にします。\*

## Microsoft Azure Resource Manager のフルスタックサポート

- Microsoft では、従来の暗号化キー / 代理アカウントユーザエンタイトルメントモデルから Azure Resource Manager モデルへの移行が必要です。
- Microsoft Azure Resource Manager は、ユーザが解決策内のリソースをグループとして操作できるようにするフレームワークです。
- 必要な認証属性は、Software Defined Data Center（SDDC）の導入時に 1 回収集され、再入力や再認証なしで他の Microsoft Azure アクティビティに再利用されます。

## Office 365 の単一認証のサポート

- Microsoft Office 365 では、新しいコンピューターやデバイスで Office 生産性スイートを使用するたびに、エンドユーザーが資格情報を入力する必要がある認証モデルを使用します。
- CWS 5.1 では、これらの資格情報をサーバファーム全体で管理して、エンドユーザが新しい Office 365 サブスクリプションを初めて使用したときにのみ認証を要求できるようにします。

## プロビジョニング収集管理の改善

- 事前定義済みのワークロード用のハイパーバイザーテンプレートの設定と管理は、特に複数のハイパーバイザープラットフォームで作業する場合に混乱を招く可能性があります。
- CWS 5.1 は、既存のテンプレートまたはクラウドプロバイダの VM イメージに基づくサーバインスタンスの作成を含む自動ハイパーバイザ管理機能を導入します。CWS Web App からアプリケーションをインストールするために、作成したサーバに直接接続 / ログインします。設定済みのサーバインスタンスからの自動テンプレート作成 / Windows sysprep、アプリケーションパスの検証と CWS 内からのインストールを実行して、ハイパーバイザーやクラウドサービスダッシュボードに直接アクセスする必要を排除します。

## CWS ポータル管理者向けの MFA

- CWS 5.1 には、CWS 管理者専用の組み込み多要素認証（MFA）解決策が含まれています
- パートナーはエンドユーザ向けに独自の MFA 解決策を実装できます。人気のあるオプションとしては、Duo、Auth-Anvil、Azure MF などがあります。CloudJumper は、2018 年第 1 四半期にエンドユーザ向けに独自の組み込み MFA をリリースする予定です

## 管理者が定義した自動化

- CWS は、管理者が定義したタスク / スクリプトの実行の自動化により、サービスプロバイダの導入 / 管理の自動化を改善します。
- この機能強化により、CWS 5.1 は導入の大幅な高速化、管理の簡素化、オーバーヘッドコストの削減を実現します。
- CWS 管理者定義の自動化により、イベントに基づいたアプリケーションのインストールまたはアップグレードが可能になり、パートナーはこの方法を使用してアプリケーションの自動インストール / メンテナンスを開始できます。

## リソースのサイジング管理スキーム

- CWS 5.1 リソース機能は、3 つのリソーススキーマを追加することで、リソースを動的に拡張する機能を強化します
- 既存の Total Users スキーマが、さらに 3 つのリソースサイジングスキームによって拡張されました。つまり、Fixed、Active User、および Activity-based です
- 例：固定メソッドは、CPU と RAM の正確な仕様をサポートします。
- すべてのリソースサイジングスキームでは、即時 / 強制的な変更や夜間の自動リソースチェック / 変更が引き続き可能です。

## CWS – v5.0 リリースノート



CWS の v5.0 については、今後のリリースでは繰り返しリリースされません。すべてのリリースはホットフィックスと見なされます。

### 概要

CloudJumper は、2016 年第 4 四半期より、一般実装用の Cloud Workspace Suite 5.0 をリリースしました。このリリースでは、CWS API と Admin Control インターフェイスの両方が更新されています。リリースは大幅に変更され、バージョン 4.x エンティティとの「下位互換性」はありません。

バージョン 4.x は、すべてのパートナー Software Defined Data Center (SDDC) が 5.0 プラットフォームにアップグレードされるまで引き続きサポートされます。アップグレードは、各パートナーと連携して CloudJumper によって完了し、既存のサービスは中断されません。移行に伴うアップグレード料金や導入コストは発生しません。CWS 5 は、以前のバージョンのすべての機能を引き続きサポートし、管理者とエンドユーザの両方のエクスペリエンスを向上させる新機能を拡張し、以前のリリースの Cloud Workspace Suite で導入された受賞歴のある自動化とオーケストレーションをさらに向上させます。

CWS 5.0 では、CloudJumper はすべてのプラットフォーム API を REST API 形式に再書き込みし、以前の SOAP API を完全に廃止しました。このアップデートされたアーキテクチャにより、CloudJumper の機能がさらに強化され、外部の開発者は Cloud Workspace をベースにサービスと製品を拡張するための環境をさらに整備することができます。

### ハイライト

- UI/UX の書き換えを完了します
- Azure AD 統合
- Azure SDDC セルフサービスの導入

- アプリケーションサービス
- リソースのスケジューリング
- Live Server Scaling –クロスプラットフォーム
- 自動サーバークロニング–クロスプラットフォーム
- クライアントごとにドライブ共有をカスタマイズします

主な機能：

### **Azure Active Directory（AD）統合**

- SDDC をプライベートクラウド Active Directory として構築するか、Microsoft Azure-AD-as-a-Service を使用します
- CWS と Office365 を組み合わせます
- Azure ベースの SSO と MFA をサポート

### **Azure SDDC セルフサービスの導入**

- Azure との完全な統合
- 新しいデータセンターを迅速に導入
- クラウドワークスペースマネージド、アプリケーションサービス、プライベート Web アプリケーション、SharePoint など、あらゆるワークロードに対応するプライベートエンタープライズクラウドを Azure 内に導入できます

### **アプリケーションサービス**

- アプリケーションサイロを導入して、分離されたサービスビルディングブロックとして公開アプリケーションを実行します
- 「パブリック」アプリケーションサーバーから多くのカスタムエンティティに配信されるアプリケーション
- アプリケーションは、単一のアプリケーション専用サーバプールにインストールされます
- ユーザプロファイルとデータレイヤの要件から分離されたアプリケーション
- 拡張性に優れたアプリケーションサービスを構築
- 複数のアプリケーションサービスをユーザコレクションに統合できます
- CWS ライセンスの追跡と使用状況のレポート

### **サーバのライブスケールリング–クロスプラットフォーム**

- サーバ・リソース / アクティブ・サーバのインテリジェントな自動拡張
- ユーザー負荷の変化に合わせて、動的な増減でサーバリソースを厳密に管理します
- ワークロードの変化に応じてサーバリソースを自動的に増減



## サーバの自動クローン作成：クロスプラットフォーム

- 定義されたユーザー数が増加するまで、サーバーの可用性が自動的に増加します
- 使用可能なリソースプールにサーバを追加します
- CWS Live Server Scaling 機能と組み合わせることで、完全に自動化された解決策を作成できます

## リソースのスケジューリング

- 顧客ごとにサービス時間をスケジュールします
- パブリッククラウドのコスト抑制
- 使用していない場合はシステムをシャットダウンし、事前に定義されたスケジュールで再アクティブ化します

# エンドユーザーの要件

## 概要

NetApp VDS では、異なるユーザエンドポイントデバイスの追跡や推奨は行われません。いくつかの基本事項を推奨しますが、これによって、他の可能なエンドポイントの選択が除外されることはありません。

リモートデスクトップ環境は、さまざまなエンドポイントデバイスからアクセスできます。クライアントは、Microsoft およびサードパーティベンダーから直接入手できます。NetApp VDS では、Windows デバイス用のカスタム接続クライアント（*NetApp VDS Client for Windows*）と、HTML 5 ブラウザと互換性のある Web クライアントが提供されます。

Azure Virtual Desktop 環境には、さまざまなエンドポイントデバイスからアクセスできます。RDS とは異なり、AVD 環境にアクセスできるのは Microsoft ネイティブクライアントのみです。Microsoft は、Windows、MacOS、Android、iOS、および Web クライアント向けにクライアントを公開しています。また、IGEL と提携して、Linux ベースのシンクライアント製品を提供しています。

## エンドユーザー接続オプション

### リモートデスクトップサービス

#### Windows 用の NetApp VDS クライアント

RDS 環境に接続するには、Windows 用 NetApp VDS クライアントが最適です。このシンプルなインストーラを使用すると、ユーザー名とパスワードのみを使用して接続できます。サーバやゲートウェイの設定は必要ありません。印刷とローカルドライブマッピングが自動的に有効になり、この方法では最高のパフォーマンスが得られます。

#### VDS クライアント URL のセーフリスト

アウトバウンドネットワーク接続がコントローラであり、NetApp VDS Client for Windows for Windows を引き続き使用できることを保証するために、セーフリストに次の項目を追加することを推奨します。 \*  
api.cloudworkspace.com \* vdsclient.app \* api.vdsclient.app \* bin.vdsclient.app

リクエストに応じて、パートナー様のロゴと連絡先情報を使用して、このアプリケーションのブランドバージョンを作成することができます。この情報をリクエストするには、サポートにお問い合わせください。

NetApp VDS クライアントは、次の場所からダウンロードできます。 <https://cwc.cloudworkspace.com/download/cwc-win-setup.exe>

- 印刷： \* Windows 用 NetApp VDS クライアントと接続すると、ThinPrint を使用して自動的に印刷が設定されます。
- ローカルファイルアクセス： \* デフォルトでは、Windows 用 NetApp VDS クライアントは、ローカルデバイスドライブ（HDD、USB、ネットワーク）をクラウドユーザーセッションと共有します。ユーザーは、Windows エクスプローラの「この PC」の場所からデータを参照したり、転送したりできます。VDS でワークスペースまたはユーザを編集することで、この機能を無効にすることができます。

\_VDS > ワークスペース > ユーザーとグループ > セキュリティ設定 \_[]

#### NetApp VDS Web クライアント

NetApp VDS Web クライアントには、でアクセスできます <https://login.cloudworkspace.com/>

エンドユーザーは、ブラウザが HTML5 をサポートしている限り、Web ページからデスクトップにアクセスすることもできます。HTML5 のブラウザの互換性はで確認できます <https://html5test.com/>

ネットアップ VDS パートナー様向けに、このページの完全ブランド版を作成できます。パートナーは SSL 証明書を提供する必要があり、実装には少々のプロフェッショナルサービス料金が必要です。プロセスを開始するには、サポートにお問い合わせください。

- 印刷： \* HTML5 経由で接続している場合、Virtual Desktop から印刷すると PDF が生成されます。PDF はブラウザにダウンロードされ、ローカルに印刷できます。
- ローカルファイルアクセス： \* HTML5 経由で接続している場合、ユーザーはクラウドドライブにファイルをアップロードできます。これを行うには、フローティング・クラウド・アイコンをクリックし、ファイルをアップロードして、[この PC] > [クラウドオン] に移動します。Windows エクスプローラで、仮想デスクトップユーザーセッション内のファイルにアクセスするための場所。

#### 手動で設定された RDS クライアント

もう 1 つの最適な接続方法は、Microsoft リモートデスクトップアプリケーションを手動で構成することです。これは、MacOS、Linux、iOS、Android、ThinClient に最適です。唯一の要件は、デバイス / ソフトウェアが RDP 経由で接続し、RDS ゲートウェイを設定できることです。

RDP クライアントを手動で設定するために必要な情報は次のとおりです（リンクは、その情報がある場所に移動します）。

- ユーザ名
- パスワード
- サーバアドレス（PC 名）
- ゲートウェイアドレス。
- 印刷： \* ローカル RDP クライアントを構成する場合、ユーザーは印刷用にプリンタをクラウド環境に転送することもできます。
- ローカルファイルアクセス： \* RDP クライアントを手動で構成する場合、ユーザーは仮想デスクトップユーザーセッションで特定のフォルダを共有することを選択できます。

## RDS ゲートウェイアドレスを確認する

1. VDS に移動します (<https://manage.cloudworkspace.com>)
2. [ 展開 ] をクリックします
3. 展開の名前をクリックします
4. Deployment Details の下の RDP Gateway を探します

[]

共有セッションホスト上のユーザのサーバアドレスを検索する

VDS に移動します (<https://manage.cloudworkspace.com>)

1. ワークスペースをクリックします
2. ワークスペースの名前をクリックします
3. [ 会社の詳細 ] で [ サーバーアドレス ] を見つけます[]

## VDI ユーザのサーバアドレスを確認する

1. VDS に移動します (<https://manage.cloudworkspace.com>)
2. ワークスペースをクリックします
3. ワークスペースの名前をクリックします
4. [ 会社の詳細 ] で [ サーバーアドレス ] を見つけます[]
5. [ ユーザーとグループ ] タブをクリックします
6. ユーザ名をクリックします
7. VDI サーバのアドレスを確認します[]
8. この VDI ユーザのサーバアドレスは、サーバアドレス： `dvy.ADA.cloudworkspace.app` ですが、企業コード（`dvy` など）で VDI サーバの値（例：）に置き換えられます `DVYTS1`） ...

e.g. `DVYTS1.ada.cloudworkspace.app`

## RDS 要件マトリックス

を入力します	オペレーティングシステム	RDS クライアントのアクセス方法	RDS Web クライアント
Windows PC の場合	Microsoft RDP 8 アプリケーションを使用する Windows 7 以降	NetApp VDS クライアントでクライアントを手動で設定します	<a href="https://login.cloudworkspace.com/">https://login.cloudworkspace.com/</a>
MacOS	MacOS 10.10 以降および Microsoft Remote Desktop 8 アプリ	手動でクライアントを設定します	<a href="https://login.cloudworkspace.com/">https://login.cloudworkspace.com/</a>

を入力します	オペレーティングシステム	<b>RDS</b> クライアントのアクセス方法	<b>RDS Web</b> クライアント
iOS	IOS 8.0 以降および任意 " <a href="#">リモートデスクトップアプリ</a> " RD ゲートウェイをサポートします	手動でクライアントを設定します	<a href="https://login.cloudworkspace.com/">https://login.cloudworkspace.com/</a>
Android	実行可能な Android バージョン " <a href="#">Microsoft Remote Desktop アプリ</a> "	手動でクライアントを設定します	<a href="https://login.cloudworkspace.com/">https://login.cloudworkspace.com/</a>
Linux の場合	RD ゲートウェイをサポートする RDS アプリケーションを使用すると、実質的にすべてのバージョンがサポートされます	手動でクライアントを設定します	<a href="https://login.cloudworkspace.com/">https://login.cloudworkspace.com/</a>
シンククライアント	RD ゲートウェイをサポートしていれば、さまざまなシンククライアントが機能します。Windows ベースのシンククライアントが推奨されます	手動でクライアントを設定します	<a href="https://login.cloudworkspace.com/">https://login.cloudworkspace.com/</a>

## 比較マトリックス

エレメント / フィーチャー ( <b>elements/Features</b> )	<b>HTML5</b> ブラウザ	<b>Windows</b> 用 <b>VDS</b> クライアント	<b>MacOS RDP</b> クライアント	モバイルデバイス上の <b>RDP</b> クライアント	モバイルデバイス上の <b>HTML5</b> クライアント
ローカルドライブアクセス	背景をクリックし、画面上部の中央に表示されるクラウドアイコンをクリックします	Windows エクスプローラで使用できます	[RDP] を右クリックします。[リダイレクト] タブに移動します。次に、マップするフォルダを選択します。デスクトップにログインすると、マップされたドライブとして表示されます。	該当なし	該当なし

エレメント / フィーチャー ( elements/Features )	HTML5 ブラウザ	Windows 用 VDS クライアント	MacOS RDP クライアント	モバイルデバイス 上の RDP クライアント	モバイルデバイス 上の HTML5 クライアント
表示スケーリング	サイズを変更でき、ブラウザウィンドウのサイズに基づいて変更されます。これは、エンドポイントの解像度（複数のモニタの場合はプライマリエンドポイントモニタ）よりも大きくすることはできません	再スケーリングは可能ですが、エンドポイントの画面解像度と常に同じになります（複数のモニタの場合は、プライマリのエンドポイントモニタ）。	再スケーリングは可能ですが、エンドポイントの画面解像度と常に同じになります（複数のモニタの場合は、プライマリのエンドポイントモニタ）。	該当なし	該当なし
コピー / 貼り付け	クリップボードのリダイレクトで有効にしました。	クリップボードのリダイレクトで有効にしました。	クリップボードのリダイレクトで有効にしました。仮想デスクトップ内で、Command + C または V ではなく、Ctrl + C または V を使用します	クリップボードのリダイレクトで有効にしました。	クリップボードのリダイレクトで有効にしました。
プリンタマッピング	ローカルプリンタおよびネットワークプリンタを検出するためにブラウザが使用している PDF プリンタドライバで処理される印刷	ThinPrint ユーティリティを使用してマッピングされたすべてのローカルプリンタおよびネットワークプリンタ	ThinPrint ユーティリティを使用してマッピングされたすべてのローカルプリンタおよびネットワークプリンタ	ThinPrint ユーティリティを使用してマッピングされたすべてのローカルプリンタおよびネットワークプリンタ	ローカルプリンタおよびネットワークプリンタを検出するためにブラウザが使用している PDF プリンタドライバで処理される印刷
パフォーマンス	RemoteFX（音声およびビデオの拡張機能）が有効になっていません	RDP を介して RemoteFX を有効化し、オーディオ / ビデオのパフォーマンスを向上	RDP を介して RemoteFX を有効化し、オーディオ / ビデオのパフォーマンスを向上	RemoteFX を有効にして、オーディオ / ビデオのパフォーマンスを向上させました	RemoteFX（オーディオ / ビデオの拡張機能）が有効になっていません
モバイルデバイスでのマウスの使用	該当なし	該当なし	該当なし	画面をタップしてマウスを移動し、をクリックします	画面を押したままドラッグしてマウスを移動し、をタップしてクリックします

## 印刷

- 仮想デスクトップクライアントには、ローカルプリンタをクラウドデスクトップにシームレスに渡す ThinPrint が含まれています。
- HTML5 接続方法では、ローカル印刷用に PDF がブラウザにダウンロードされます。
- MacOS 上の Microsoft Remote Desktop 8 アプリケーションでは、プリンタをクラウドデスクトップに共有できます

## USB 周辺機器

スキャナ、カメラ、カードリーダー、オーディオデバイスなどのアイテムでは、ミックスされた結果が得られます。仮想デスクトップ環境には、これを妨げる独自の機能はありませんが、必要なデバイスをテストすることをお勧めします。営業担当者は、必要に応じてテストアカウントを設定できます。

## 帯域幅

- ネットアップでは、ユーザごとに最低 150KB の帯域幅を推奨しています。容量が大きいほど、ユーザエクスペリエンスが向上します。
- 100 ミリ秒未満のインターネット・レイテンシーと、ジッタが非常に低いことも同様に重要です。こちらの技術情報アールクル
- VoIP、ビデオストリーミング、オーディオストリーミング、および一般的なインターネットブラウジングの使用により、帯域幅のニーズがさらに増加します。
- 仮想デスクトップ自体が消費する帯域幅の量は、ユーザの帯域幅要件を計算する際に最も小さい要素の 1 つとなります。

## Microsoft 帯域幅に関する推奨事項

<https://docs.microsoft.com/en-us/azure/virtual-desktop/bandwidth-recommendations>

## アプリケーションの推奨事項

ワークロード	サンプルアプリケーション	推奨される帯域幅
タスクワーカー	Microsoft Word、Outlook、Excel、Adobe Reader	1.5 Mbps
オフィスワーカー	Microsoft Word、Outlook、Excel、Adobe Reader、PowerPoint、フォトビューア	3 Mbps
ナレッジワーカー	Microsoft Word、Outlook、Excel、Adobe Reader、PowerPoint、フォトビューア、Java	5 Mbps
パワーワーカー	Microsoft Word、Outlook、Excel、Adobe Reader、PowerPoint、フォトビューア、Java、CAD/CAM、イラストレーション / パブリッシング	15 Mbps



これらの推奨事項は、セッション内のユーザ数に関係なく適用されます。

解像度に関する推奨事項を表示します

30 fps での一般的なディスプレイ解像度	推奨される帯域幅
約 1024 × 768 ピクセル	1.5 Mbps
約 1280 × 720 px	3 Mbps
約 1920 × 1080 ピクセル	5 Mbps
約 3840 × 2160 ピクセル（4K）	15 Mbps

## ローカルデバイスのシステムリソース

- RAM、CPU、ネットワークカード、グラフィックス機能などのローカルシステムリソースは、原因のユーザーエクスペリエンスにはばらつきがあります。
- これは、ネットワークとグラフィックス機能の中で最も当てはまるものです。
- 1 GB の RAM と低消費電力のプロセッサを低価格の Windows デバイスに搭載。推奨される最小メモリ容量は 2 ～ 4 GB です。

## Azure Virtual Desktop の 1 つです

### AVD Windows クライアント

から Windows 7/10 クライアントをダウンロードします <https://docs.microsoft.com/en-us/azure/virtual-desktop/connect-windows-7-10> エンドユーザのユーザ名とパスワードを使用してログインします。リモートアプリケーションとデスクトップ接続（RADC）、リモートデスクトップ接続（mstsc）、および NetApp VDS Client for Windows アプリケーションは、現在 AVD インスタンスへのログイン機能をサポートしていません。

### AVD Web クライアント

ブラウザで、Azure Virtual Desktop Web Client の Azure Resource Manager 統合バージョンに移動します <https://rdweb.AVD.microsoft.com/arm/webclient> ユーザーアカウントでサインインします。



Azure Resource Manager との統合なしで Azure Virtual Desktop（クラシック）を使用している場合は、でリソースに接続します <https://rdweb.AVD.microsoft.com/webclient> 代わりに、

## VDS 環境の変更

### 概要

NetApp Virtual Desktop Service を使用すると、以前のリリースでの導入管理、将来のリリースのプレビュー、1 つ前のバージョンで実行されている環境の管理が可能になります（N-1 方式）。

### Virtual Desktop Service の URL

Virtual Desktop Service は、管理者が VDS の導入を継続的に管理するために使用できる管理コンソールです。

環境	説明	URL	コードベース	API のドキュメント
プレビュー（Preview）	今後のリリースのプレビュー版です	<a href="https://preview.manage.cloudworksace.com/">https://preview.manage.cloudworksace.com/</a>	5.4	<a href="https://api.cloudworkspace.com/5.4/swagger/ui/index">https://api.cloudworkspace.com/5.4/swagger/ui/index</a>
* 電流 *	* 現在のリリース *	* <a href="https://manage.vds.netapp.com/">https://manage.vds.netapp.com/</a> *	* 6.0 *	* <a href="https://api.cloudworkspace.com/6.0/swagger/ui/index">https://api.cloudworkspace.com/6.0/swagger/ui/index</a> *
前へ	以前のリリース	<a href="https://manage.cloudworkspace.com/">https://manage.cloudworkspace.com/</a>	5.4	<a href="https://api.cloudworkspace.com/5.4/swagger/ui/index">https://api.cloudworkspace.com/5.4/swagger/ui/index</a>

## 仮想デスクトップサービスの導入

VDS では、ウィザードベースの導入プロセスが提供されます。このプロセスにより、管理者は AVD や仮想デスクトップ環境のプロビジョニングプロセスを大幅に合理化できます。

管理者は、既存の環境またはプレビュー環境にのみ導入をプロビジョニングできません。

環境	説明	URL	コードベース	導入ガイド
* 電流 *	* 現在のリリース *	* <a href="https://manage.vds.netapp.com/deployments/add">https://manage.vds.netapp.com/deployments/add</a> *	<b>5.4</b>	<b>"VDS v6.0 導入ガイド"</b>
前へ	以前のリリース	<a href="https://cwasetup.cloudworkspace.com">https://cwasetup.cloudworkspace.com</a>	5.4	サポートにお問い合わせください

## VDS コスト見積もりツール

VDS コスト試算ツールは、Azure または Google Cloud でパブリッククラウドのコストを見積もることができる、目的に合わせて構築された付加価値ツールです。このツールには、予算を変更して最適化し、組織の予算内で必要な解決策を提供する方法が含まれています。

環境	説明	URL
検証	今後のリリースのプレビュー	<a href="https://val.manage.vds.netapp.com/cost-estimator">https://val.manage.vds.netapp.com/cost-estimator</a>
* 電流 *	* 現在のリリース *	* <a href="https://manage.vds.netapp.com/cost-estimator">https://manage.vds.netapp.com/cost-estimator</a> *

# スクリプトライブラリのドキュメント

## スクリプト化されたイベントドキュメント - Adobe Reader DC

### グローバルスクリプトの概要

NetApp VDS には、定義済みのスクリプト化イベントのライブラリが含まれています。これらのイベントは



VDS 環境で直接使用したり、重複してカスタムのスクリプト化イベントのビルディングブロックとして使用したりできます。

このアプリケーションの場合、この記事では、インストール / 有効化およびアンインストール / 無効化の両方のアクションについて説明します。

## グローバルスクリプトの使用

このような組み込みのスクリプト化されたイベントは事前に入力されており、「グローバル」フィルタチェックボックスをオンにすると表示されます。

このようなグローバルスクリプトイベントは読み取り専用ですそのまま使用することも、「クローン」機能を使用して編集や使用のためにお客様のコピーを作成することもできます。

[ クローン ] ボタンは [ スクリプトイベント ] ページのアクションメニューにあります

[scriptlibrary.overview 2ccb2] | [scriptlibrary.overview-2ccb2.png](#)

## Adobe Reader DC の概要

このスクリプトパッケージは、chocolatey パッケージマネージャを使用して、*Adobe Reader DC* をインストール / アンインストールします (<https://chocolatey.org/>) をクリックして、を展開します。chocolatey は VM の作成時に VDS によって導入されますが、このスクリプトでは chocolatey が存在しない場合はその前提条件として確認およびインストールされます。

### デフォルトのショートカットパス

このアプリケーションのデフォルトのショートカットパスは、以下のように入力されます。ショートカットは、「\\shortcuts\Acrobat Reader DC.lnk」です

[ アクティビティの追加 ] ダイアログウィンドウのスクリーンショット

[scriptlibrary.activity.InstallAdobeReader] | [scriptlibrary.activity.InstallAdobeReader.png](#)

アプリケーションのインストール / アンインストールアクティビティを追加します

リポジトリ内のスクリプトが何らかのアクションを実行するには ' そのスクリプトを選択したトリガに関連付けるアクティビティを作成する必要がありますこの例のアクティビティでは、アプリケーションがワークスペースに追加された場合、またはワークスペースから削除された場合（VDS の `_Workspace > Applications_page` から）、このアプリケーションをインストール / アンインストールします。

VDS スクリプト化されたイベントには 'Create Server など' 他の多くのタイプのアクティビティトリガが用意されていますこのトリガは 'Application Install( または Application Uninstall) イベントタイプの代わりに使用できます\_ サーバの作成 \_を使用すると 'VDS で新たに作成したすべての VM に対してこのアプリケーションのインストールが実行されます\_ サーバの作成 \_ およびその他のトリガが文書化されており ' 調査できます "[こちらをご覧ください](#)"。



このアプリケーションは 'VDS アプリケーションライブラリに存在する必要がありますこれ "[セクション](#)。" RDS 記事のアプリエントタイトルメントでは、ライブラリにアプリを追加する方法について説明しています。

アクティビティを作成し、このスクリプトをアクションにリンクするには：

1. VDS のスクリプトイベントセクションに移動します
2. [Activities\_Click ( \_ アクティビティ \_ を追加 \_ ) ] をクリックします
3. 開いたダイアログウィンドウで、次の情報を入力します。
  - \* 名前: \* このアクティビティに名前を付けます
  - \* 概要: \* オプションで概要を入力します
  - \* 展開 \* ドロップダウンから希望の展開を選択します
  - \* スクリプト: \* ドロップダウンからインストール（またはアンインストール）スクリプトを選択します。これは、クローンを作成してカスタマイズしたグローバルスクリプトまたは顧客スクリプトです。
  - \* 引数: \* は空白のままにします
  - \* 有効チェックボックス: \* チェックボックス
  - \* イベントの種類: ドロップダウンから「Application Install」（アプリケーションのインストール）または「Application Uninstall」（アプリケーションのアンインストール）を選択します
  - \* アプリケーション: \* ドロップダウンからこのアプリケーションを選択します
  - \* ショートカットパス: \* このアプリケーションのデフォルトのショートカットパスを入力します（上記を参照）。

## スクリプト化されたイベントドキュメント - AMD Radeon Instinct ドライバ

### グローバルスクリプトの概要

NetApp VDS には、定義済みのスクリプト化イベントのライブラリが含まれています。これらのイベントは VDS 環境で直接使用したり、重複してカスタムのスクリプト化イベントのビルディングブロックとして使用したりできます。

このアプリケーションの場合、この記事では、インストール / 有効化およびアンインストール / 無効化の両方のアクションについて説明します。

### グローバルスクリプトの使用

このような組み込みのスクリプト化されたイベントは事前に入力されており、「グローバル」フィルタチェックボックスをオンにすると表示されます。

このようなグローバルスクリプトイベントは読み取り専用ですそのまま使用することも、「クローン」機能を使用して編集や使用のためにお客様のコピーを作成することもできます。

[ クローン ] ボタンは [ スクリプトイベント ] ページのアクションメニューにあります

[scriptlibrary.overview 2ccb2] | [scriptlibrary.overview-2ccb2.png](#)

### AMD Radeon Instinct ドライバの概要

このスクリプトパッケージは、chocolatey パッケージマネージャを使用して、AMD Radeon Instinct Drivers をインストール / アンインストールします (<https://chocolatey.org/>) をクリックして、を展開します。chocolatey は VM の作成時に VDS によって導入されますが、このスクリプトでは chocolatey が存在しない場合はその前提条件として確認およびインストールされます。

【 アクティビティの追加 】 ダイアログウィンドウのスクリーンショット

[scriptlibrary.activity.InstallAMDRadeonInstinctDrivers] |

手動アクティビティを追加します

リポジトリ内のスクリプトが何らかのアクションを実行するには 'そのスクリプトを選択したトリガに関連付けるアクティビティを作成する必要がありますこの例のアクティビティは 'VDS 管理者が手動でスクリプトをトリガしたときに実行されます

VDS スクリプト化されたイベントには 'Create Server など ' その他の多くのタイプのアクティビティトリガが用意されていますこれは 'Manual\_event タイプの代わりに使用できます Create Server を使用すると 'VDS で新しく作成したすべての VM に対してこのスクリプトが実行されます \_ サーバの作成 \_ およびその他のトリガが文書化されており ' 調査できます ["こちらをご覧ください"](#)。

アクティビティを作成し、このスクリプトをアクションにリンクするには：

1. VDS のスクリプトイベントセクションに移動します
2. [Activities\_Click ( \_ アクティビティ \_ を追加 \_ ) ] をクリックします
3. 開いたダイアログウィンドウで、次の情報を入力します。
  - \* 名前： \* このアクティビティに名前を付けます
  - \* 概要： \* オプションで概要を入力します
  - \* 展開 \* ドロップダウンから希望の展開を選択します
  - \* スクリプト： \* ドロップダウンからインストール（またはアンインストール）スクリプトを選択します。これは、クローンを作成してカスタマイズしたグローバルスクリプトまたは顧客スクリプトです。
  - \* 引数： \* は空白のままにします
  - \* 有効チェックボックス : \* チェックボックス
  - \* イベントの種類：ドロップダウンから「手動」を選択します
  - \* ターゲット・タイプ：「サーバ」ラジオ・ボタンを選択します
  - \* 管理対象サーバ：このアンインストールを受け取る VM ごとにチェックボックスをオンにします

## スクリプト化されたイベントドキュメント - Ezeep Print App

### グローバルスクリプトの概要

NetApp VDS には、定義済みのスクリプト化イベントのライブラリが含まれています。これらのイベントは VDS 環境で直接使用したり、重複してカスタムのスクリプト化イベントのビルディングブロックとして使用したりできます。

このアプリケーションの場合、この記事では、インストール / 有効化およびアンインストール / 無効化の両方のアクションについて説明します。

### グローバルスクリプトの使用

このような組み込みのスクリプト化されたイベントは事前に入力されており、「グローバル」フィルタチェックボックスをオンにすると表示されます。

このようなグローバルスクリプトイベントは読み取り専用ですそのまま使用することも、「クローン」機能を使用して編集や使用のためにお客様のコピーを作成することもできます。

[ クローン ] ボタンは [ スクリプトイベント ] ページのアクションメニューにあります

[scriptlibrary.overview 2ccb2] | [scriptlibrary.overview-2ccb2.png](#)

## Ezeep Print App の概要

このスクリプトパッケージは、chocolatey パッケージマネージャを使用して、*Ezeep Print App* をインストール / アンインストールします (<https://chocolatey.org/>) をクリックして、を展開します。chocolatey は VM の作成時に VDS によって導入されますが、このスクリプトでは chocolatey が存在しない場合はその前提条件として確認およびインストールされます。

デフォルトのショートカットパス

このアプリケーションのデフォルトのショートカットパスは以下のようになります。ショートカットは「\\shortcuts\Printer Self Service.Ink」です

[ アクティビティの追加 ] ダイアログウィンドウのスクリーンショット

[scriptlibrary.activity.InstallEzeepPrintApp] | [scriptlibrary.activity.InstallEzeepPrintApp.png](#)

アプリケーションのインストール / アンインストールアクティビティを追加します

リポジトリ内のスクリプトが何らかのアクションを実行するには ' そのスクリプトを選択したトリガに関連付けるアクティビティを作成する必要がありますこの例のアクティビティでは、アプリケーションがワークスペースに追加された場合、またはワークスペースから削除された場合（VDS の \_Workspace > Applications\_page から）、このアプリケーションをインストール / アンインストールします。

VDS スクリプト化されたイベントには 'Create Server など' 他多くのタイプのアクティビティトリガが用意されていますこのトリガは 'Application Install( または Application Uninstall) イベントタイプの代わりに使用できます\_ サーバの作成 \_ を使用すると 'VDS で新たに作成したすべての VM に対してこのアプリケーションのインストールが実行されます\_ サーバの作成 \_ およびその他のトリガが文書化されており ' 調査できます "[こちらをご覧ください](#)".



このアプリケーションは 'VDS アプリケーションライブラリに存在する必要がありますこれ "[セクション](#)。" RDS 記事のアプリエントタイトルメントでは、ライブラリにアプリを追加する方法について説明しています。

アクティビティを作成し、このスクリプトをアクションにリンクするには：

1. VDS のスクリプトイベントセクションに移動します
2. [ \_Activities\_Click （ \_ アクティビティ \_ を追加 \_ ） ] をクリックします
3. 開いたダイアログウィンドウで、次の情報を入力します。
  - \* 名前： \* このアクティビティに名前を付けます
  - \* 概要： \* オプションで概要を入力します
  - \* 展開 \* ドロップダウンから希望の展開を選択します
  - \* スクリプト： \* ドロップダウンからインストール（またはアンインストール）スクリプトを選択します。これは、クローンを作成してカスタマイズしたグローバルスクリプトまたは顧客スクリプトです。
  - \* 引数： \* は空白のままにします

- \* 有効チェックボックス : \* チェックボックス
- \* イベントの種類：ドロップダウンから「Application Install」（アプリケーションのインストール）または「Application Uninstall」（アプリケーションのアンインストール）を選択します
- \* アプリケーション： \* ドロップダウンからこのアプリケーションを選択します
- \* ショートカットパス： \* このアプリケーションのデフォルトのショートカットパスを入力します（上記を参照）。

## スクリプト化されたイベントドキュメント - Google Chrome

### グローバルスクリプトの概要

NetApp VDS には、定義済みのスクリプト化イベントのライブラリが含まれています。これらのイベントは VDS 環境で直接使用したり、重複してカスタムのスクリプト化イベントのビルディングブロックとして使用したりできます。

このアプリケーションの場合、この記事では、インストール / 有効化およびアンインストール / 無効化の両方のアクションについて説明します。

### グローバルスクリプトの使用

このような組み込みのスクリプト化されたイベントは事前に入力されており、「グローバル」フィルタチェックボックスをオンにすると表示されます。

このようなグローバルスクリプトイベントは読み取り専用ですそのまま使用することも、「クローン」機能を使用して編集や使用のためにお客様のコピーを作成することもできます。

[ クローン ] ボタンは「[ スクリプトイベント ] ページのアクションメニューにあります

[scriptlibrary.overview 2ccb2] | *scriptlibrary.overview-2ccb2.png*

### Google Chrome の概要

このスクリプトパッケージは、chocolatey パッケージマネージャを使用して、\_Google Chrome\_ をインストール / アンインストールします (<https://chocolatey.org/>) をクリックして、を展開します。chocolatey は VM の作成時に VDS によって導入されますが、このスクリプトでは chocolatey が存在しない場合はその前提条件として確認およびインストールされます。

### デフォルトのショートカットパス

このアプリケーションのデフォルトのショートカットパスは、以下のように入力されます。ショートカットは、「\\shortcuts\Google Chrome.lnk」です

[ アクティビティの追加 ] ダイアログウィンドウのスクリーンショット

[scriptlibrary.activity.InstallGoogleChrome] | *scriptlibrary.activity.InstallGoogleChrome.png*

アプリケーションのインストール / アンインストールアクティビティを追加します

リポジトリ内のスクリプトが何らかのアクションを実行するには ' そのスクリプトを選択したトリガに関連付けるアクティビティを作成する必要がありますこの例のアクティビティでは、アプリケーションがワークスペースに追加された場合、またはワークスペースから削除された場合（VDS の \_Workspace >

Applications\_page から)、このアプリケーションをインストール / アンインストールします。

VDS スクリプト化されたイベントには 'Create Server など' 他多くのタイプのアクティビティトリガが用意されていますこのトリガは 'Application Install( または Application Uninstall) イベントタイプの代わりに使用できます\_ サーバの作成 \_ を使用すると 'VDS で新たに作成したすべての VM に対してこのアプリケーションのインストールが実行されます\_ サーバの作成 \_ およびその他のトリガが文書化されており' 調査できます "[こちらをご覧ください](#)".



このアプリケーションは 'VDS アプリケーションライブラリに存在する必要がありますこれ "[セクション](#)." RDS 記事のアプリエントタイトルメントでは、ライブラリにアプリを追加する方法について説明しています。

アクティビティを作成し、このスクリプトをアクションにリンクするには：

1. VDS のスクリプトイベントセクションに移動します
2. [\_Activities\_Click ( \_ アクティビティ \_ を追加 \_ ) ] をクリックします
3. 開いたダイアログウィンドウで、次の情報を入力します。
  - \* 名前： \* このアクティビティに名前を付けます
  - \* 概要： \* オプションで概要を入力します
  - \* 展開 \* ドロップダウンから希望の展開を選択します
  - \* スクリプト： \* ドロップダウンからインストール（またはアンインストール）スクリプトを選択します。これは、クローンを作成してカスタマイズしたグローバルスクリプトまたは顧客スクリプトです。
  - \* 引数： \* は空白のままにします
  - \* 有効チェックボックス : \* チェックボックス
  - \* イベントの種類：ドロップダウンから「Application Install」（アプリケーションのインストール）または「Application Uninstall」（アプリケーションのアンインストール）を選択します
  - \* アプリケーション： \* ドロップダウンからこのアプリケーションを選択します
  - \* ショートカットパス： \* このアプリケーションのデフォルトのショートカットパスを入力します（上記を参照）。

## スクリプト化されたイベントドキュメント - Microsoft Edge Chromium

### グローバルスクリプトの概要

NetApp VDS には、定義済みのスクリプト化イベントのライブラリが含まれています。これらのイベントは VDS 環境で直接使用したり、重複してカスタムのスクリプト化イベントのビルディングブロックとして使用したりできます。

このアプリケーションの場合、この記事では、インストール / 有効化およびアンインストール / 無効化の両方のアクションについて説明します。

### グローバルスクリプトの使用

このような組み込みのスクリプト化されたイベントは事前に入力されており、「グローバル」フィルタチェックボックスをオンにすると表示されます。



このようなグローバルスクリプトイベントは読み取り専用ですそのまま使用することも、「クローン」機能を使用して編集や使用のためにお客様のコピーを作成することもできます。

[ クローン ] ボタンは [ スクリプトイベント ] ページのアクションメニューにあります

[scriptlibrary.overview 2ccb2] | [scriptlibrary.overview-2ccb2.png](#)

## Microsoft Edge Chromium の概要

このスクリプトパッケージでは、chocolatey パッケージマネージャを使用して Microsoft Edge Chromium\_ をインストール / アンインストールします (<https://chocolatey.org/>) をクリックして、を展開します。chocolatey は VM の作成時に VDS によって導入されますが、このスクリプトでは chocolatey が存在しない場合はその前提条件として確認およびインストールされます。

デフォルトのショートカットパス

デフォルトのショートカットパスは以下のように入力されます。このアプリケーションのショートカットは、「\\shortcuts\Microsoft Edge.lnk」です

[ アクティビティの追加 ] ダイアログウィンドウのスクリーンショット

[scriptlibrary.activity.InstallMicrosoftEdgeChromium] | [scriptlibrary.activity.InstallMicrosoftEdgeChromium.png](#)

アプリケーションのインストール / アンインストールアクティビティを追加します

リポジトリ内のスクリプトが何らかのアクションを実行するには ' そのスクリプトを選択したトリガに関連付けるアクティビティを作成する必要がありますこの例のアクティビティでは、アプリケーションがワークスペースに追加された場合、またはワークスペースから削除された場合（VDS の \_Workspace > Applications\_page から）、このアプリケーションをインストール / アンインストールします。

VDS スクリプト化されたイベントには 'Create Server など' 他の多くのタイプのアクティビティトリガが用意されていますこのトリガは 'Application Install( または Application Uninstall) イベントタイプの代わりに使用できます\_ サーバの作成 \_ を使用すると 'VDS で新たに作成したすべての VM に対してこのアプリケーションのインストールが実行されます\_ サーバの作成 \_ およびその他のトリガが文書化されており' 調査できます "[こちらをご覧ください](#)"。



このアプリケーションは 'VDS アプリケーションライブラリに存在する必要がありますこれ "[セクション](#)。" RDS 記事のアプリエントタイトルメントでは、ライブラリにアプリを追加する方法について説明しています。

アクティビティを作成し、このスクリプトをアクションにリンクするには：

1. VDS のスクリプトイベントセクションに移動します
2. [ \_Activities\_Click ( \_ アクティビティ \_ を追加 \_ ) ] をクリックします
3. 開いたダイアログウィンドウで、次の情報を入力します。
  - \* 名前： \* このアクティビティに名前を付けます
  - \* 概要： \* オプションで概要を入力します
  - \* 展開 \* ドロップダウンから希望の展開を選択します
  - \* スクリプト： \* ドロップダウンからインストール（またはアンインストール）スクリプトを選択します。これは、クローンを作成してカスタマイズしたグローバルスクリプトまたは顧客スクリプトで



す。

- \* 引数：\* は空白のままにします
- \* 有効チェックボックス：\* チェックボックス
- \* イベントの種類：ドロップダウンから「Application Install」（アプリケーションのインストール）または「Application Uninstall」（アプリケーションのアンインストール）を選択します
- \* アプリケーション：\* ドロップダウンからこのアプリケーションを選択します
- \* ショートカットパス：\* このアプリケーションのデフォルトのショートカットパスを入力します（上記を参照）。

## スクリプト化されたイベントドキュメント - Microsoft Office 365

### グローバルスクリプトの概要

NetApp VDS には、定義済みのスクリプト化イベントのライブラリが含まれています。これらのイベントは VDS 環境で直接使用したり、重複してカスタムスクリプト化イベントのビルディングブロックとして使用したりできます。

このアプリケーションの場合、この記事では、インストール / 有効化およびアンインストール / 無効化の両方のアクションについて説明します。

### グローバルスクリプトの使用

このような組み込みのスクリプト化されたイベントは事前に入力されており、「グローバル」フィルタチェックボックスをオンにすると表示されます。

このようなグローバルスクリプトイベントは読み取り専用ですそのまま使用することも、「クローン」機能を使用して編集や使用のためにお客様のコピーを作成することもできます。

[ クローン ] ボタンは [ スクリプトイベント ] ページのアクションメニューにあります

[scriptlibrary.overview 2ccb2] | [scriptlibrary.overview-2ccb2.png](#)

### Microsoft Office 365 の概要

このスクリプトパッケージは、chocolatey パッケージマネージャを使用して Microsoft Office \_ をインストール / アンインストールします (<https://chocolatey.org/>) をクリックして、を展開します。chocolatey は VM の作成時に VDS によって導入されますが、このスクリプトでは chocolatey が存在しない場合はその前提条件として確認およびインストールされます。



この Microsoft Office 365 インストールスクリプトには、Microsoft チームや Microsoft One Drive は含まれていません。これらはスタンドアロンの自動スクリプトとして含まれており、一部の環境ではこれらのアプリケーションが不要なため、柔軟性が向上します。この配置は、コピーおよび編集して含めることができます（または、他の配置を変更することもできます）  
"Office 展開ツール" 設定） VDS からスクリプトをクローニングし、InstallMicrosoftOffice365.ps1 を編集して、XML 設定ファイルに異なる値を入力する。

### デフォルトのショートカットパス

このアプリケーションのデフォルトのショートカットパスは、以下のように入力されます。ショートカット

は「\\folders\Microsoft Office」です

【アクティビティの追加】ダイアログウィンドウのスクリーンショット

[scriptlibrary.activity.InstallMicrosoftOffice365] | *scriptlibrary.activity.InstallMicrosoftOffice365.png*

アプリケーションのインストール / アンインストールアクティビティを追加します

リポジトリ内のスクリプトが何らかのアクションを実行するには、そのスクリプトを選択したトリガに関連付けるアクティビティを作成する必要があります。この例のアクティビティでは、アプリケーションがワークスペースに追加された場合、またはワークスペースから削除された場合（VDS の `_Workspace > Applications_page` から）、このアプリケーションをインストール / アンインストールします。

VDS スクリプト化されたイベントには 'Create Server など' 他多くのタイプのアクティビティトリガが用意されています。このトリガは 'Application Install (または Application Uninstall)' イベントタイプの代わりに使用できます。\_サーバの作成\_ を使用すると 'VDS で新たに作成したすべての VM に対してこのアプリケーションのインストールが実行されます' \_サーバの作成\_ およびその他のトリガが文書化されており、調査できます。"こちらをご覧ください"。



このアプリケーションは 'VDS アプリケーションライブラリ' に存在する必要があります。これ "セクション。" RDS 記事のアプリケーションタイトルメントでは、ライブラリにアプリを追加する方法について説明しています。

アクティビティを作成し、このスクリプトをアクションにリンクするには：

1. VDS のスクリプトイベントセクションに移動します
2. [\_Activities\_Click ( \_ アクティビティ \_ を追加 \_ ) ] をクリックします
3. 開いたダイアログウィンドウで、次の情報を入力します。
  - \* 名前： \* このアクティビティに名前を付けます
  - \* 概要： \* オプションで概要を入力します
  - \* 展開 \* ドロップダウンから希望の展開を選択します
  - \* スクリプト： \* ドロップダウンからインストール（またはアンインストール）スクリプトを選択します。これは、クローンを作成してカスタマイズしたグローバルスクリプトまたは顧客スクリプトです。
  - \* 引数： \* は空白のままにします
  - \* 有効チェックボックス : \* チェックボックス
  - \* イベントの種類：ドロップダウンから「Application Install」（アプリケーションのインストール）または「Application Uninstall」（アプリケーションのアンインストール）を選択します
  - \* アプリケーション： \* ドロップダウンからこのアプリケーションを選択します
  - \* ショートカットパス： \* このアプリケーションのデフォルトのショートカットパスを入力します（上記を参照）。

## スクリプト化されたイベントドキュメント - Microsoft OneDrive

グローバルスクリプトの概要

NetApp VDS には、定義済みのスクリプト化イベントのライブラリが含まれています。これらのイベントは

VDS 環境で直接使用したり、重複してカスタムのスクリプト化イベントのビルディングブロックとして使用したりできます。

このアプリケーションの場合、この記事では、インストール / 有効化およびアンインストール / 無効化の両方のアクションについて説明します。

## グローバルスクリプトの使用

このような組み込みのスクリプト化されたイベントは事前に入力されており、「グローバル」フィルタチェックボックスをオンにすると表示されます。

このようなグローバルスクリプトイベントは読み取り専用ですそのまま使用することも、「クローン」機能を使用して編集や使用のためにお客様のコピーを作成することもできます。

[ クローン ] ボタンは [ スクリプトイベント ] ページのアクションメニューにあります

[scriptlibrary.overview 2ccb2] | [scriptlibrary.overview-2ccb2.png](#)

## Microsoft OneDrive の概要

このスクリプトパッケージは、chocolatey パッケージマネージャを使用して Microsoft OneDrive をインストール / アンインストールします (<https://chocolatey.org/>) をクリックして、を展開します。chocolatey は VM の作成時に VDS によって導入されますが、このスクリプトでは chocolatey が存在しない場合はその前提条件として確認およびインストールされます。

### デフォルトのショートカットパス

このアプリケーションのデフォルトのショートカットパスは、以下のように入力されます。ショートカットは、「\\shortcuts\OneDrive .lnk」です

[ アクティビティの追加 ] ダイアログウィンドウのスクリーンショット

[scriptlibrary.activity.InstallMicrosoftOneDrive] | [scriptlibrary.activity.InstallMicrosoftOneDrive.png](#)

アプリケーションのインストール / アンインストールアクティビティを追加します

リポジトリ内のスクリプトが何らかのアクションを実行するには 'そのスクリプトを選択したトリガに関連付けるアクティビティを作成する必要がありますこの例のアクティビティでは、アプリケーションがワークスペースに追加された場合、またはワークスペースから削除された場合（VDS の \_Workspace > Applications\_page から）、このアプリケーションをインストール / アンインストールします。

VDS スクリプト化されたイベントには 'Create Server など' 他の多くのタイプのアクティビティトリガが用意されていますこのトリガは 'Application Install( または Application Uninstall) イベントタイプの代わりに使用できます\_ サーバの作成 \_を使用すると 'VDS で新たに作成したすべての VM に対してこのアプリケーションのインストールが実行されます\_ サーバの作成 \_ およびその他のトリガが文書化されており '調査できます "[こちらをご覧ください](#)"。



このアプリケーションは 'VDS アプリケーションライブラリに存在する必要がありますこれ "[セクション](#)。" RDS 記事のアプリエントタイトルメントでは、ライブラリにアプリを追加する方法について説明しています。

アクティビティを作成し、このスクリプトをアクションにリンクするには：

1. VDS のスクリプトイベントセクションに移動します
2. [Activities\_Click ( \_ アクティビティ \_ を追加 \_ ) ] をクリックします
3. 開いたダイアログウィンドウで、次の情報を入力します。
  - \* 名前: \* このアクティビティに名前を付けます
  - \* 概要: \* オプションで概要を入力します
  - \* 展開 \* ドロップダウンから希望の展開を選択します
  - \* スクリプト: \* ドロップダウンからインストール（またはアンインストール）スクリプトを選択します。これは、クローンを作成してカスタマイズしたグローバルスクリプトまたは顧客スクリプトです。
  - \* 引数: \* は空白のままにします
  - \* 有効チェックボックス: \* チェックボックス
  - \* イベントの種類: ドロップダウンから「Application Install」（アプリケーションのインストール）または「Application Uninstall」（アプリケーションのアンインストール）を選択します
  - \* アプリケーション: \* ドロップダウンからこのアプリケーションを選択します
  - \* ショートカットパス: \* このアプリケーションのデフォルトのショートカットパスを入力します（上記を参照）。

## スクリプト化されたイベントドキュメント - Microsoft Teams

### グローバルスクリプトの概要

NetApp VDS には、定義済みのスクリプト化イベントのライブラリが含まれています。これらのイベントは VDS 環境で直接使用したり、重複してカスタムのスクリプト化イベントのビルディングブロックとして使用したりできます。

このアプリケーションの場合、この記事では、インストール / 有効化およびアンインストール / 無効化の両方のアクションについて説明します。

### グローバルスクリプトの使用

このような組み込みのスクリプト化されたイベントは事前に入力されており、「グローバル」フィルタチェックボックスをオンにすると表示されます。

このようなグローバルスクリプトイベントは読み取り専用ですそのまま使用することも、「クローン」機能を使用して編集や使用のためにお客様のコピーを作成することもできます。

[ クローン ] ボタンは [ スクリプトイベント ] ページのアクションメニューにあります

[scriptlibrary.overview 2ccb2] | [scriptlibrary.overview-2ccb2.png](#)

### Microsoft チームの概要

このスクリプトパッケージでは、chocolatey パッケージマネージャを使用して Microsoft Teams\_を インストール / アンインストールします (<https://chocolatey.org/>) をクリックして、を展開します。chocolatey は VM の作成時に VDS によって導入されますが、このスクリプトでは chocolatey が存在しない場合はその前提条件として確認およびインストールされます。



この Microsoft チームインストールは、RDS 環境への導入用に特別に構成されています。"別の Microsoft Teams スクリプト" AVD 展開用に提供されています。

デフォルトのショートカットパス

このアプリケーションのデフォルトのショートカットパスは ' 以下のとおりですショートカットは '\\shortcut\Microsoft Teams\lnk' です

アプリケーションのインストール / アンインストールアクティビティを追加します

リポジトリ内のスクリプトが何らかのアクションを実行するには ' そのスクリプトを選択したトリガに関連付けるアクティビティを作成する必要がありますこの例のアクティビティでは、アプリケーションがワークスペースに追加された場合、またはワークスペースから削除された場合（VDS の \_Workspace > Applications\_page から）、このアプリケーションをインストール / アンインストールします。

VDS スクリプト化されたイベントには 'Create Server など' 他の多くのタイプのアクティビティトリガが用意されていますこのトリガは 'Application Install( または Application Uninstall) イベントタイプの代わりに使用できます\_ サーバの作成 \_ を使用すると 'VDS で新たに作成したすべての VM に対してこのアプリケーションのインストールが実行されます\_ サーバの作成 \_ およびその他のトリガが文書化されており ' 調査できます "[こちらをご覧ください](#)"。



このアプリケーションは 'VDS アプリケーションライブラリに存在する必要がありますこれ "[セクション](#)。" RDS 記事のアプリエンタイトルメントでは、ライブラリにアプリを追加する方法について説明しています。

アクティビティを作成し、このスクリプトをアクションにリンクするには：

1. VDS のスクリプトイベントセクションに移動します
2. [\_Activities\_Click ( \_ アクティビティ \_ を追加 \_ ) ] をクリックします
3. 開いたダイアログウィンドウで、次の情報を入力します。
  - \* 名前： \* このアクティビティに名前を付けます
  - \* 概要： \* オプションで概要を入力します
  - \* 展開 \* ドロップダウンから希望の展開を選択します
  - \* スクリプト： \* ドロップダウンからインストール（またはアンインストール）スクリプトを選択します。これは、クローンを作成してカスタマイズしたグローバルスクリプトまたは顧客スクリプトです。
  - \* 引数： \* は空白のままにします
  - \* 有効チェックボックス : \* チェックボックス
  - \* イベントの種類：ドロップダウンから「Application Install」（アプリケーションのインストール）または「Application Uninstall」（アプリケーションのアンインストール）を選択します
  - \* アプリケーション： \* ドロップダウンからこのアプリケーションを選択します
  - \* ショートカットパス： \* このアプリケーションのデフォルトのショートカットパスを入力します（上記を参照）。

## スクリプト化されたイベントドキュメント - AVD の Microsoft チーム

### グローバルスクリプトの概要

NetApp VDS には、定義済みのスクリプト化イベントのライブラリが含まれています。これらのイベントは VDS 環境で直接使用したり、重複してカスタムスクリプト化イベントのビルディングブロックとして使用したりできます。

このアプリケーションの場合、この記事では、インストール / 有効化およびアンインストール / 無効化の両方のアクションについて説明します。

### グローバルスクリプトの使用

このような組み込みのスクリプト化されたイベントは事前に入力されており、「グローバル」フィルタチェックボックスをオンにすると表示されます。

このようなグローバルスクリプトイベントは読み取り専用ですそのまま使用することも、「クローン」機能を使用して編集や使用のためにお客様のコピーを作成することもできます。

[ クローン ] ボタンは [ スクリプトイベント ] ページのアクションメニューにあります

[scriptlibrary.overview 2ccb2] | *scriptlibrary.overview-2ccb2.png*

### Microsoft Teams for AVD の概要

このスクリプトパッケージでは、chocolatey パッケージマネージャを使用して、Microsoft チーム AVD\_Ad をインストール / アンインストールします (<https://chocolatey.org/>) をクリックして、を展開します。chocolatey は VM の作成時に VDS によって導入されますが、このスクリプトでは chocolatey が存在しない場合はその前提条件として確認およびインストールされます。



この Microsoft チームは、AVD 環境への導入用に特別に構成されており、Azure の AVD に固有のカスタマイズとコンポーネントが含まれています。"別の Microsoft Teams スクリプト" RDS 展開用に用意されています。

### デフォルトのショートカットパス

このアプリケーションのデフォルトのショートカットパスは以下のとおりですショートカットは '\\shortcut\Microsoft Teams AVD.lnk' です

[ アクティビティの追加 ] ダイアログウィンドウのスクリーンショット

[scriptlibrary.script.InstallMicrosoftTeamsAVD] | *scriptlibrary.script.InstallMicrosoftTeamsAVD.png*

アプリケーションのインストール / アンインストールアクティビティを追加します

リポジトリ内のスクリプトが何らかのアクションを実行するには 'そのスクリプトを選択したトリガに関連付けるアクティビティを作成する必要がありますこの例のアクティビティでは、アプリケーションがワークスペースに追加された場合、またはワークスペースから削除された場合（VDS の \_Workspace > Applications\_page から）、このアプリケーションをインストール / アンインストールします。

VDS スクリプト化されたイベントには 'Create Server など' 他多くのタイプのアクティビティトリガが用意されていますこのトリガは 'Application Install( または Application Uninstall) イベントタイプの代わりに使用で



きます\_ サーバの作成 \_ を使用すると 'VDS で新たに作成したすべての VM に対してこのアプリケーションのインストールが実行されます\_ サーバの作成 \_ およびその他のトリガが文書化されており ' 調査できます " [こちらをご覧ください](#) "。



このアプリケーションは 'VDS アプリケーションライブラリに存在する必要がありますこれ "セクション。" RDS 記事のアプリエンタイトルメントでは、ライブラリにアプリを追加する方法について説明しています。

アクティビティを作成し、このスクリプトをアクションにリンクするには：

1. VDS のスクリプトイベントセクションに移動します
2. [Activities\_Click ( \_ アクティビティ \_ を追加 \_ ) ] をクリックします
3. 開いたダイアログウィンドウで、次の情報を入力します。
  - \* 名前： \* このアクティビティに名前を付けます
  - \* 概要： \* オプションで概要を入力します
  - \* 展開 \* ドロップダウンから希望の展開を選択します
  - \* スクリプト： \* ドロップダウンからインストール（またはアンインストール）スクリプトを選択します。これは、クローンを作成してカスタマイズしたグローバルスクリプトまたは顧客スクリプトです。
  - \* 引数： \* は空白のままにします
  - \* 有効チェックボックス : \* チェックボックス
  - \* イベントの種類：ドロップダウンから「Application Install」（アプリケーションのインストール）または「Application Uninstall」（アプリケーションのアンインストール）を選択します
  - \* アプリケーション： \* ドロップダウンからこのアプリケーションを選択します
  - \* ショートカットパス： \* このアプリケーションのデフォルトのショートカットパスを入力します（上記を参照）。

## スクリプト化されたイベントドキュメント - Nvidia Cuda ドライバ

### グローバルスクリプトの概要

NetApp VDS には、定義済みのスクリプト化イベントのライブラリが含まれています。これらのイベントは VDS 環境で直接使用したり、重複してカスタムのスクリプト化イベントのビルディングブロックとして使用したりできます。

このアプリケーションの場合、この記事では、インストール / 有効化およびアンインストール / 無効化の両方のアクションについて説明します。

### グローバルスクリプトの使用

このような組み込みのスクリプト化されたイベントは事前に入力されており、「グローバル」フィルタチェックボックスをオンにすると表示されます。

このようなグローバルスクリプトイベントは読み取り専用ですそのまま使用することも、「クローン」機能を使用して編集や使用のためにお客様のコピーを作成することもできます。

[ クローン ] ボタンは [ スクリプトイベント ] ページのアクションメニューにあります

## NVIDIA Cuda ドライバの概要

このスクリプトパッケージは、chocolatey パッケージマネージャを使用して、Nvidia Cuda Drivers\_ をインストール / アンインストールします (<https://chocolatey.org/>) をクリックして、を展開します。chocolatey は VM の作成時に VDS によって導入されますが、このスクリプトでは chocolatey が存在しない場合はその前提条件として確認およびインストールされます。

[ アクティビティの追加 ] ダイアログウィンドウのスクリーンショット

[scriptlibrary.activity.InstallNvidiaCudaDrivers] | [scriptlibrary.activity.InstallNvidiaCudaDrivers.png](#)

手動アクティビティを追加します

リポジトリ内のスクリプトが何らかのアクションを実行するには ' そのスクリプトを選択したトリガに関連付けるアクティビティを作成する必要がありますこの例のアクティビティは 'VDS 管理者が手動でスクリプトをトリガしたときに実行されます

VDS スクリプト化されたイベントには 'Create Server など ' その他の多くのタイプのアクティビティトリガが用意されていますこれは 'Manual\_event タイプの代わりに使用できますCreate Server を使用すると 'VDS で新しく作成したすべての VM に対してこのスクリプトが実行されます\_ サーバの作成 \_ およびその他のトリガが文書化されており ' 調査できます "[こちらをご覧ください](#)".

アクティビティを作成し、このスクリプトをアクションにリンクするには：

1. VDS のスクリプトイベントセクションに移動します
2. [ \_Activities\_Click ( \_ アクティビティ \_ を追加 \_ ) ] をクリックします
3. 開いたダイアログウィンドウで、次の情報を入力します。
  - \* 名前： \* このアクティビティに名前を付けます
  - \* 概要： \* オプションで概要を入力します
  - \* 展開 \* ドロップダウンから希望の展開を選択します
  - \* スクリプト： \* ドロップダウンからインストール（またはアンインストール）スクリプトを選択します。これは、クローンを作成してカスタマイズしたグローバルスクリプトまたは顧客スクリプトです。
  - \* 引数： \* は空白のままにします
  - \* 有効チェックボックス : \* チェックボックス
  - \* イベントの種類：ドロップダウンから「手動」を選択します
  - \* ターゲット・タイプ：「サーバ」ラジオ・ボタンを選択します
  - \* 管理対象サーバ：このアンインストールを受け取る VM ごとにチェックボックスをオンにします

## スクリプト化されたイベントドキュメント - Nvidia グリッドドライバ

### グローバルスクリプトの概要

NetApp VDS には、定義済みのスクリプト化イベントのライブラリが含まれています。これらのイベントは VDS 環境で直接使用したり、重複してカスタムのスクリプト化イベントのビルディングブロックとして使用



したりできます。

このアプリケーションの場合、この記事では、インストール / 有効化およびアンインストール / 無効化の両方のアクションについて説明します。

## グローバルスクリプトの使用

このような組み込みのスクリプト化されたイベントは事前に入力されており、「グローバル」フィルタチェックボックスをオンにすると表示されます。

このようなグローバルスクリプトイベントは読み取り専用ですそのまま使用することも、「クローン」機能を使用して編集や使用のためにお客様のコピーを作成することもできます。

[ クローン ] ボタンは [ スクリプトイベント ] ページのアクションメニューにあります

[scriptlibrary.overview 2ccb2] | [scriptlibrary.overview-2ccb2.png](#)

## NVIDIA GRID ドライバの概要

このスクリプトパッケージでは、chocolatey パッケージマネージャを使用して *Nvidia Grid Drivers* をインストール / アンインストールします (<https://chocolatey.org/>) をクリックして、を展開します。chocolatey は VM の作成時に VDS によって導入されますが、このスクリプトでは chocolatey が存在しない場合はその前提条件として確認およびインストールされます。

[ アクティビティの追加 ] ダイアログウィンドウのスクリーンショット

[scriptlibrary.activity.InstallNvidiaGridDrivers] | [scriptlibrary.activity.InstallNvidiaGridDrivers.png](#)

手動アクティビティを追加します

リポジトリ内のスクリプトが何らかのアクションを実行するには ' そのスクリプトを選択したトリガに関連付けるアクティビティを作成する必要がありますこの例のアクティビティは 'VDS 管理者が手動でスクリプトをトリガしたときに実行されます

VDS スクリプト化されたイベントには 'Create Server など ' その他の多くのタイプのアクティビティトリガが用意されていますこれは 'Manual\_event タイプの代わりに使用できますCreate Server を使用すると 'VDS で新しく作成したすべての VM に対してこのスクリプトが実行されます\_ サーバの作成 \_ およびその他のトリガが文書化されており ' 調査できます "[こちらをご覧ください](#)".

アクティビティを作成し、このスクリプトをアクションにリンクするには：

1. VDS のスクリプトイベントセクションに移動します
2. [ \_Activities\_Click ( \_ アクティビティ \_ を追加 \_ ) ] をクリックします
3. 開いたダイアログウィンドウで、次の情報を入力します。
  - \* 名前： \* このアクティビティに名前を付けます
  - \* 概要： \* オプションで概要を入力します
  - \* 展開 \* ドロップダウンから希望の展開を選択します
  - \* スクリプト： \* ドロップダウンからインストール（またはアンインストール）スクリプトを選択します。これは、クローンを作成してカスタマイズしたグローバルスクリプトまたは顧客スクリプトです。

- \* 引数：\* は空白のままにします
- \* 有効チェックボックス：\* チェックボックス
- \* イベントの種類：ドロップダウンから「手動」を選択します
- \* ターゲット・タイプ：「サーバ」ラジオ・ボタンを選択します
- \* 管理対象サーバ：このアンインストールを受け取る VM ごとにチェックボックスをオンにします

## スクリプト化されたイベントドキュメント - AVD スクリーンキャプチャ保護

### グローバルスクリプトの概要

NetApp VDS には、定義済みのスクリプト化イベントのライブラリが含まれています。これらのイベントは VDS 環境で直接使用したり、重複してカスタムのスクリプト化イベントのビルディングブロックとして使用したりできます。

このアプリケーションの場合、この記事では、インストール / 有効化およびアンインストール / 無効化の両方のアクションについて説明します。

### グローバルスクリプトの使用

このような組み込みのスクリプト化されたイベントは事前に入力されており、「グローバル」フィルタチェックボックスをオンにすると表示されます。

このようなグローバルスクリプトイベントは読み取り専用ですそのまま使用することも、「クローン」機能を使用して編集や使用のためにお客様のコピーを作成することもできます。

[ クローン ] ボタンは [ スクリプトイベント ] ページのアクションメニューにあります

[scriptlibrary.overview 2ccb2] | *scriptlibrary.overview-2ccb2.png*

### AVD 画面キャプチャ保護の概要

このスクリプトパッケージは、PowerShell で（関連する）コマンドを実行することにより、ネイティブの AVD feature\_screen capture protection\_ を有効または無効にします。

— 有効にします

「HKLM\SOFTWARE\Policies\Microsoft\Windows NT\Terminal Services」 /v fEnableScreenCaptureProtection/t REG\_DRE/d 1 を追加します

- 無効にします

「HKLM\SOFTWARE\Policies\Microsoft\Windows NT\Terminal Services」 /v fEnableScreenCaptureProtection/f を削除します

この AVD 機能に関する Microsoft のマニュアルは、次の URL から入手できます。 <https://docs.microsoft.com/en-us/azure/virtual-desktop/security-guide#session-host-security-best-practices>

[scriptlibrary.AVDScreenCaptureProtection 216a6] | *scriptlibrary.AVDScreenCaptureProtection-216a6.png*

手動アクティビティを追加します

リポジトリ内のスクリプトが何らかのアクションを実行するには 'そのスクリプトを選択したトリガに関連付けるアクティビティを作成する必要がありますこの例のアクティビティは 'VDS 管理者が手動でスクリプトをトリガしたときに実行されます

VDS スクリプト化されたイベントには 'Create Server など ' その他の多くのタイプのアクティビティトリガが用意されていますこれは 'Manual\_event タイプの代わりに使用できますCreate Server を使用すると 'VDS で新しく作成したすべての VM に対してこのスクリプトが実行されます\_ サーバの作成 \_ およびその他のトリガが文書化されており ' 調査できます "[こちらをご覧ください](#)".

アクティビティを作成し、このスクリプトをアクションにリンクするには：

1. VDS のスクリプトイベントセクションに移動します
2. [\_Activities\_Click ( \_ アクティビティ \_ を追加 \_ ) ] をクリックします
3. 開いたダイアログウィンドウで、次の情報を入力します。
  - \* 名前： \* このアクティビティに名前を付けます
  - \* 概要： \* オプションで概要を入力します
  - \* 展開 \* ドロップダウンから希望の展開を選択します
  - \* スクリプト： \* ドロップダウンからインストール（またはアンインストール）スクリプトを選択します。これは、クローンを作成してカスタマイズしたグローバルスクリプトまたは顧客スクリプトです。
  - \* 引数： \* は空白のままにします
  - \* 有効チェックボックス : \* チェックボックス
  - \* イベントの種類：ドロップダウンから「手動」を選択します
  - \* ターゲット・タイプ：「サーバ」ラジオ・ボタンを選択します
  - \* 管理対象サーバ：このアンインストールを受け取る VM ごとにチェックボックスをオンにします

## スクリプト化されたイベントドキュメント - Zoom VDI AVD

### グローバルスクリプトの概要

NetApp VDS には、定義済みのスクリプト化イベントのライブラリが含まれています。これらのイベントは VDS 環境で直接使用したり、重複してカスタムのスクリプト化イベントのビルディングブロックとして使用したりできます。

このアプリケーションの場合、この記事では、インストール / 有効化およびアンインストール / 無効化の両方のアクションについて説明します。

### グローバルスクリプトの使用

このような組み込みのスクリプト化されたイベントは事前に入力されており、「グローバル」フィルタチェックボックスをオンにすると表示されます。

このようなグローバルスクリプトイベントは読み取り専用ですそのまま使用することも、「クローン」機能を使用して編集や使用のためにお客様のコピーを作成することもできます。

[クローン] ボタンは「[スクリプトイベント] ページのアクションメニューにあります

[scriptlibrary.overview 2ccb2] | [scriptlibrary.overview-2ccb2.png](#)

## VDI/AVD の概要を拡大します

このスクリプトパッケージは、PowerShell を使用して導入を実行するために、\_Zoom VDI-AVD\_A をインストールまたはアンインストールします。



VDI/AVD 環境でオーディオリダイレクトも有効になっていると、ズームパフォーマンスが向上します。

デフォルトのショートカットパス

このアプリケーションのデフォルトのショートカットパスは以下のとおりですショートカットは '\\shortcuts\Zoom VDI.lnk' です

[アクティビティの追加] ダイアログウィンドウのスクリーンショット

[scriptlibrary.activity.InstallZoomVDI AVD] | [scriptlibrary.activity.InstallZoomVDI-AVD.png](#)

アプリケーションのインストール / アンインストールアクティビティを追加します

リポジトリ内のスクリプトが何らかのアクションを実行するには 'そのスクリプトを選択したトリガに関連付けるアクティビティを作成する必要がありますこの例のアクティビティでは、アプリケーションがワークスペースに追加された場合、またはワークスペースから削除された場合（VDS の \_Workspace > Applications\_page から）、このアプリケーションをインストール / アンインストールします。

VDS スクリプト化されたイベントには 'Create Server など' 他の多くのタイプのアクティビティトリガが用意されていますこのトリガは 'Application Install( または Application Uninstall) イベントタイプの代わりに使用できます\_ サーバの作成 \_ を使用すると 'VDS で新たに作成したすべての VM に対してこのアプリケーションのインストールが実行されます\_ サーバの作成 \_ およびその他のトリガが文書化されており' 調査できます "[こちらをご覧ください](#)"。



このアプリケーションは 'VDS アプリケーションライブラリに存在する必要がありますこれ "[セクション](#)。" RDS 記事のアプリエントタイトルメントでは、ライブラリにアプリを追加する方法について説明しています。

アクティビティを作成し、このスクリプトをアクションにリンクするには：

1. VDS のスクリプトイベントセクションに移動します
2. [\_Activities\_Click ( \_ アクティビティ \_ を追加 \_ ) ] をクリックします
3. 開いたダイアログウィンドウで、次の情報を入力します。
  - \* 名前： \* このアクティビティに名前を付けます
  - \* 概要： \* オプションで概要を入力します
  - \* 展開 \* ドロップダウンから希望の展開を選択します

- \* スクリプト：\* ドロップダウンからインストール（またはアンインストール）スクリプトを選択します。これは、クローンを作成してカスタマイズしたグローバルスクリプトまたは顧客スクリプトです。
- \* 引数：\* は空白のままにします
- \* 有効チェックボックス：\* チェックボックス
- \* イベントの種類：ドロップダウンから「Application Install」（アプリケーションのインストール）または「Application Uninstall」（アプリケーションのアンインストール）を選択します
- \* アプリケーション：\* ドロップダウンからこのアプリケーションを選択します
- \* ショートカットパス：\* このアプリケーションのデフォルトのショートカットパスを入力します（上記を参照）。

## 詳細設定

### FSLogix プロファイルの縮小

#### 概要

VDS には、プロファイルの縮小処理が組み込まれており、毎晩実行されます。5 GB 以上のファイルを保存できる場合、この自動化により、ユーザーのプロファイルの FSLogix コンテナが自動的に縮小されます。この自動化は、毎日午前 12 時 1 分に実行されます。5GB のしきい値は、CWMGR1 サーバに搭載されている DCCConfig で設定できます。

[Advanced.fslogix プロファイル縮小 ea982] | *Advanced.fslogix\_profile\_shrink-ea982.png*

## 著作権情報

Copyright © 2022 NetApp, Inc. All rights reserved. 米国で印刷されていますこのドキュメントは著作権によって保護されています。画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体などの機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。テープ媒体、または電子検索システムへの保管-著作権所有者の書面による事前承諾なし。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、いかなる場合でも、間接的、偶発的、特別、懲罰的、またはまたは結果的損害（代替品または代替サービスの調達、使用の損失、データ、利益、またはこれらに限定されないものを含みますが、これらに限定されません。）ただし、契約、厳格責任、または本ソフトウェアの使用に起因する不法行為（過失やその他を含む）のいずれであっても、かかる損害の可能性について知らされていた場合でも、責任の理論に基づいて発生します。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、またはその他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1 つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許により特許、その他の国の特許、および出願中の特許。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7103（1988 年 10 月）および FAR 52-227-19（1987 年 6 月）の Rights in Technical Data and Computer Software（技術データおよびコンピュータソフトウェアに関する諸権利）条項の（c）（1）（ii）項、に規定された制限が適用されます。

## 商標情報

NetApp、NetAppのロゴ、に記載されているマーク <http://www.netapp.com/TM> は、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。